

私の「街道トレイル&へんろトレイル」 スルーハイク遊学紀行総括編

[吉田松陰・日本廻国六十六部・童財善子]もどきの一气通貫歩き旅

[身の丈本分全う雲に乗った遊学紀行]

個別報告書補完メモ帳

2024(令和6)年9月

山形県山形市内在住(大沼^{かおる}香)

【Henro total-report No01】「スルーハイク遊学紀行」のこと

その1；後記のとおり、ここ15年間（61歳～75歳）で実施して来たスルーハイク遊学紀行歩き旅——全24件、正味実歩行距離15,692km、実歩行泊数512日間——については、『前半、街道トレイル』と『後半、へんろトレイル』に大きく分類し、別途個別に報告書を作成していますが、それらに係り、全般的・共通的、補完的な観点から整理したものです。

その2；そもそも歴史街道・歴史古道スルーハイク [吉田松陰・日本廻国六十六部・童財善子]もどき遊学紀行に目覚めた背景は以下のとおりです。

私は、今は廃校となった新庄工業高等学校電気過程を卒業した1968（昭和43）年、4月1日付けを以って、電気エネルギー産業の民間企業東北電力（株）に入社した、41年長勤務した2009（平成21）年6月に満60歳で定年退職した。2年6か月毎に職場を変わり、16個所の職場を経験し、住まいは自宅の他12個所に及び、家族共々では8個所の住み替えで転勤し、その間、技術部門から事務部門まで広範な職種に従事し、現場でのお客様に直接対峙・対応する仕事からバックヤードの管理部門まで多岐に亘りました。また、社内の人のみならず郷に従えで、地域を含め、数多の様々な人達と交流を図って来ました。

戦後の第1次ベビーブーム世代は「団塊の世代」としての会社生活は、高度成長期を経験し、仕事漬けの日々で、私の生活暦には休祭日はありませんでした。サービス労働という言葉はあったにせよ、休日なしの仕事をむしろ誇りに思いました。そうした中でのストレス解消は登山でした、当時はいわゆるピークハントでした。そして、還暦間近になったら『歳』ということでしょうか、歴史や神社・仏閣に自然と興味が湧いて来ました。関連する書籍を購入し読む中で、その中に登場する歴史上の人物に纏わる名所・旧跡を訪ねながらそれらを繋ぐ『歴史の街道・古道』を歩きたい、歩いて繋ぎたいと念ずるようになったのです。こういう事情が直接の切っ掛けとなりました。

その3；もの・ことには始めと終わりがあり、言葉には『阿吽』があります。私は仕事上においては起承転結できちんと収まらないと気が済まない性格でしたから、両端の基点（起点）間を一気通貫で繋ぐ——いわゆる「スルーハイク」に拘って取り組んで来ました。

私のいう『スルーハイク』とは、計画した『街道・古道』ルート全体において、その両端に現地スタート基点（客観的な始点・起点）と現地ゴール基点（客観的な終点・起点）を設定し、その間を次の3要件を以って一気通貫（連続の連日連泊歩行）で貫（完）歩する（した）歩き旅を言います。

- 1；その基点から基点までの区間ルート上で動力交通機関（乗り物）を使わない。
- 2；その基点から基点までの区間ルート上に歩かない空白部を設けない。
- 3；その基点から基点までの間にいかなる理由の休息日をも取らない。

当該□2の意味は、例えば図-1において、今日の行程上、つまり歩く距離と時間からJR線A駅まで歩き、そこで打ち切って、そこからかなり離れた場所の宿まで一時的にJR利用を図ったとしても、翌日は前日の終点A駅に戻って、そこから徒歩の再スタートを切ることです、そのようにしました。例えば、ルート上にB駅があったとしても、翌日は、A～B間を省略してB駅からスタートしたのでは^{N o n}ないということです。

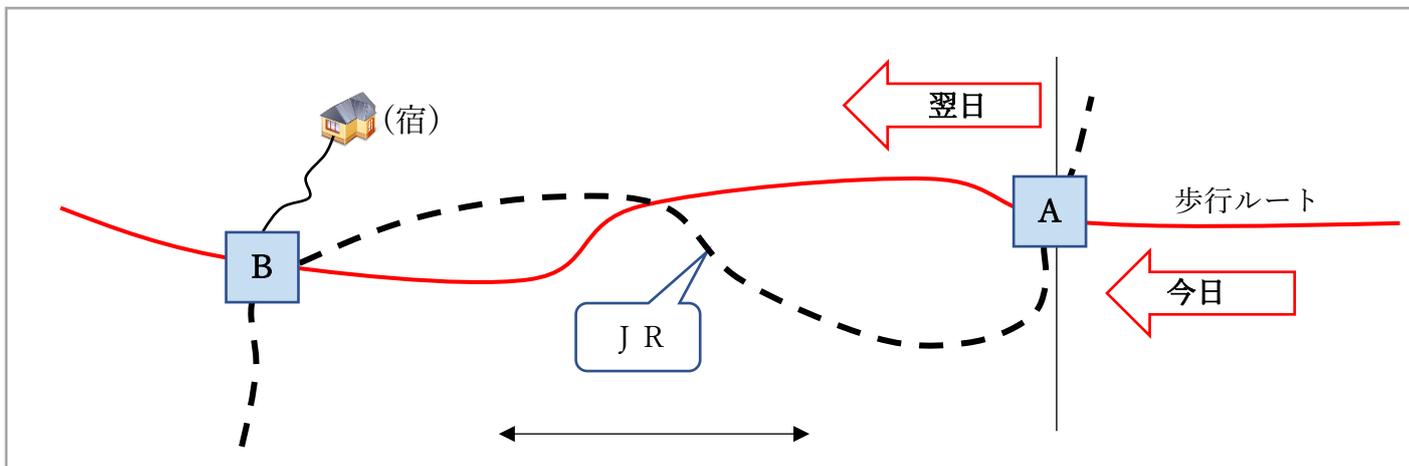


図-1

その4；「現地における基点から基点までの正味」という表現をする場合は、行き（往き）の自宅から現地スタート基点までの行程と、帰り（^{かえ}復り）の現地ゴール基点から帰宅までの行程は含んでいません。つまり、現地スタート基点から現地ゴール基点までの目的内徒歩行動に係る部分を指します。

.....

<留意点>

- ☑1；表題件名の構成は、次頁《目次》図(表)-2のとおりです。
- ☑2；図・図(表)はパート毎に付定・完結しています。
- ☑3；定年退職以降のものを整理したものです。本書（個別報告書）記載以外に北アルプス、立山連峰などの登山縦走も行っているが、これは参考的に別記しております。
- ☑4；人を指す「人、人間、相手、他人」の文字を多用しているが、もちろん、「私」を含んで使っています。

.....

《 目 次 》

図(表)－2		
題 目		頁
【Henro Total-report No01】「スルーハイク遊学紀行」のこと・目次		1－3
【 〃 No02 】 スルーハイク遊学紀行の 全貌	1. 全体集計	4－6
	2. 「前半、街道トレイル」の記録	7－11
	3. 「後半、へんろトレイル」の記録	12－20
	4. その他の歩き旅（参考）	21－26
【 〃 No03 】 歩くルートの決定と記録		27－31
【 〃 No04 】 へんろ順礼（へんろ <small>とそう</small> 抖擻行）の証		32－41
【 〃 No05 】	他に誇れる独自の取組み	42
	1. 『大香ブランド老魂 <small>だいこう</small> サブタイトル』 ^{RouCon} の設定	43－44
	2. 亡き家族供養に見える化	45－46
	3. 遊び心の験担ぎと縁起物 『聖水、アオキ葉』持参	47－53
	4. シンクレティズム具象化の自由白衣を持参	54－56
	5. 独自の御経を読誦・奉納	57－58
	6. 地元の社寺に仁義を切ったお参り	59－62
	7. 順番「貫中久」順礼	63
8. 「阿吽・起承転結」で円環成就		64－69
【 〃 No06 】 [松陰・六部・善財童子] もどきのこと		70－71
【 〃 No07 】 「遍路 <small>へんろ</small> 転がし」と長大札所問		72－80
【 〃 No08 】 「高野山 <small>ちやういし</small> 町石道」		81－84
【 〃 No09 】 二大霊場（四国 & 西国）一覧		85－89
【 〃 No10 】 歴史古道等利活用の 整備と誘客提案	(1) 山形県への提案	90－98
	(2) 発展的提案	99－102
	(3) 保全の在り方	103－105
【 〃 No11 】 お勧めの・一押しの歴史古道		106－112
【 〃 No12】 スルーハイク遊行中に浮かんだ替え歌		113－119
【 〃 No13】 スルーハイク遊行中に浮かんだ詩と短句		120－125
【 〃 No14】 むすび		126－127

共通的事項

「後半、へんろトレイル」に
主眼をおいた内容

(end)

【Henro total-report No02】 「スルーハイク遊学紀行」の全貌

以下のような取り組みが出来たことを幸運なことと嬉しく思っています。

2009(平成 21)年 6 月に私は 41 年長奉職した会社を定年退職しました、東日本大震災は 2 年近く後の 2011 年(平成 23 年)3 月 11 日(金)に発生したことから、業務中の被災は経験しませんでした。

そして、新型コロナウイルス感染症は 2020(令和 2)年 1 月 15 日(水)に確定診断がなされましたが、へんろトレイル最後の年 2019(令和元)年の翌年でした。

つまり、2010(平成 22)年から 2019(令和元)年までの丁度 10 年間は、私にとってはいわば無風状態でした。この間に好きな歩き旅トレイルを思う存分に楽しむことが出来ました。本当に良かったと心から喜んでいます。

【No02-1】 1. 全体集計

後期高齢者 75 歳突入 2024(R6)年現在の図(表)-1 のとおりである。

図(表)-1				
実施期間	年 齢	区間数	現地における 基点から基点までの正味	
			実歩行 累積距離数	連泊累積日数
【前半、街道トレイル】 2010(H22)年～2014(H26)年 (前半 5 年間)	61 歳～65 歳	1 4	6,952 km (31.4km/日)	221 日間
【後半、へんろトレイル】 2015(H27)年～2024(R6)年 (後半 10 年間)	66 歳～75 歳	1 0	8,594 km (30.0km/日)	291 日間
15 年間の総計	61 歳～75 歳	2 4	15,546km (30.6km/日)	512 日間

内訳は次頁以降に記述するが、全体の動きは図(表)-2 のとおり。

なお、横書きと縦書きを混在しており、縦書きの部分の時間推移は左から右へ移動する。

図(表) - 2 a

図(表) - 2 a										
	「前半、街道トレイル その1」					「後半、へんろトレイル その1」				
経過	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
年	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)(R元)
国の動き	<p>鳩山退陣、菅内閣が発足。参院選で民主小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還</p> <p>↓大敗</p>	<p>菅首相が条件付き退陣表明、3カ月続投</p> <p>東日本大震災、原発事故で甚大被害</p> <p>↓野田政権発足</p>	<p>山中教授にノーベル医学生理学賞</p> <p>第46回衆院選で自公圧勝、政権奪還</p>	<p>2020年夏季五輪・パラリンピック、</p> <p>参院選で自民圧勝、「ねじれ」解消</p> <p>↓東京開催決定</p>	<p>御嶽山が噴火、57人死亡6人不明</p> <p>衆院選で与党圧勝</p> <p>日本人3人にノーベル物理学賞</p>	<p>安全保障関連法が成立</p> <p>集団的自衛権の行使を可能にする</p>	<p>オバマ米大統領が歴史的な広島訪問</p> <p>天皇陛下、退位の意向示唆</p>	<p>森友・加計・日報、政権揺るがす</p> <p>自民大勝、民進が分裂</p> <p>天皇退位、2019年4月末衆院選で</p>	<p>西日本豪雨、北海道地震、災害相次ぐ</p> <p>オウム松本元死刑囚らの刑執行</p>	<p>消費税10%に、軽減税率導入</p> <p>↓時代が始まった</p> <p>天皇陛下は5月1日に即位され、令和の</p>
私の動き	<p>① 旧塩の道(秋葉古道)・・・途中リタイヤ</p> <p>② 旧山宮街道</p> <p>③ 大峰奥駈道</p> <p>④ 旧下田街道(+箱根神山)</p>	<p>⑤ 旧熊野古道(+旧西高野街道)</p> <p>⑥ ①a 旧日光道中(往復)</p> <p>⑦ ①b 旧中山道(+千日回峰行道)</p>	<p>⑧ ①c 旧甲州道中(2分割/下り)</p> <p>⑨ 旧塩の道(秋葉古道)・・・①リベンジ</p>	<p>⑩ ①d 旧東海道57次(+旧鳥羽・姫街道)</p> <p>⑪ ①e 旧奥州道中</p> <p>⑫ ①c 旧甲州道中(上り)</p>	<p>⑬ 旧北奥ルート</p> <p>⑭ 旧羽州街道</p>	<p>①A 四国 第1回目へんろ</p>	<p>(町内会の三役対応により不可)</p>	<p>①BC 四国 第2回目へんろ</p>	<p>①DEFG 長崎遊学 Zig zag 紀行</p> <p>①四国 第3回目へんろ</p>	<p>①四国 縦V横一 登山へんろ</p> <p>①H 西国三十三所観音霊場順(巡)礼</p>

図(表) - 2b

「後半、街道トレイル その2」									
経過	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目				
年	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)				
国の動き	菅首相誕生 新内閣発足 コロナ感染拡大 緊急事態宣言	岸田文雄氏 首相就任 第32回夏季五輪東京大会 (1年遅れ)	旧統一教会 政治問題化 安倍晋三・元首相が死亡	自民党裏金疑惑が表面化					
私の動き	コロナ禍 (巣籠)	コロナ禍 (巣籠)	西川町 「高清水通り」 調査活動	西川町 「高・清フレンドリー古道調査」 ↓活動 西川町 「高清水通り」 調査活動	①四国 第4回目へんろ 西川町 「高・清フレンドリー古道調査」 ↓活動				

(end)

【No02-2】 2. 「前半、街道トレイル」の記録

図(表)-3は、前半5年間の「人生修行道場ネットワーク・ライン その1」(歩行軌跡/図-4)を集計・抽出したものである。**大阪より東側日本を歩いた記録である。**

図(表)-3				
実施期間	年 齢	区間数	現地における基点から 基点までの正味	
			実歩行 累積距離数	連泊累積日数
2010(H22)年～2014(H26)年 (前半5年間) 春・夏・秋の3S	61歳～65歳	14	6,952 km (31.4km/日)	221 日泊

後記図(表)-5中、14区間の実践歴は、各区間において、現地に入り歩き始めのスタートを切ったら、最後の歩き終わりまでは、諸々の用事足しを含めて一切の動力交通機関は使っていない。その区間内はこの吾が足だけで歩点を繋いだものである。

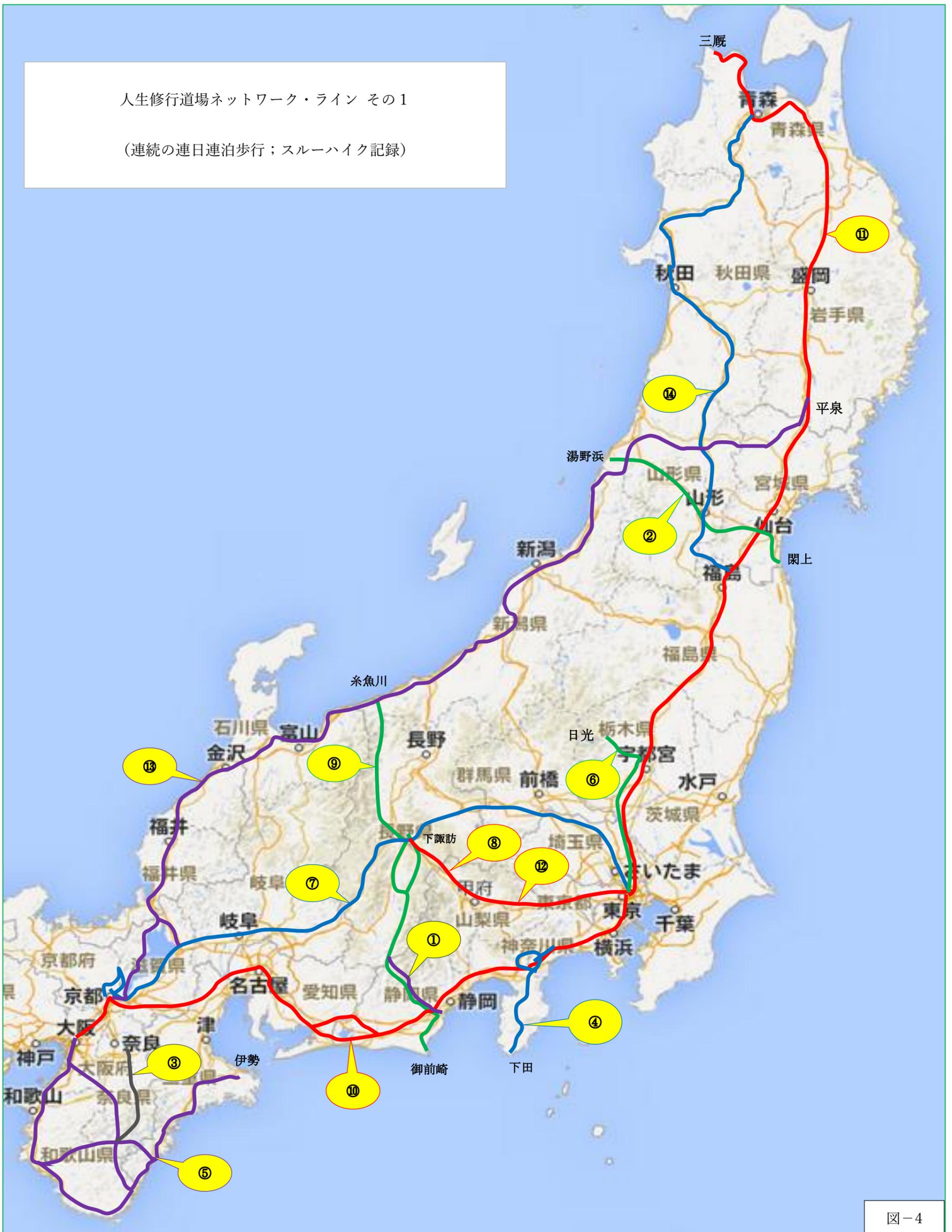


図-4

(注) 次頁以降の名称に『田』を冠したのは、廃道化した道を探求しつつ昔からの旧街道・古道を歩いたためである。

(注) 図(表)－5・6の通番は、前頁の「ネットワーク・ライン その1」(図-4)の番号と一致する。

図(表)－5									
私が実践したスルーハイク結果の「前半、街道トレイル」記録の内訳									
実施年	年齢	通番	スルーハイクの基本名称	始基点→終基点	実歩行距離		歩行のみの正味期間	歩行のみの正味日数	[大香ブランド老魂サブタイトル] (大言壮語の大義名分)
2010 (H22) 年	61	①	旧塩の道 (秋葉古道) : 途中リタイヤ	相良 ^{みさくぼ} →水窪	1 0 6	km	5/25(火)～5/28(金)	3 連泊 4 日間	[初挑戦－木っ端微塵の一つ星] (途中リタイヤ/後付け)
		②	旧山宮街道 ^{やまみや}	閑上 ^{ゆるあげ} →湯野浜	2 0 8	km	7/27(火)～8/2(月)	6 連泊 7 日間	[太平洋・日本海マリッジ大作戦] (日本第1運河開通)太平洋⇒日本海
		③	大峰奥駈道 ^{おくがけみち}	吉野→熊野	1 2 0	km	9/24(金)～9/29(水)	5 連泊 6 日間	[神変大菩薩(役行者小角)と同行二人]
		④	旧下田街道(+箱根神山)	下田→小田原	1 8 4	km	12/16(木)～ 12/25(土)	7 連泊 8 日間	[吉田松陰の義憤と共に護送を警護&外輪周回から生命 起源の奥底潜入]
2011 (H23) 年	62	⑤	旧熊野古道(+旧西高野街道)	伊勢→(全道)←天満橋	8 4 9	km	4/6(水)～5/5(木)	2 9 連泊 3 0 日間	[天照大御神・大日如来と私の天地人熊野巡拝行]
		⑥	㉑旧日光道中(往復)	日本橋⇔日光	2 8 8	km	6/14(火)～6/22(水)	8 連泊 9 日間	[徳川将軍家社参行列に特別参加]
		⑦	㉒旧中山道(+千日回峰行道)	日本橋→京都	7 0 7	km	11/1(火)～11/22(火)	2 1 連泊 2 2 日間	[和宮降嫁の尽忠報国(報告)1・2 ミッション&比叡山 千日回峰行道の讃仰体験]
2012 (H24) 年	63	⑧	㉓旧甲州道中(2分割/下り)	日本橋→大月 大月→下諏訪	2 4 7	km	7/25(水)～7/28(土) 8/21(火)～8/24(金)	3 連泊 3.5 日間 ”	[亡父同伴－錦旗奪還進軍作戦]
		⑨	旧塩の道 (秋葉古道) : ①リベンジ	糸魚川→御前崎	6 0 6	km	9/27(木)～10/16(火)	1 9 連泊 2 0 日間	[福島原発放射能汚染の太平洋浄化大作戦] (日本第2運河開通)日本海⇒太平洋
2013 (H25) 年	64	⑩	㉔旧東海道 57 次(+旧鳥羽・姫街道)	日本橋→高麗橋	8 1 0	km	5/1(水)～5/26(日)	2 5 連泊 2 6 日間	[日本大動脈眺望回廊高架建造大作戦]
		⑪	㉕旧奥州道中	日本橋 ^{みんなや} →三厩	9 4 3	km	9/4(水)～10/1(火)	2 7 連泊 2 8 日間	[蟻の一穴ブレークスルー東北縦断大作戦] (日本第3運河開通)東京湾⇒青森湾
		⑫	㉖旧甲州道中(上り)	下諏訪→日本橋	2 3 9	km	12/18(水)～ 12/24(火)	6 連泊 7 日間	[旧五街道舞台緞帳中締大作戦]
2014 (H26) 年	65	⑬	旧北奥ルート ^{ほくおう}	京都→平泉	1,088	km	6/15(日)～7/14(月)	2 9 連泊 3 0 日間	[源義経逃避行ルート上書き大作戦]
		⑭	旧羽州街道	桑折 ^{こおり} →油川	5 5 7	km	9/14(日)～9/30(火)	1 6 連泊 1 7 日間	[六十五ハート全開－奥羽両州連結大作戦] (日本第4運河開通)吾が地元⇒青森湾
総計	—	—	1 4 区間		6,952	km	—	2 2 1 日間	—

(注) 名称中の㉑～㉔は、江戸時代の五街道をいう。

図(表)－6

通番	スルーハイクの基本名称	特筆事項
①	旧塩の道（秋葉古道） ：途中リタイヤ	太平洋から日本海を目指して最初の旧街道スルーハイクの挑戦であったが、想定外の靴ずれで足の炎症激しく、静岡県浜松市水窪町で打ち切った。しかし、この取り組みがスルーハイクの先駆けとなった事からここに取り上げている。なお、道筋は書籍本に記述のイラストマップを頼りに歩いたが、道の特定に迷い時間ロスが大きかった、国土地理院地形図でなければならぬと痛感した。
②	旧山宮街道	太平洋岸の宮城県閑上で海水を背負い、日本海岸は山形県湯野浜まで歩き通し、そこに注ぐという初めての挑戦を成就。スタート地で泊まった閑上は、宿はもちろん全域が、翌年に発生した東日本大震災で、津波にすっかり飲み込まれてしまった。初めての計画どおりのスルーハイクとなり、その醍醐味を味わい、今後への希望と夢が膨らんだ。旧「六十里越街道」のスルーハイクでもあった。
③	<small>おくがけみち</small> 大峰奥駈道	地元のある方から「山岳抖藪の実践行となれば『 <small>えんの</small> 役行者・ <small>えんのおづね</small> 役小角』だ!』と言われて取り組んだもの。ユネスコ世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』（2004年・平成16年7月登録）の一部。アップダウン・起伏が激しく、山伏修行に相応しいルートであった。携帯電話の圏外が3日間も続くほど山奥で、また、主脈道沿いに水場がなく一番不安な山道であった。
④	旧下田街道(+箱根神山)	私が若い頃から、生き方に共感を覚えた吉田松陰の足跡を辿りたかった。下田に着いた当日から翌日午前にかけて、下田の松陰ゆかりの旧跡を訪ねた。引き続き下田スート、小田原まで歩いた後の終盤に芦ノ湖外輪の峰々を2日間で一周、眼前の富士山の大展望を毎日満喫した。箱根山の最高峰神山の山頂(1438m)は猛吹雪であったが、霧氷の美しさに感動した。
⑤	旧熊野古道(+旧西高野街道)	3.11 東日本大震災、全て自粛ムードの中で悩んだが、むしろ人々の供養・慰霊の旅として決行した。前記③大峰奥駈道の踏査を踏まえ、熊野三所権現を繋ぐ道そのものが世界遺産で、東の基点は伊勢神宮、西の基点を大阪天満橋とし、同遺産に登録されているほぼ全てのルートを歩いた。今に生きている神仏習合の一大聖地、 <small>くじゅうく</small> 九十九王子といわれる大小の社寺が連なっていて佇んでいた。 前回までの紙ベース地図は一切携行せず、この時に初めてGPS機器（ガーミン社製オレゴン450）を携帯した。計画ルートの電子化および結果の電子記録に、総合的にとても高い有用性を感じた。
⑥	④旧日光道中(往復)	旧五街道の全ての踏破に向け、同道を整備した徳川家康が奉られている日光へ歩く事を第一歩とした。帰りは、脇往還の <small>みぶ</small> 壬生通りと <small>おなりみち</small> 御成道を繋ぎ、結果、往復した。杉大木の並木ロードは今も健在で圧巻であった。
⑦	⑤旧中山道(+千日回峰行道)	江戸時代末期公武合体の政略結婚に翻弄された皇女和宮が、十四代将軍・徳川家茂への降嫁の旅ルートであり、悠久の趣が濃く、変化に富んだ街道であった。奈良井・妻籠・馬籠は江戸時代を特徴付ける出桁造りの建物に大勢の観光客。終盤は、比叡山から京都市内一周を含む千日回峰行道の一つを踏査した。京都府の世界遺産 17個所中11個所に立ち寄った。
⑧	⑥旧甲州道中（2分割／下り）	父は2006(平成18)年8月24日(木)に満78歳の生涯を閉じたが、この「24」の数字に拘って、敢えて2回に分割して歩いた。スタート前日の2012(平成24)年7月24日(火)の午前中は地元山形で亡父の7回忌の法事を行い東京に移動した。2回目のゴール日を1か月後の8月24日(金)に設定した。 前半は梅雨明け後、後半は残暑の中、前後毎日が蒸し暑い猛暑日、しかし、亡父の苦勞に比べれば取るに足りないことと肝に銘じ歯を食いしばって歩いた。
⑨	旧塩の道（秋葉古道） ：リベンジ	前記①のリベンジ。3.11 東日本大震災翌年、自粛ムードが続く中、原発推進に係った一人として現職時代の贖罪を晴らすべく、この時は日本海から太平洋を目指した。旧千国街道・旧伊那街道・旧高遠街道・旧秋葉街道を結んだ。火伏の神三尺坊大権現を祀る秋葉山を目指した信仰の道でもあり、とにかく、歴史的文化財の石碑・石塔の多い街道であった。
⑩	⑦旧東海道57次 (+旧鳥羽・姫街道)	街道歩きを目指す誰もが憧れるまさに京阪を貫く大動脈ルート。ただ、現代においては、殆どが舗装された道であったが、随所に現れた富士山の雄姿を堪能させて貰った。日本橋から京都の基点三条大橋(53次)へ、そして、さらに歩き続け大阪の基点高麗橋まで(57次)を繋いだ。
⑪	⑧旧奥州道中	いよいよ東北に目を向けて、本流・大道といえ、この道だろう。青森県は浅虫温泉の宿に東京湾海水を入れたペットボトルを置き忘れた時の、ある方の送り迎えに格別のお世話(日曜日の早朝6時30分頃)を頂いた。色んな人からの声掛けと差し入れを沢山頂戴した。台風18号の直撃を受けた豪雨の中を歩き、前半は雨で後半は晴れと大きく2分となった。
⑫	⑥旧甲州道中(上り)	旧五街道歩きを一旦閉じる事とし、この行為を中締めとし、前回と逆向きの下諏訪から日本橋に向けて歩いた。最終日24日(火)も朝から快晴となったクリスマスイブ、東京都心(東京駅前、皇居、その周辺、銀座)の飾りと人々の往来の喧噪感と華やかさに感涙した。皇居前の警察官がカメラシャッターオンを笑顔で応えてくれた。
⑬	<small>ほくおう</small> 旧北奥ルート	源義経の北國落ちのルートを辿った。「義経記、源平盛衰記」等に出て来る地名・関所、名所・旧跡、神社・仏閣など、いわゆるゆかりの地に沢山出合った。歌舞伎の勧進帳が頭を離れなかった。一番ハラハラした事は、台風8号の影響で、時々強い雷雨に見舞われ、中でも7月10日(木)の山形県庄内町清川から新庄市本合海までの国道47号線沿い最上川は路面下1メートルまで増水していた。
⑭	旧羽州街道	吾が居住地の山形を通る旧街道に付き、締め括りにする事を当初から狙っていた。導分けの神「猿田彦大神」との縁起を強く感じた。実りの秋の豊かさ(お米&りんご)を満喫した。秋田市の千秋公園と弘前市の弘前公園は、日本庭園の拡大版の感があり、とても素晴らしかった。吾が地元山形市内霞城公園にも計画的な松の植樹を山形市に提案した。秋田県において、翌年からの四国へんろ旅トリガーとなった児玉さんと初めて知り合った。

図-7は、前記「⑭旧羽州街道」を終えた後、すなわち、この「前半、街道トレイル」完遂後の翌年、2015(平成27)年1月に地元山形新聞の取材を受け、報道された状況である。

歴史街道7000キロ歩く

山形・大沼さん 定年後、楽しみながら

2015(平成27)年1月21日(水)

山形新聞



これまでの街道歩きについて語る大沼さん

山形市・山形メディアタワー

山形市上桜田3丁目の大沼香さん(65)は6年前の定年を機に、本州の歴史街道を歩く旅を楽しんでいる。衛星利用測位システム(GPS)を操り、史実に基づく「正規ルート」にこだわり踏破。これまでに青森〜大阪間の31街道、約7千キロを歩き「好奇心はまだまだ尽きない」と意欲旺盛だ。

GPS操り、やぶ中を通ることも

「好奇心はまだ尽きぬ」

大沼さんは定年を迎える直前、書店で偶然手にした本で歴史街道を歩き通す旅に触れてロマンを感じ、「いつか自分も」という思いを温めていた。42年間勤めた会社を退職後、本格的に計画を進め、2010年に挑戦を開始した。

東海道や奥州道中など五街道をはじめ、福島と青森を結ぶ羽州街道、熊野古道などの各ルートに、1日も休まず歩く「スルーハイック」で挑んだ。重複した街道や数本を組み合わせたコースもあり、5年間で挑んだ区間は14。最長距離は京都と岩手・平泉を結ぶ1088キロで、民宿などを利用しながら30日間を歩き通

した。「昔の人たちが実際に使っていた道を歩きたい」と、さまざまな資料を調べ、大まかな道筋をGPS機に入力して携行。舗装された道だけでなく、やぶをかき分けて進み、迷うこともあったが「冒険したい気持ちが強くて、困ったとは思わなかった」という。現地の人たちとの出会いも大沼さんを力づけた。

「ただ進むだけではつまらない」と、楽しみながら歩く工夫も。宮城の閑上から湯野浜を目指した旅では、スタート地点でくみ取った海水をゴールに注ぎ、「仲人」として太平洋と日本海を「結婚」させるなど、街道に関わる架空の物語を想像。任務を遂行する主人公になりきり、険しい道のりも乗り越えた。

今後は四国八十八カ所霊場や、出羽百観音霊場巡りを計画中という。「常に向上心を持ち続けたい」と、これからの挑戦に期待を膨らませている。

図-7

3. 「後半、へんろトレイル」の記録

後半 10 年間の実践状況は図(表)－8 のとおりである。

「人生修行道場ネットワーク・ライン その2」(歩行軌跡図－9) は、大阪より西側日本を歩いた記録である。

図(表)－8					
実施期間		年 齢	区間数	現地における基点から 基点までの正味	
				実歩行 累積距離数	連泊累積日数
10 年 間	2015(H27)年～2019(R元)年 (後半5年間・その1) 実質は暦5年中の4年間	66歳～70歳	9	7,003 km (30.32km/日)	231 日間
	2020(R2)年～2024(R6)年 (その後5年間・その2) 実質は暦5年中の1年間	71歳～75歳	1	1,591 km (26.52km/日)	60 日間
	計	66歳～75歳	10	8,594 km	291 日間

後記図(表)－10 中の 10 区間の実践歴は、各区間において、現地に入り歩き始めのスタートを切ったら、最後の歩き終わりまでは、諸々の用事足しを含めて一切の動力交通機関は使っていない。その区間内はこの足だけで歩点を繋いだ。

その2は、コロナ禍等により行動抑制、71歳～75歳は4回目四国へんろのみの実績である。

2015(H27)年<66歳> ~ 2024(R6)年<75歳>までの10年間の記録

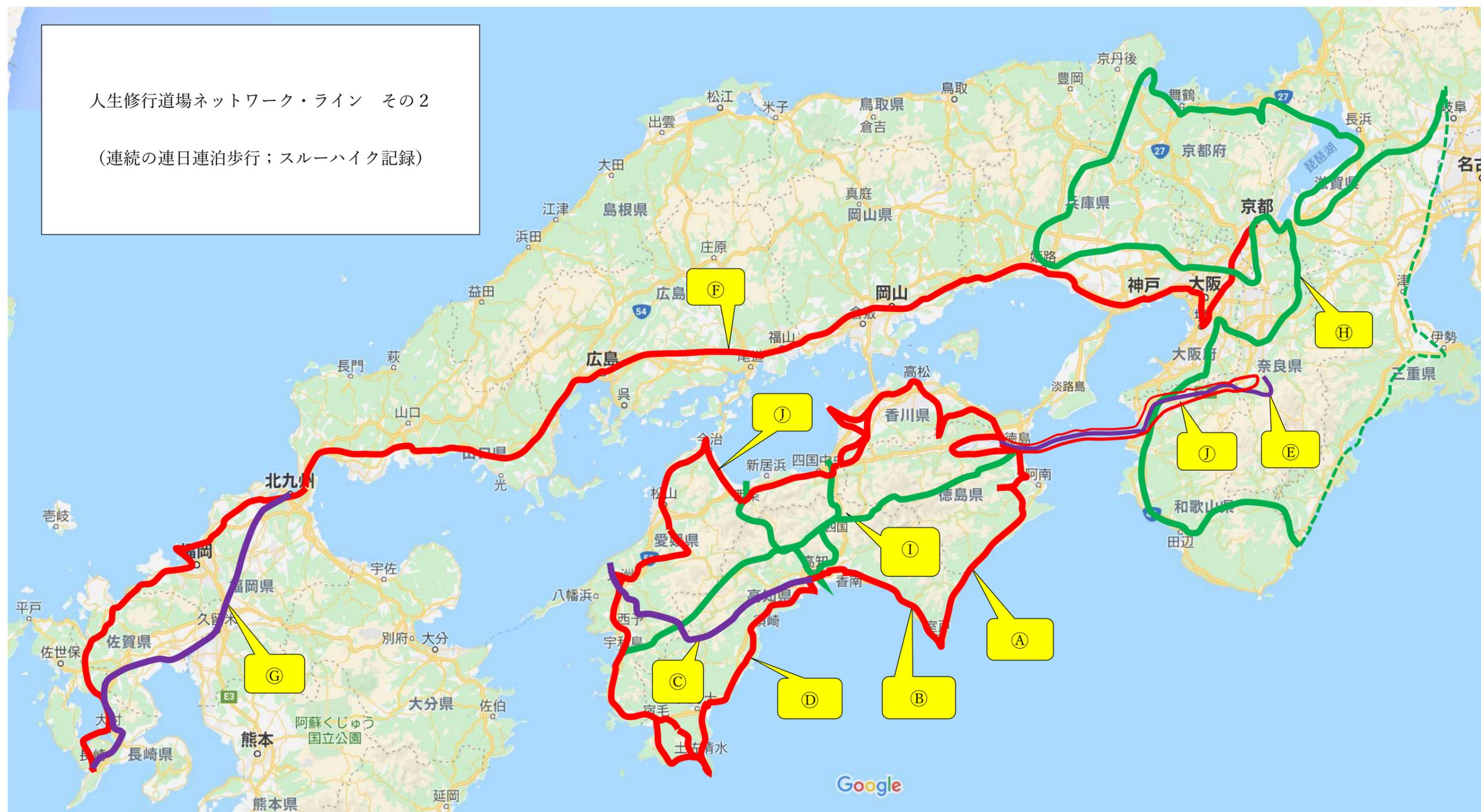


図-9a

(注1) 吹き出し内の英文字は、次ページ以降、図(表)内表記と一致する。
(注2) 図-9aに対応するGPSトラックログ(歩行足跡)について次頁図-9bに抽出した。

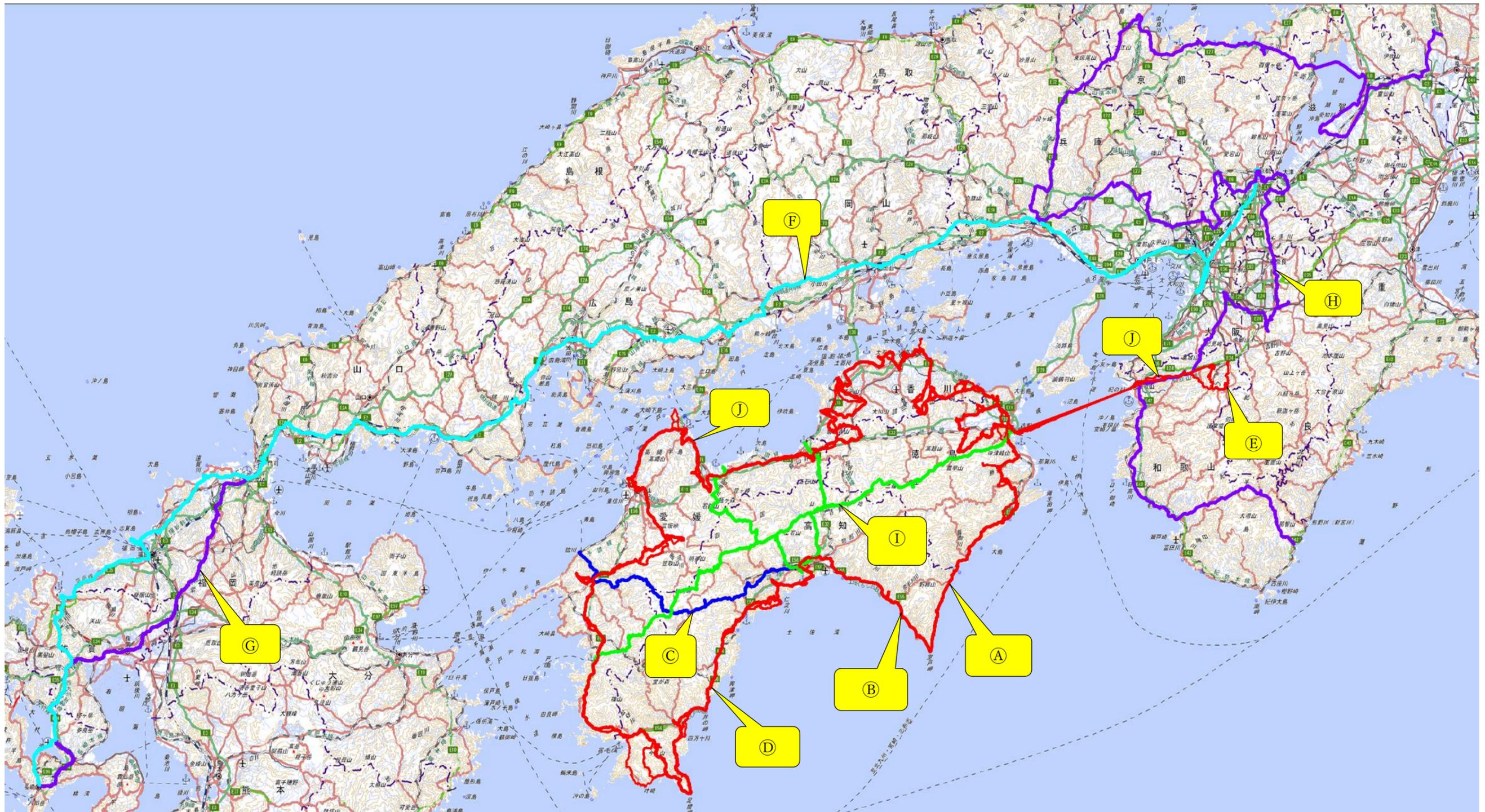


図-9b

図(表)-10~12は前記「人生修行道場ネットワーク・ライン その2」の内訳である。

図(表)－10

私が実践したスルーハイイク結果の「後半、へんろトレイル その1」記録

実施年	年齢	スルーハイイクの基本名称			始基点→終基点	実歩行距離	歩行のみの正味期間	歩行のみの正味日数	[大香ブランド老魂サブタイトル] (大言壮語の大義名分)
		大括り	通番	ルート件名					
2015 (H27)年	66	四国 第1回目へんろ	㊸	四国内へんろ道	通し・順打ち (108 か寺霊場) { 1番 → 88番 → 1番 } (周回) { 別格 20 霊場差込 }	1,446 km	4/1(水)~5/13(水)	42 連泊 43 日間	[四国 108 霊場一筆書き & 霊土採取大作戦]
この 2016 (H28) 年も歩き旅を行いたかったが、町内会 (自治会) の三役対応により不可となりました。									
2017 (H29)年	68	四国 第2回目へんろ	㊹	四国内へんろ道	通し・逆打ち (88 か寺霊場) 88番 → 1番 → 88番 (周回)	1,262 km	4/4(火)~5/14(日)	(40 連泊)41 日間	[四国 88 霊場一筆書きの逆打ち & 岬巡り大作戦]
			㊺	坂本龍馬脱藩の道	高知→伊予長浜	178 km	(引き続き) ~ 5/21 (日)	(5 連泊) 6 日間	
2018 (H30)年	69	四国 第3回目へんろ	㊻	小計	----	1,440 km	----	46 連泊 47 日間	[無限無窮(6869;むげんむきゅう) 再活大作戦]
			㊼	四国内へんろ道	通し・順打ち (88 か寺霊場) 1番 → 88番 → 1番 (周回)	1,199 km	4/3(火)~5/16(水)	(43 連泊)44 日間	
		㊽	高野山への道	1番 → 徳島港 → (ここはフェリー) → 和歌山港 → 高野山 → (橋本)	123 km	(引き続き) ~ 5/21 (月)	(4 連泊) 5 日間		
		㊾	小計	----	1,322 km	----	48 連泊 49 日間		
2019(H31~ R元)年	70	長崎遊学 Zigzag 紀行	㊿	長崎への道	京都 → 長崎 (日本二十六聖人殉教の道)	910 km	10/7(日)~11/2(金)	26 連泊 27 日間	[ちょうちんフットライト (footlights) 大作戦]
				(長崎界限散策)	----	----	11/3(土)~11/4(日)	----	
			㊽	旧長崎街道	長崎 → 小倉	234 km	11/5(月)~11/11(日)	6 連泊 7 日間	
			小計	----	1,144 km	----	(32 連泊)34 日間		
		㊿	西国三十三所観音霊場順(巡)礼	1番 → 33番(・・・ → 1番)(※)	1,071 km	4/2(火)~5/7(火)	35 連泊 36 日間	[西国へんろハート作図 -両眼 (両面眼力) 培養大作戦]	
2019 (R元)年	70	㊿	四国 縦V横一登山へんろ	たてV 東予港 → 高知港 → 川之江港 よこいち 横一 宇和島港 → 徳島港	580 km	10/15(火)~11/5(火)	21 連泊 22 日間	[冠カップ・メトロノーム作造大作戦]	
総計	---	---		10 区間	7,003 km	----	231 日間	-----	

(※) ㊿33 番華厳寺で満願後、伊勢神宮 (内外宮)、ならびに長野善光寺に移動して参拝した。

図(表) - 11

通番	スルーハイクの基本名称	特筆事項
①	四国内へんろ道 <四国 第1回目へんろ>	過去5年間の歴史街道スルーハイク旅を一つの区切とした時に、次の5年間の取り組みの一番目に挙げたのが四国へんろである。事前調査の中で、「本札88か寺霊場」に加え、「別格20か寺霊場」を知り、計108か寺霊場がネットワーク化されていることに気付いた。そこで初めての四国へんろ挑戦だが、108か寺霊場“順打ち”へんろを実践した。無我夢中だったが雰囲気そのものに魅了されてしまった。次の所期の目標(8点)を全て完遂した。①四国四県のランドマーク(県庁と県庁所在地市役所と同地のJR中央駅)に立ち寄る。②全て歩き切る(宿へも含めてスタートからゴールまで一切の動力は使っていない)。③歩行軌跡を一筆書き(1番から最後まで番号順に、ルート足跡を交差させない)する。④歩行軌跡を閉局(別格20か寺を差込、本札1番→88番→1番)する。⑤全札所108か寺本堂前から採土する。⑥真水(菩提寺は石行寺の神滝)とアオキ葉(吾が庭のもの)を背負う。⑦荷物を背負い切る。(参拝時も背負う、預けない)⑧アルコール類を一切摂取しない。
②	四国内へんろ道 <四国 第2回目へんろ>	本札88か寺霊場“逆打ち”へんろ(88番→1番→88番)を実践した。次善のねらいとして「四国出っ張りの岬攻め」を敢行した。四国の地形において、西端には③佐多岬、東端には④蒲生田岬、南側で⑤足摺岬(南端)と⑥室戸岬(準南端)、北側では⑦竹居観音岬(北端)と⑧大角鼻岬(準北端)であるが、③④は前年自家用車で踏査済、今回は残りの⑤～⑧の4箇所を踏査して来た。1回目と同じへんろ道を通ることが多かったが、向きが変わるとがらりと風景が変わり、初めてのよな感覚になりとても新鮮であった。
③	坂本龍馬脱藩の道	江戸時代幕末の幕藩体制の崩壊から明治初頭にかかる激動の中で、若い命を賭して短い生涯を終えた若き志士達の活躍には感動せざるを得ない。中でも長州の吉田松陰と土佐の坂本龍馬の生き方に感銘を受けている。龍馬が脱藩した時に駆け抜けた道(旧街道)が気になっていたことから、上記③へんろの全てを終えた後、高知市に移動した。そこから龍馬との共歩きを観想しながら伊予長浜まで歩いた。へんろ道とは違い、一部に、殆ど歩かれていないと思われる所や倒木やザレ道となっている所もあり、やがては廃道化してしまうのだろうと案じながら歩いた。
④	四国内へんろ道 <四国 第3回目へんろ>	過去のへんろ2回の偶数(陰)で終わるのは、どこかに中途半端を感じたことから3度目のへんろ。本札88か寺霊場を“順打ち”へんろ(1番→88番→1番)を実践した。過去2回は納経帳に御朱印を貰ったが、今回は納経軸(掛け軸)を背負いこれに御朱印を貰った。4県の「一の宮神社」——大麻比古神社(阿波・徳島県)、土佐神社(土佐・高知県)、別宮大山祇神社(伊予・愛媛県)、田村神社(讃岐・香川県)——にも立ち寄り参拝し御朱印を貰った。靴の交換、整形外科受診、眼鏡紛失のハプニングに遭遇した。
⑤	高野山への道	上記「④3回目の四国へんろ」の結願後、お礼参りとして高野山に参詣するのが習わしとなっている。上記⑤へんろは1番に戻って全てを終え、引き続き高野山を目指した。1番→(歩き)→徳島港→(フェリー)→和歌山港→(歩き/旧大和街道&町石道)→高野山までの4泊5日間の行程となった。へんろスタートから49日目の5月21日(月)、奥の院大師御廟に参拝した。お大師様が山麓の母のために通ったという憧れの“町石道”は素晴らしい古道であった。
⑥	長崎への道 (日本二十六聖人殉教の道)	「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録を知り、「日本二十六聖人」のことに触れ、その人達が歩いた「長崎への道」を知った。居ても立っても居られなくなり、まずは妻と長崎へ行って来た。「日本二十六聖人記念碑(ブロンズ像)・同記念館」や「信徒発見」奇跡の地—大浦天主堂などを訪ねたらどうしても二十六聖人が歩いた京都から長崎までの殉教道をスルーハイクしたくなり、その2週間後に敢行した。キリスト教徒が残酷な仕打ちを受けた歴史を学んだ。 広島通過時には平和記念公園、長崎の地では平和公園に立ち寄り、「折り鶴(作詞・作曲者は梅原司平さん)」を歌って奉納し、慰霊・鎮魂のまことを捧げた。
⑦	旧長崎街道	上記「⑥長崎への道」を終え、自宅への方向として、本街道を歩くこととした。九州における初めての歴史街道・歴史古道スルーハイクであり、小倉で「⑥長崎への道」に合流し終えた。格別困難な場所はなかった。長崎は江戸時代における鎖国体制下の唯一の開港だったことから京阪、江戸との人・物の交流の道であった。それ故に名立たる・著名な歴史上の人物(シーボルト、吉田松陰、坂本龍馬、西郷隆盛、乃木希典、伊能忠敬・・・)が往来した。
⑧	西国三十三所観音霊場 順礼	2019年は平成から令和への改元の年、節目の年である。どこを当てるか思案中に“やはり”となったのが、観音巡礼の原形、吾が国最古の巡礼道場と言われる「西国三十三か寺観音霊場」である。寺院の伽藍(建物)は巨大なものばかりであった。5月1日の改元の当日は、福井県小浜市区域の日本海沿岸を歩いた。記念に平成最後の宿と令和最初の宿の女将さんから御朱印としての自署(サイン)を白衣に貰った。納経軸(掛け軸)を背負い、各寺から御朱印を貰った。1番から順打ちし33番で満願、その後伊勢神宮(外宮)まで電車移動、外宮から内宮まで歩き、内宮から那智勝浦まで電車移動した。そこから再度1番青岸渡寺まで歩き、円環成就を以って大満願を果たした。さらにバスと電車を繋ぎ長野県長野善光寺にお礼参りの参拝、ここに全てを終了した。
⑨	四国 縦V横一 登山へんろ	これは四度目の四国入り。過去3回の四国歩きへんろにおいて、チャンスを覗いていたが、天候不順に付き断念していたもの。1つ目は石鎚山、2つ目は旧土佐北街道(参勤交代北山道)、3つ目は四国カルスト台地、4つ目は剣山の登山をメインとした。また、次の5箇所の港の潮水(海水)を汲み上げて、地元から背負った真水に混合した。瀬戸内海側の東予港と川之江港、太平洋側の高知港、西の宇和島港(豊後水道接)ならびに東の徳島港(紀伊水道接)からである。旧土佐北街道山中の土砂大崩落地への挑戦においては、吾が身から湧き出るフロンティア・スピリットと、ルート・ファイティングの醍醐味を味わった。

図(表)－12

私が実践したスルーハイイク結果の「後半、へんろトレイル その2」記録												
実施年	年齢	スルーハイイクの基本名称			始基点→終基点	実歩行距離	歩行のみの正味期間	歩行のみの正味日数	[大香ブランド老魂サブタイトル] (大言壮語の大義名分)	参考とし、スルーハイイク遊学紀行にはカウントしない。		
		大括り	通番	ルート件名								
2020 (R2)年 ～ 2021 (R3)年	71 ～ 72	コロナ禍 (巣籠)										
2022 (R4)年	73	西川町「高清水通り」調査活動			2022 (令和4)年6月26日(日)初調査 ～ 報告発表 2023(令和5)年3月12日(日)於西川町交流センター							
2023 (R5)年	74	西川町「高・清フレンドリー古道調査」活動			2023 (令和5)年7月/31日(月)発調査 ～ 報告発表 2024 (令和6)年1月28日(日)於西川町交流センター							
2024 (R6)年	75	四国 第4回目へんろ	①	四国内へんろ道	通し・順打ち (108 か寺霊場 88番→1番→88番 } (周回) 別格 20 霊場差込	1,424 km	4/10(水)～6/11(火)	現地対応は 62 連泊 63 日目間 実質は 3 日間滞留に付き 59 連泊 60 日間	[終息前夜祭 四国へんろ逆順大作戦]			
				高野山往復							1番→高野山→1番 徳島港～和歌山港間はフェリー	167 km
				小計							----	1,591 km
総計	---	---	1 区間			1,591 km	----	60 日間	-----			

① 四国内へんろ道
<四国 第4回目へんろ>

75歳にして行った今回の遊学紀行・スルーハイイク歩き旅は、70歳2019(R元)年「四国 縦V横一 登山へんろ」以来5年ぶり、四国へんろとしては69歳2018(H30)年3回目へんろ以来6年ぶりの取組みとなった。同じ108か寺対象の1回目四国へんろ66歳2015(平成27)年においては43日間で回ったが、今回は54日間で要し11日間も上回った。今回は逆打ちで先回の順打ちとは異なるといえども日数が掛り過ぎという思いである。9(75-66)年間経過したが、体力・スタミナの衰えは感じなかったものの、靴擦れを患った時の気持ちの向き合いで問題を感じた、1回目の時とは異なり、慎重といふか何か弱気を感じた。ただ、時間を要した分だけ、ゆとりを持って境内観察を行うことができ、また、行き交う多くのへんろ仲間と、ハイイク途中で、宿で思う存分会話・対話することが出来た。また、この四国へんろの報告とお礼参りに高野山を往復したが、75歳の誕生日をその高野山の中核部で迎えることが出来たのは有意義であった。

以下の図(表)－13・14は、4回分四国へんろのみを抽出したものである。

4回に渡った四国へんろ対応（4周回分）

※；1回とは、1度のへんろ旅で対象の全札所（108か寺、または88か寺）を打った（巡礼した）ことをいう。したがって、4回とは、別年毎に4周回したものであり、全札所を打つ1周分を4回に分けた、あるいは、1周するのに4年掛かったということではない。

	項目	日程	door-to-door 全日数	現地対応日数	四国内札所のみ（108 or 88）対応を抽出															
					日数	合計距離	1日当り距離	時間	平均時速											
1 回目	百八・順打ち	6 6 歳	前行程	自宅発 高野山に挨拶 移動日	2015（平成27）年 3月30日(月) 3月31日(火)	47日間	43日	43日	1,446km	33.6km	9時間42分	3.5km/h								
			本番行程	現地 108か寺参拝	4月1日(水)～5月13日(水)															
			後行程	高野山に報告 自宅着	5月14日(木) 5月15日(金)															
			備考	意を決して初めての四国スルーハイクへんろ、初回ながら欲張って本札88か寺と別格20か寺の計108か寺を通し・順打ちで参拝した。88番から1番に大坂越で戻った。																
2 回目	八十八・逆打ち	6 8 歳	前行程	自宅発	2017（平成29）年 4月3日(月)	49日間	47日	41日	1,262km	31.2km	8時間55分	3.3km/h								
			本番行程	現地 88か寺参拝	4月4日(火)～5月14日(日)															
			(特別行脚)	「坂本龍馬脱藩 の道」ウォーク	5月16日(火)～5月21日(日)															
			後行程	自宅着	5月22日(月)															
			備考	本札88か寺のみの通し・逆打ちに挑戦、札打ち終了後、1番から88番に大坂越で戻った。5月15日(月)の移動日において、「坂本龍馬脱藩の道」トレイルを敢行した。																
3 回目 四国 へんろ	八十八・順打ち	6 9 歳	前行程	自宅発	2018（平成30）年 4月2日(月)	51日間	49.5日	44日	1,199km	27.3km	8時間36分	3.2km/h								
			本番行程	現地 88か寺参拝	4月3日(水)～5月16日(水)															
			(特別行脚)	高野山参り	5月17日(木)～5月21日(月) 5月22日(火)の午前															
			後行程	自宅着	5月22日(火)の午後															
			備考	本札88か寺のみの通し・順打ち、88番から1番に戻り、引き続き高野山奥の院まで歩いた。																
4 回目	百八・逆打ち	7 5 歳	前行程	自宅発	2024（令和6）年 4月9日(火)	65日間	63日間	60日	1424km	26.4km	8時間22分	3.1km/h								
			本番行程	現地 108か寺参拝 高野山往復 1番→88番	4月10日(水)～6月2日(日) 6月3日(月)～6月9日(日) 6月10日(月)～6月11日(火)															
			後行程	自宅着	6月12日(水)															
			(註) 現地63日中、内3日間は滞留日に付き、実質の現地対応は60日間																	
			備考	本札88か寺と別格20か寺の計108か寺の通し・逆打ち、1番で満願後、高野山奥の院まで歩きにより往復し、四国に戻り、引き続き88番に戻った。																
総計	---	---	---	212日間	202.5日	188日	5,331km	---	---	---										

四国へんろのみ（4回分重畳）を抽出
 ~GPSトラックログ（足跡軌跡図）~

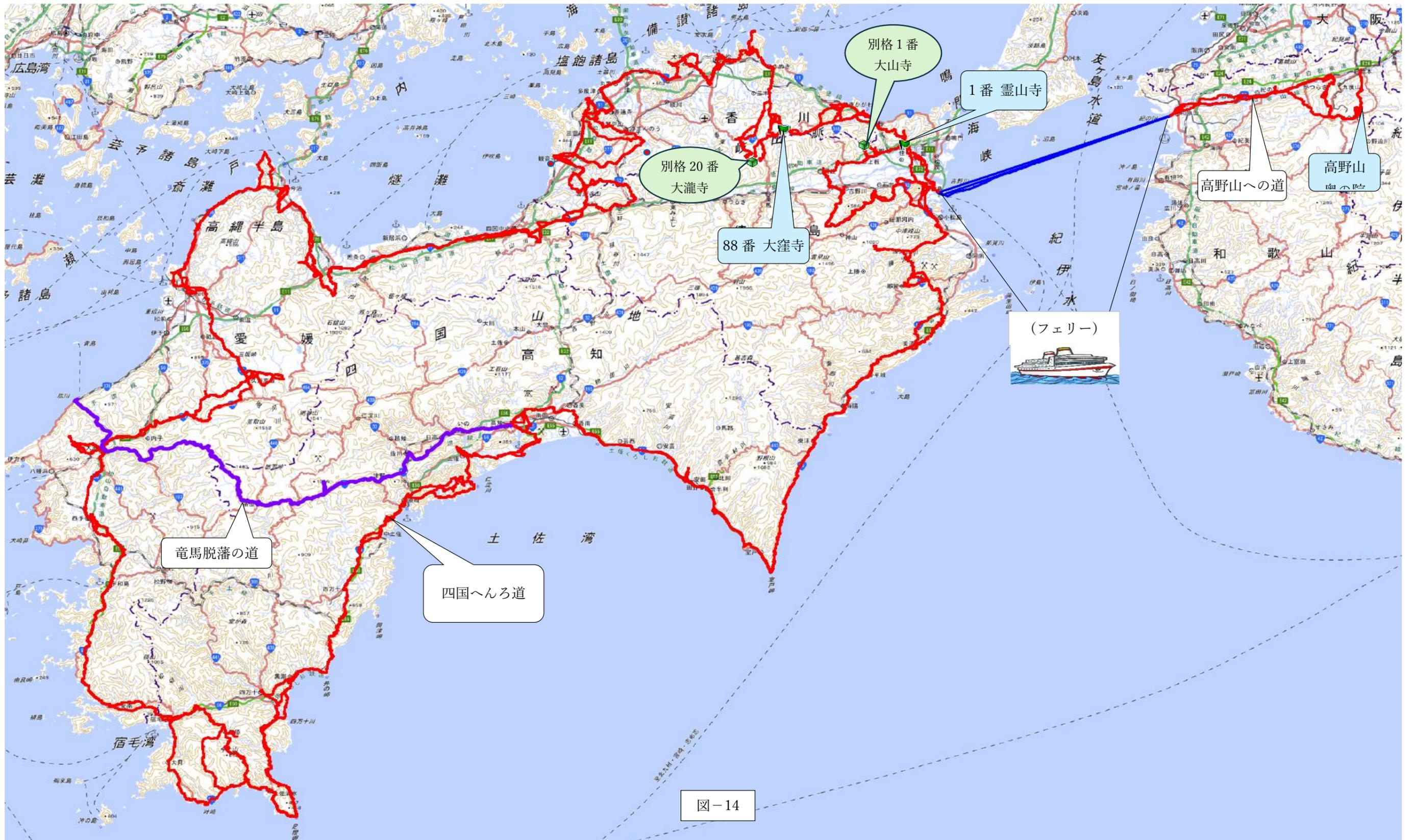


図-14

以下図-15の記事は、4回目四国へんろ帰宅後の2024(R6)年7月22日(月)取材を受けたものの記事である。



四国歩き遍路の際に身に着けていた白衣を前に旅の思い出を語る大沼香さん 山形市

全国の各街道も踏破

人生、歩みは止めない

大沼さん75歳、四国霊場4巡

山形 山形市上桜田3丁目の大沼香さんが75歳の節目に、自身4周目となる四国霊場歩き遍路を4〜6月に敢行した。今回は88カ寺と別格20カ寺の計108カ寺を逆の順番で行脚した。66歳から四国遍路を始め、これまで計1888日間に53331歩歩いたことになる。「遍路の魅力は多くの人に伝えたい」と思いを語る。

大沼さんは、定年を機に「剣山2010年から本州の歴史街道を訪ね、14年までに青森・大阪間の31街道、約7千歩を歩いた。各ルートを一気に進むスルーハイイクが大沼さん流で、18年には京都・長崎間の各街道約1144歩を34日間かけて旅した経験もある。四国遍路を始めたのは15年。88カ寺と別格を加えた108カ寺について、順番通りの順打ち、逆からの逆打ちでそれぞれ巡った。

今回は4月9日〜6月12日の期間に実質60日間歩き、高野山(和歌山県)にもお礼参りした。うるうる年に逆打ちを行うと他年の3倍のご利益があるとされ、約6歩の荷物を背負い、1日平均で8時間半、27歩を歩き続けた。最初の頃は靴擦れが止まらなかった。(柳沢明子)

やましん歌壇

応募規定

やましん歌壇への投稿は、郵便は作者の住所、氏名、年齢、電話番号は他紙への二重投稿はお断りします。山形新聞社編集局 やましん歌壇係

布宮 雅昭選

射干の花 一面群れて内仁の入定窟へと吾を誘ふ
 【評】立石寺に開祖である慈覺大師内仁が入定したと伝えられている洞窟がある。作者が訪れた折、ちょうど射干の花が盛りであった。その射干の花が、作者を入定窟へ誘っているうちなごいづ。心豊かな歌である。

約束のメタカの卵は孵化すれば病の妹は逝きて通らず
 【評】メタカは、妹さんが飼っていたのであろう。それを作者に託されたのである。そのメタカの卵は無事孵ったが、妹さんは亡くなってしまったという。悲しみにつながるメタカの思い出である。

長井地方に江戸の世からの里料理係に教える

井上 菅子選

朝霧の上がりて朝日連峰が一望ついでいよと老いの身誘う
 【評】朝日連峰が一望ついでいよと老いの身誘う。朝日町 菊地 幸子

【評】若い頃何度も登った朝日連峰のなごいづ。登つていよは「また登つていよ」と言っているのだ。親しみを込めて山に言わせた言葉に懐かしさがある。

浜千鳥魚を獲ひて飛び立てば穂やかにして海の修羅あり
 【評】鳥か魚を獲うのは一瞬の出来事。海面は波も立たない穏やかさでも、獲物の魚には修羅場である。美しい風景と共にある弱肉強食の摂理を修羅と言った。去年逝きし犬がしほを振つてある盆に帰省の子らの花火に
 上山市 新寺 登

佐藤 幹夫選

朝露に濡れて挽めるメヒシバの差し交穂のかすかにそよぐ
 【評】朝露に濡れて挽めるメヒシバの差し交穂のかすかにそよぐ。村山市 佐藤 幹夫

【評】繁茂力の旺盛なメヒシバの細葉が伸びて穂をのこのは旧盆の頃。群れ立ち葉の挽みの美しさに魅かれ、露のたぐまを目を凝らし実写する。

二十歳なる曾孫に背負はれ盃盆の露を拜む九十九歳
 【評】二十歳になった曾孫の背に負われて墓前に立つ九十九歳の合掌を、夏空が見守っているようだ。読み返す程に拝む一葉の輝きに汗顔される歌。

空青し穂の緑の真ん中をさやけく走る左沢線二輛
 【評】開業100年を超す左沢線を
 東根市 杉生美穂子

と老い妻励む 長井市 渡部紀二六

【評】長井地方に、江戸時代から伝えられている里料理があるという。奥さんがその料理を孫に伝えようと奮闘している。伝統が、受け継がれうれしいことである。どんな料理なのか興味もそそられる。

田朝に面差し似たる仏壇の祖母の遺影の前にて一席 秋田県八郎潟町 三浦 政博
 戦終え一つの林檎を齧り合ひ笑つてた父母よ林檎供える 山形市 斎藤 伸司
 鈍色の空下り時に陽が射して座禪組む足に木洩れ日ゆるる 山形市 朝倉 正敏
 孫娘と約せし蔵王龍野岳登山未だ見ぬ歌碑に孫の目光を 上山市 羽島 多男
 老いたり隣の嬸は免許証返納したと徒歩に畑畑へ 大江町 柳川 次郎 語る

集いくる生まれも育ちも違う人違えばこそに華敵の仲間 山形市 大沼 香
 旅の夢台風前に泡と消えたる坊主刀及はず 河北町 阿部 伸子
 この夏の冷やし中華のリクエスト完全マスターの薄焼きたまご 酒田市新橋 佐藤志津子
 通学路舗装とライン完成す子らの挨拶元気さわやか 朝日町 海野 寛

り満月覗く 新庄市 泉 芳子
 台風の掠め過ぎたる朝空に秋を知らせて鱗雲あり 村山市 斎藤 隆夫
 居合する弟の動画の迫力を息つめて見る四十九日忌 朝日町 児珠 純子
 根っからのスポーツ音痴がテレビ視て五輪選手に指示の声上ぐ 白鷹町 海老名慎一郎
 世も変り何の役にも立たぬけど迷信を孫に伝え聞かせる 上山市 羽島 多男
 わが村の盆公演の薪能に帰省の客ら身じろぎもせず 長井市 渡部紀二六
 一席目座布団までの距離のあり出囃子に押しれ「人」の字を呑む 秋田県八郎潟町 三浦 政博
 ほろき草むかしは畑にこんもりと今はカフェでコキアと名乗る 天童市 佐藤裕紀子
 いいにおいと得意満面三歳児じいじのくるまはしんしゃなんだよ 米沢市 村上美千代
 お日様の白き光の散らばれる歩禪行場に七色の虹 山形市 大沼 香

夫の背寂し 天童市

夜明け前虫の鳴き音に目が覚めるりいつしか眠る 山形市

終戦後半飼育し毛糸取る亡母の手き温かりき 白鷹町

汗対策額縁巻き首タオル勇まשיき立つ 長井市

人生の裸一貫業しけり吾に野良肴 飯豊町

油絵はいいよねといふ聲がする教四、五人 村山市

川風と山の木々とに囲まれて冷えて目きめぬ 東根市

能面の笑くはの影に重なり悲しみの舞 米沢市

人生を乗り切る道の難しき憂参り 山形市

シママ羽の 遠逝けりい 東根市

不真平穏な 田市

笹藪とき友 白鷹町

萩の花お 東根市

花れる昔々 米沢市

あけてしみ 白町

木板の中に 山形市

穢滅の恐れ 岡市

の便り励ま 田辺町

緑陰求め 米沢市

こそせず昔 米沢市

がれ世界 岡市

米を餅に 山形市

一で笑わ 飯豊町

愛を甘く見 山形市

ます薬代わ 山形市

強きくら 田市

冬るとき 米沢市

の声を妻逝 米沢市

聞き孫と 米沢市

月を見るころ失せしも処暑の夜 米沢市

指ひつまじり 東根市 松馬鈴響

4. 「その他の歩き旅」

以下の参考－1～3は、前記「前半、街道トレイル」、ならびに「後半、へんろトレイル」以外の特筆すべき記録である。

参考－1；出羽三山界限

月山には幾度となく登っているが、月山を經由した特筆すべきハイクのみを取り上げる。

1つ目と2つ目は、羽黒山と月山と湯殿山の三山を、古道筋を歩いて繋いだ記録である。

3つ目は、月山 弥陀ヶ原の中の宮御田原参籠所（前泊）を起点として、月山～湯殿山～「道智道」～黒鴨（山形県白鷹町）までの古道筋を歩いて繋いだ記録である。

4つ目；山形県庄内町北月山荘を起点に「(仮称) 御浜池古道」を周回ハイクした記録である。

なお、出羽三山の秘所中の秘所とされる月山東西補陀落や（羽黒山）阿久谷や三鈷沢にも行っており、別記取り纏めている。

参考－2；山形県内と隣接県境の歴史街道・古道ショートハイク

参考－3；北アルプス縦走等

参考－4；日本の旧街道・古道を網羅した書籍

〔 参考-1 〕 出羽三山界限

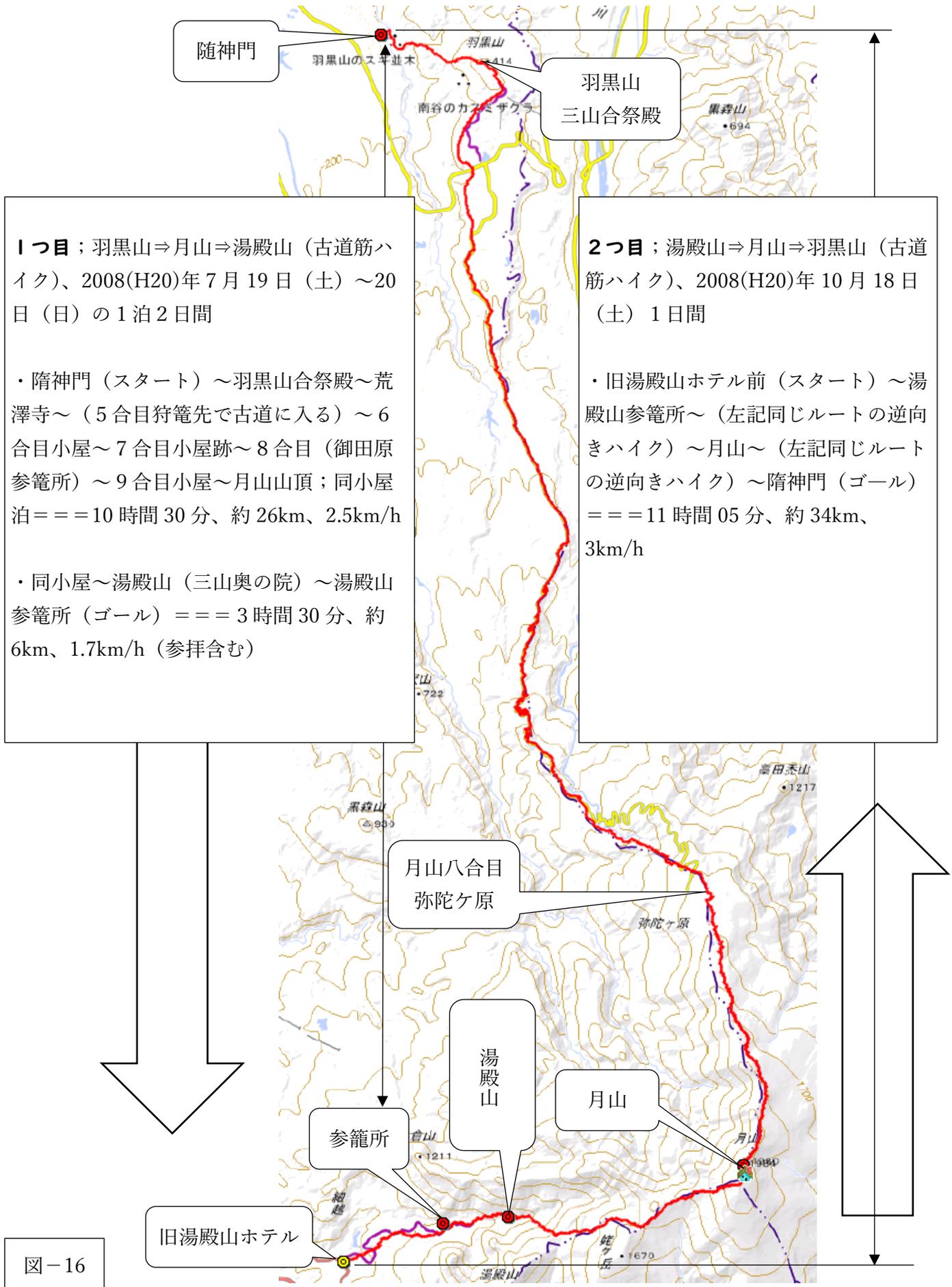


図-16

3つ目；「道智道」ハイイク、2017(H29)年8月26日(土)～8月28日(月)2泊3日間

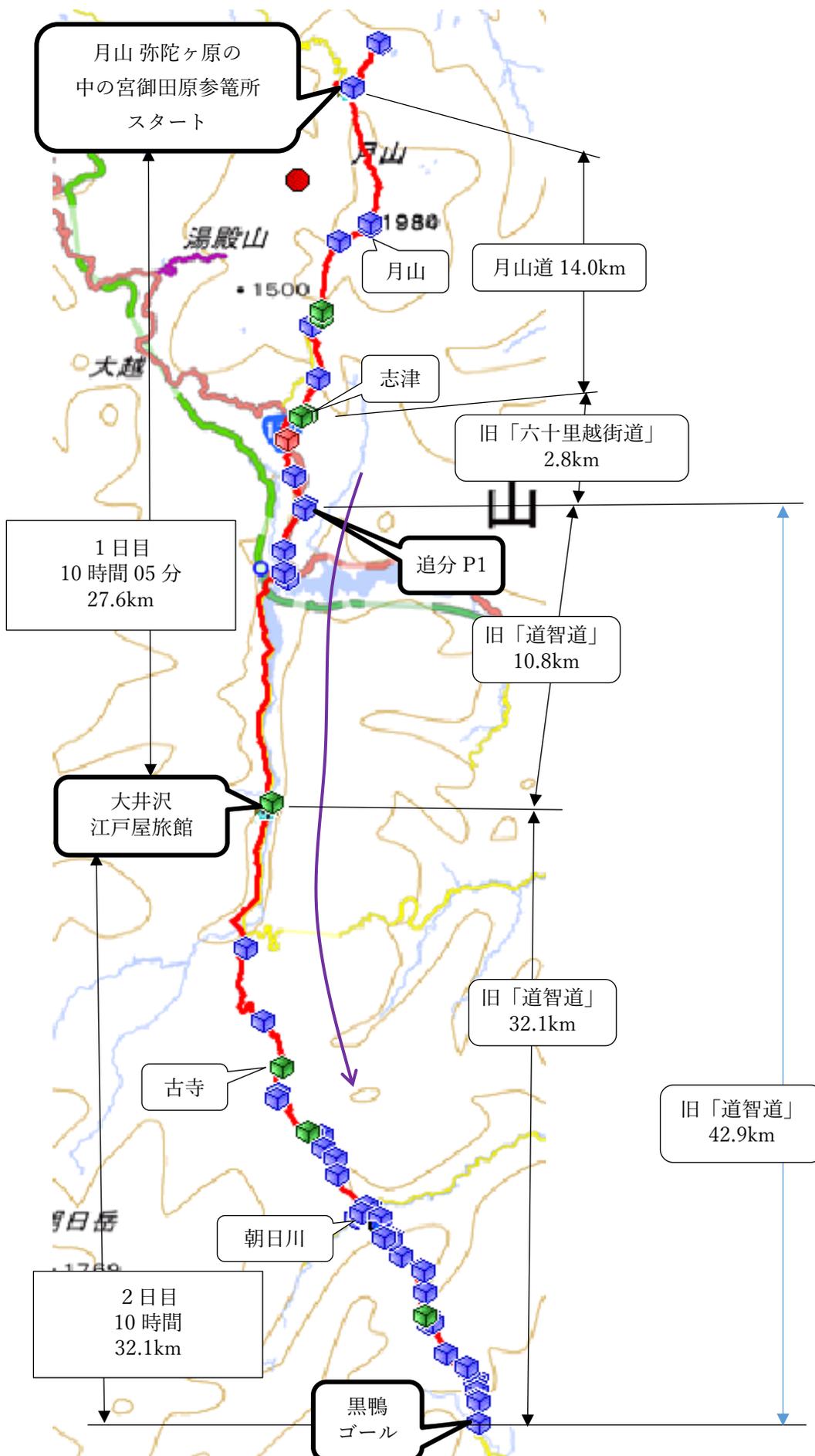


図-17

4つ目；「(仮称) 御浜池古道」ハイク、2022(R4)年7月10日(日)

P1スタート～P2～P3～P4～P5～P6～P7～P1 (ゴール、周回)

スタート6:20～ゴール18:20 (12時間)、23.4km

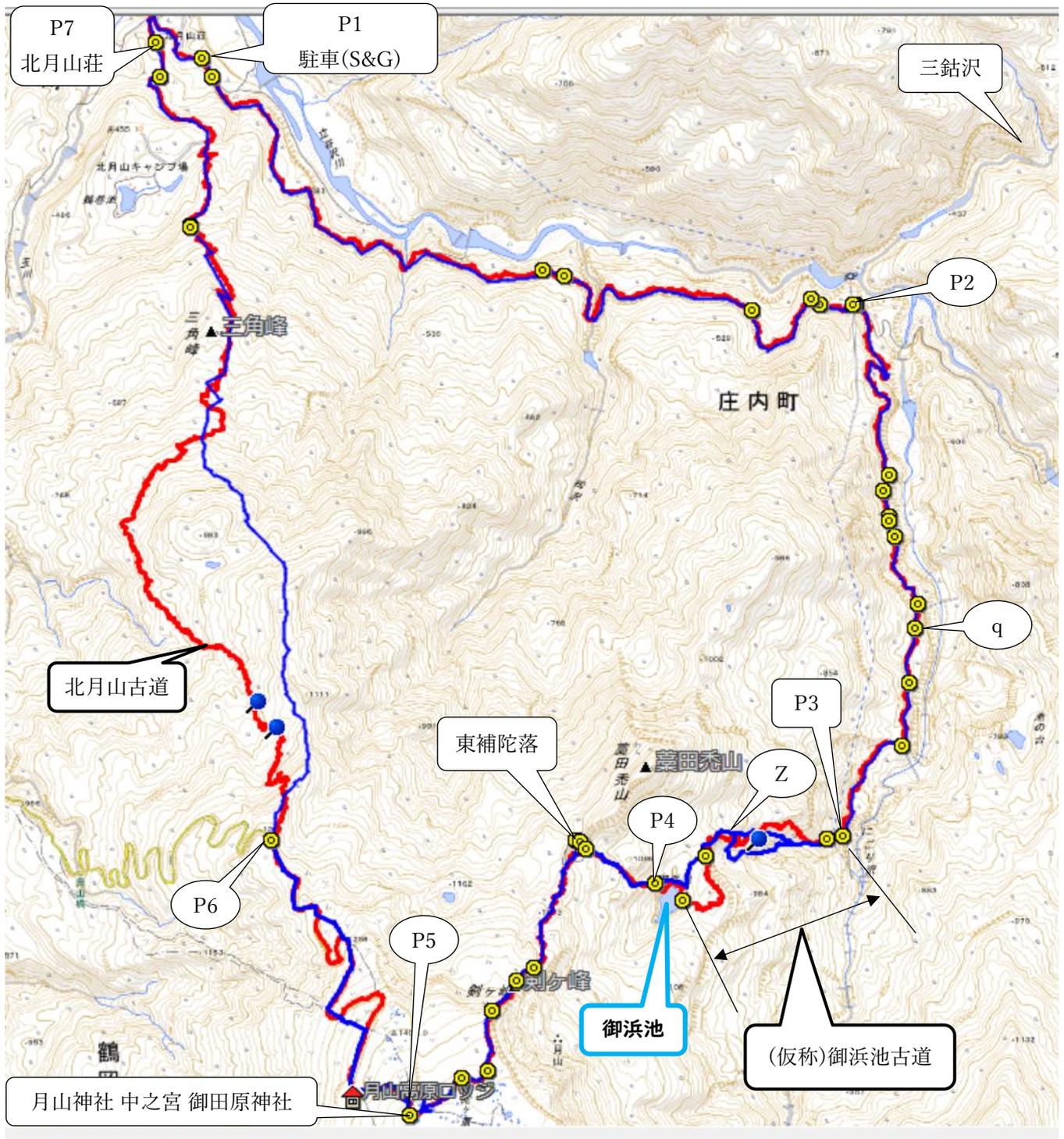
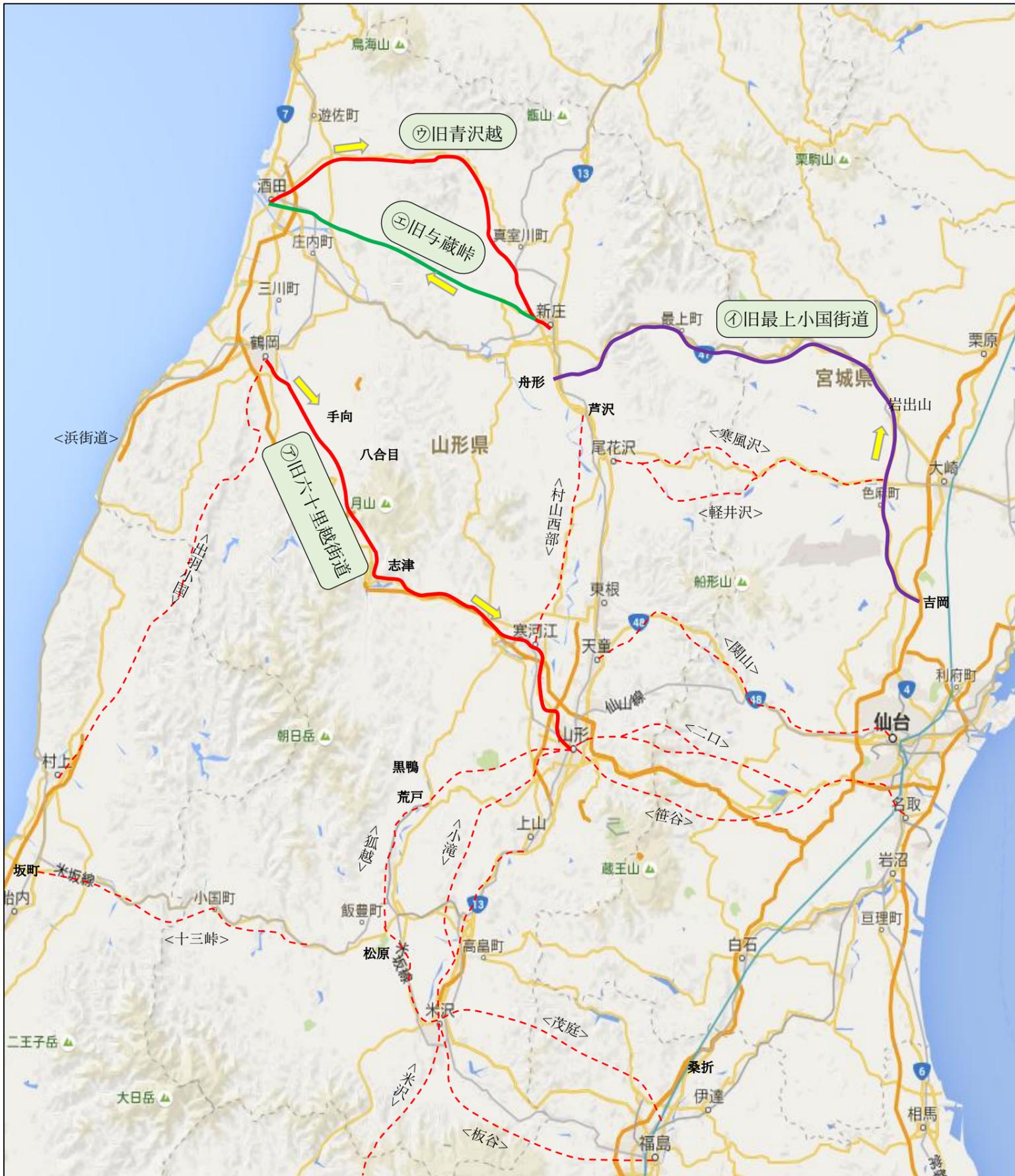


図-18



実施した古道ルートは実線で表示しています。点線は他の古道の存在である。

図-19a

図(表)-19a 中の㉞～㊲の4件の内訳は同bのとおりである。

図(表)-19b							
実施年	年齢	通番	歴史古道の名称 ^{※1}	区間(始基点→終基点)	実歩行距離	歩行のみの正味期間	日数
2010 (H22)年	61	㉞	旧六十里越街道	山形県鶴岡→山形県山形	101 km	6月25日(金)～6月27日(日)	2連泊3日間
2012 (H24)年	63	㊱	旧最上小国街道	宮城県吉岡→山形県舟形	93 〃	6月23日(土)～6月26日(火)	3連泊4日間
		㉞	旧青沢越街道	山形県酒田→山形県新庄	75 〃	9月14日(金)～9月16日(日)	2連泊3日間
2013 (H25)年	64	㉟	旧与蔵峠	山形県新庄→山形県酒田	71 〃	7月1日(月)～7月2日(火)	1泊2日間

(※1) 名称に『旧』を冠したのは、廃道化した道を探求しつつ昔からの旧街道・古道筋を歩いたためである。

図(表)－20

実施年	年齢	件名	区間(始基点→終基点)	正味期間	日数
2010 (H22)年	61	北アルプス行き ^{※3}	新穂高温泉登山口→槍ヶ岳 ^{※2} →西岳→大天荘岳→常念岳 →蝶ヶ岳→上高地	9月9日(木)～9月12日(日)	3連泊4日間
2010 (H22)年	61	越後三山行き	越後三山森林公園→駒ヶ岳→中ノ岳→八海山→同公園	10月21日(木)～10月24日(日)	3連泊4日間
2011 (H23)年	62	剣岳・立山連峰 (北アルプス) 山行き	馬場島登山口→剣岳→立山(雄山)→浄土山(南峰) →五色ヶ原→薬師岳→太郎平→黒部五郎岳→ 三俣蓮華岳→双六岳→西鎌尾根→槍ヶ岳→槍沢→ 上高地	9月24日(土)～9月28日(水)	4連泊5日間
2012 (H24)年	63	北アルプス行き	中房温泉→燕岳→西岳→槍ヶ岳→南岳→上高地	9月4日(火)～9月7日(金)	3連泊4日間

(※2) 槍ヶ岳には3回挑み、3回共に快晴下山頂に立った。

(※3) 北アルプスについては、後立山連峰(南の三俣蓮華岳から白馬岳^{しろうま}まで)の縦走を課題としていたが実現は絶望となった。

.....

以上はあくまでも会社退職以降2010(H22)年～2024(R6)年までの15年間の記録である。それら以外の単発の山行きは多数あるが、殆どは日帰りのため省略した。

=====

図－21の2冊を紹介する。



図－21

【Henro total-report No04】 へんろ順礼（へんろ^{とそう}抖擻行）の証

後半へんろトレイルにおける、*14回の四国へんろ、および*21回の西国三十三所観音霊場へんろに係る

「証」^{あかし}を抽出した。なお、*3^{たてふいよこいち}四国縦V横一登山へんろは自由白衣のみに適用した。

本順礼に当たっては、意図的計画的に、寺院のみならず、関連所要の神社への参拝も行って来たが、後記の証のとおりである。シンクレティズムの私においては、日頃から神仏混淆・神仏習合が当たり前だからである。

1. 日付の書き込み

私の経験からは大方図(表)－1¹のようであった。四国霊場は納経帳にも白衣にも日付を入れないということであった。入れない理由を聞いたが、納得する確たる説明はなかった。敢えて理由付けをするとすれば、巡る（参拝・納経する）順序を問わない（意味がない）、日付記入に余計な時間を要し煩雑になる、などではないかと想像している。

---	納経帳への御朱印	納経軸への御朱印
四国八十八所霊場	日付を入れない	日付を入れない
西国三十三所霊場	日付を入れる	〃
神社	日付を入れる	日付を入れる

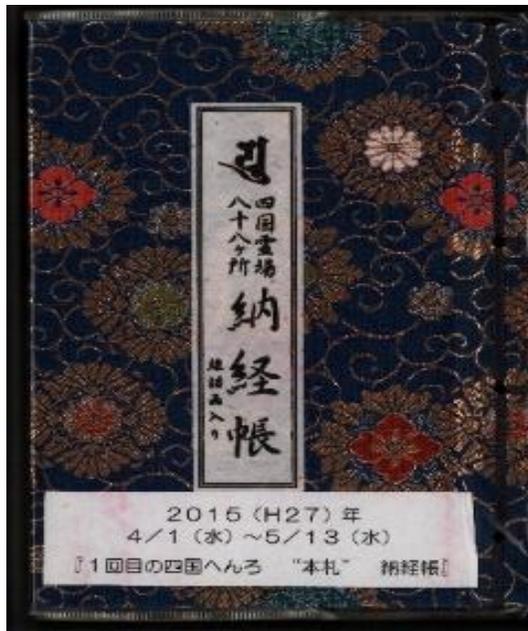
図(表)－1

2. 結願証および満願証

結願証ならびに満願証について、図(表)－2²～図(表)－10¹⁰のとおり。なお、同2に記載の朱印は代表的なものだけを抽出した。

納経軸(御朱印軸) 2巻――図(表)－3³および図(表)－10¹⁰――とも素晴らしい出来栄えに仕上げ、頂きとても満足している、神仏祭壇のある小さな和室に垂下している。

四国へんろ1回目



本札 88 か寺納経帳表紙



別格 20 か寺納経帳表紙

四国へんろ2回目



本札 88 か寺納経帳表紙



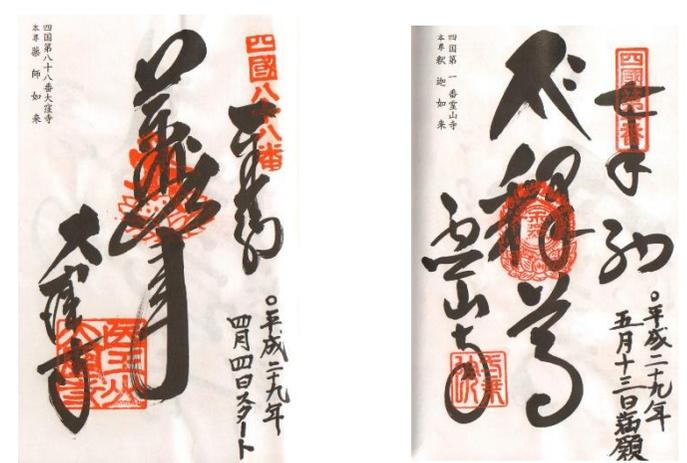
1 番靈山寺

88 番大窪寺



別 1 大山寺

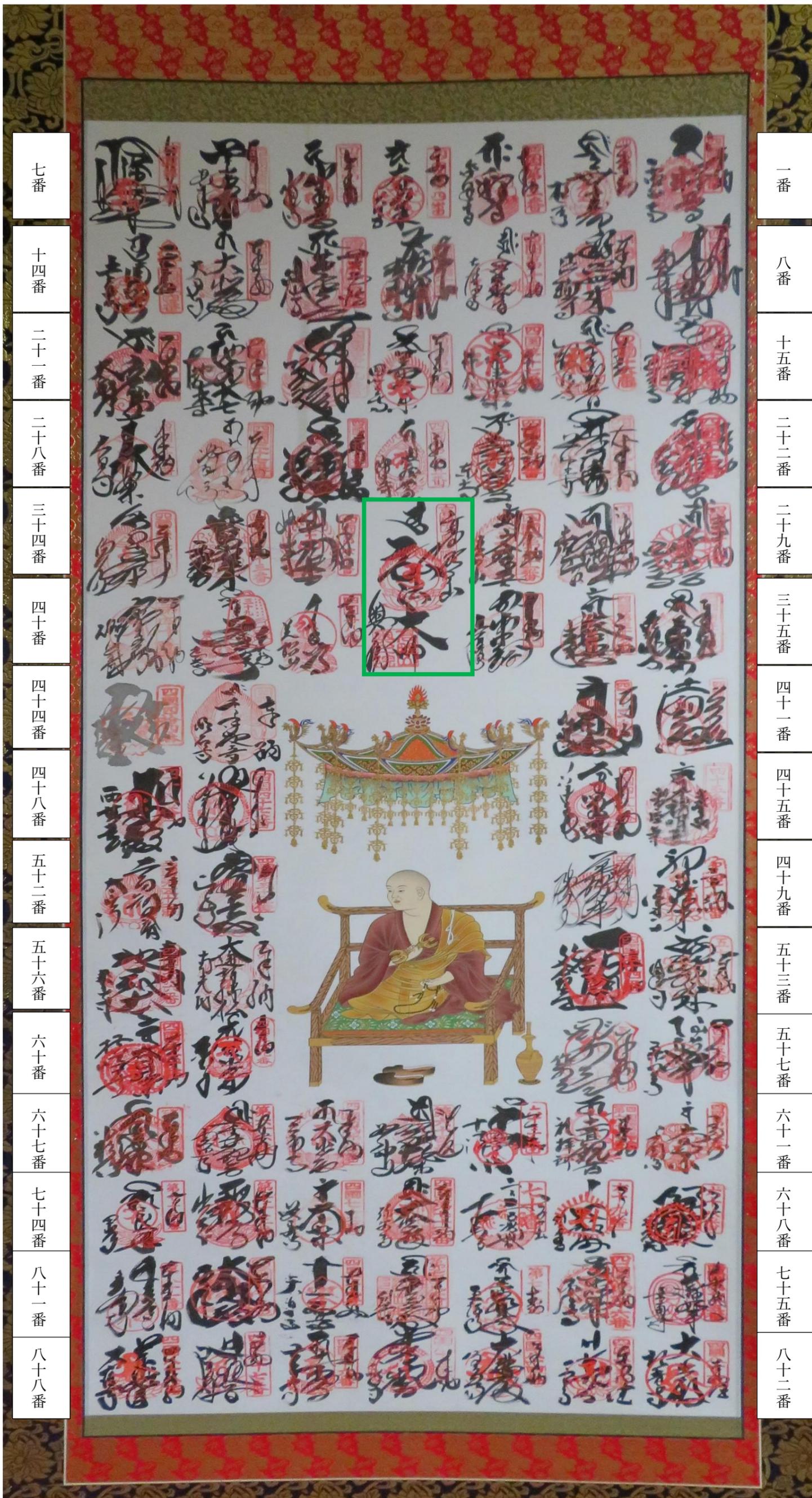
別 20 大瀧寺



88 番大窪寺

1 番靈山寺

図(表) - 2



七番

十四番

二十一番

二十八番

三十四番

四十番

四十四番

四十八番

五十二番

五十六番

六十番

六十七番

七十四番

八十一番

八十八番

一番

八番

十五番

二十二番

二十九番

三十五番

四十一番

四十五番

四十九番

五十三番

五十七番

六十一番

六十八番

七十五番

八十二番

左手中央部の四角で囲んだ所は、「高野山奥の院」御朱印用の指定場所です。

図(表)- 3

四国へんろ4回目

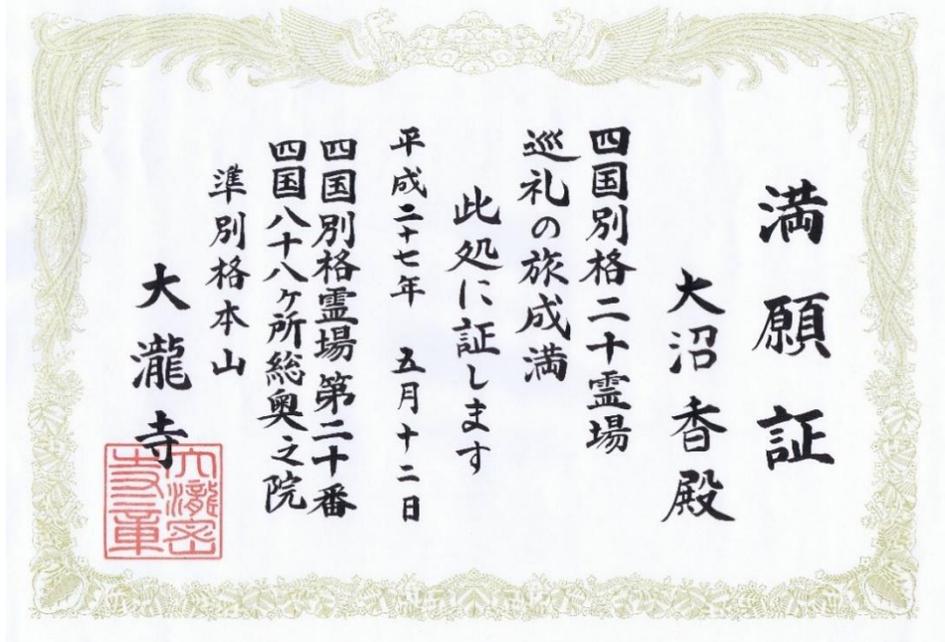


印取白衣 (表)



印取白衣 (裏)

図(表) - 4



第一回目 四国八八ろ (2015・平成二十七年)



図(表) - 5



第二回目 四国八んろ (2017・平成二十九年)

WALKERS OF THE SHIKOKU 88 TEMPLES

四国八十八ヶ所巡路大使任命書
Shikoku 88 Temples Pilgrimage
Henro Ambassador

(第 2381号)

山形県 大沼 香 殿

貴方は四国八十八ヶ所歩き巡路約 1,200km を完歩され、
四国の自然、文化、人との触れ合いを体験されたので、
これを証すると共に、四国巡路文化を多くの人に広める
巡路大使に任命致します。

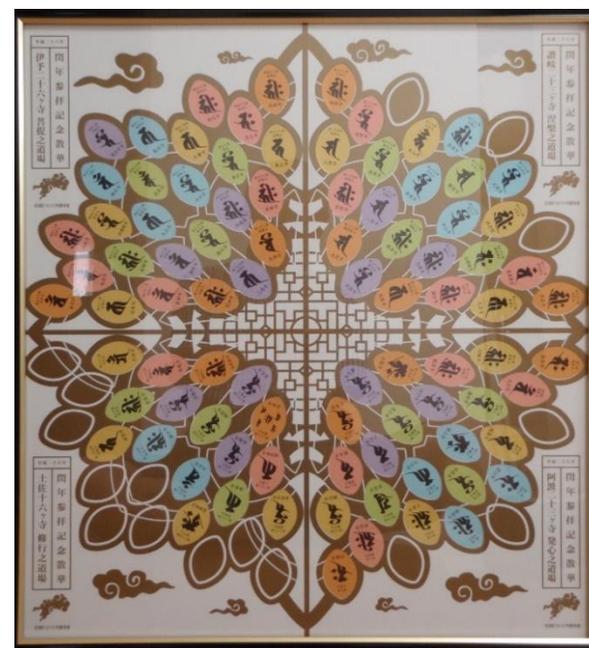
This is to certify that you have successfully completed the 1200km of Shikoku
88 Temples Pilgrimage on foot and that you are named as a Henro
Ambassador. We wish that the interaction with the people, the culture and
the nature of Shikoku enriches your life and that you will spread the Henro
culture worldwide.

平成29年 5月13日
Date / /

NPO 法人 三つ 88 四国
理事長 三瀬 慎太郎
NPO 法人 福野 弘もてなしセンター
理事長 松田 精彦

福野弘もてなしセンター
理事長 前田 道俊
NPO 法人 大窪 齋院
理事長 大山大茂樹

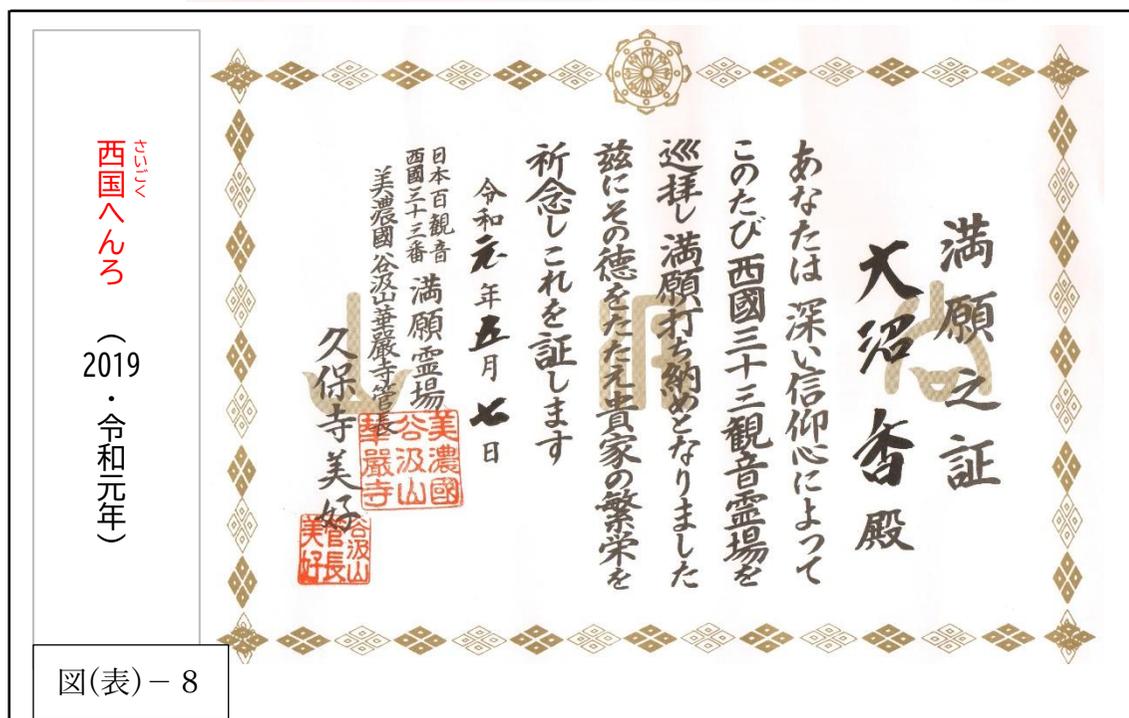
図(表) - 6



八十八所の記念散華を額装したもの



図(表) - 7



図(表) - 8



第4回目 四国八んろ (2024・令和六年)

図(表) - 9



WALKERS OF THE SHIKOKU 88 TEMPLES

四国八十八ヶ所遍路大使任命書
Shikoku 88 Temples Pilgrimage
Henro Ambassador

(第 1680号)
山形県 大沼香 殿

貴方は四国八十八ヶ所歩き遍路約 1,200km を完歩され、四国の自然、文化、人との触れ合いを体験されたので、これを証すると共に、四国遍路文化を多くの人に広める遍路大使に任命致します。

This is to certify that you have successfully completed the 1200km of Shikoku 88 Temples Pilgrimage on foot and that you are named as a Henro Ambassador. We wish that the interaction with the people, the culture and the nature of Shikoku enriches your life and that you will spread the Henro culture worldwide.

令和 6 年 6 月 11 日
Date / /

NPO 法人グループ 88 四国 国際ロータリー 第 2670 地区
理事長 竹村 崇志 2023-2024 年度ガバナー
Npo Profile Organization LOOP 88 Shikoku 代表 岩国 嘉美
Director General Takanori Takemura Hiromi Yoshioka
NPO 法人遍路とおもてなしのネットワーク さぬき市前山おへんろ交流中心
理事長 半井 真司 代表 大山 茂樹
NPO Network for Shikoku Henro Pilgrimage and Hospitality 代表 大山 茂樹
Trustee Shinji Hani Representative Shigeaki Oyama

西国だけの菊紋

本軸において、購入時点では、西国霊場指定の番外三か寺分、猿田彦神社、善光寺の処は空白となっており、御朱印で埋めるか否か、埋める場合どこの寺社にするのか、その順序を含めて所有者の自由判断に依ります。私の結果は右本軸のとおりです。



図(表) - 10

善光寺
猿田彦神社

法起寺
元慶寺
花山院
(番外)

3. 納経帳（御朱印帳）と納経軸の集計

全体は図(表)－11のとおりであり、納経帳(御朱印帳)については3冊、納経軸(御朱印軸)については2巻、印取白衣は2着、御朱印用自由白衣については6着（細部は別記）を有することになった。なお、その他のスルーハイクにおいては御朱印を貰っていない。内訳は図(表)－12のとおり。

	2010(H22)年～ (前半、街道トレイル)	2015(H27)年～2019(R元)年 (後半その1、へんろトレイル)					2020(R2)年～2024(R6)年 (後半その2へんろトレイル)	
	(歴史街道)	四国へんろ			さいごく 西国へんろ	たてブイよこイチ 四国縦V横一	長崎遊学 Zigzag 紀行	四国へんろ
		1回目	2回目	3回目				4回目
納経帳(御朱印帳)	----	1冊(88本札) 1冊(20別格)	1冊(88本札)	----	----	----	----	----
納経軸(御朱印軸)	----	----	----	1巻(表装) 89所(印)	1巻(表装) 38所(印)	----	----	----
印取白衣	----	----	----	----	----	----	----	1着(88本札所)、1着(20別格)
御朱印用自由白衣 (神社・仏閣混淆)	----	1着	1着	1着	1着	1着	----	1着

図(表)－11

	四国へんろ1回目(順打ち)	四国へんろ2回目(逆打ち)	四国へんろ3回目(順打ち)	四国へんろ4回目(逆打ち)
納経帳	【1冊目】納経帳 ▷本札 1番霊山寺～88番大窪寺 88所 1番霊山寺(戻り) 1所 ▷高野山奥の院(挨拶参りとお礼参り) 2所 ▷地元の菩提寺 石行寺(発と着) 2所 (小計) 93所	【1冊のみ】納経帳 ▷本札 88番大窪寺～1番霊山寺 88所 88番大窪寺(戻り) 1所 ▷12番焼山寺番外札所 3所 杖杉庵・浄蓮庵・柳水庵 ▷石鎚神社 1所	【1軸】納経軸 ▷本札 1番霊山寺～88番大窪寺 88所 ▷高野山奥の院 1所 (小計) 89所	【2着目】印取白衣 [1着目] ▷本札 88番大窪寺～1番霊山寺 88所 高野山奥の院 3所 4印(延べ4所)
納経軸	【2冊目】納経帳 ▷別格 1番大山寺～20番大瀧寺 20所 ▷高野山金剛峰寺(発と着) 2所 ▷18番海岸寺奥の院 1所 ▷金刀比羅宮 1所	▷別格 8番十夜ヶ橋 1所 ▷月山神社(高知県大月町) 1所 ▷地元の菩提寺 石行寺(発と着) 2所 ▷地元の村社(上桜田) 月山神社(発と着) 2所 ▷掘田村・滝山村弘法大師八十八所 霊場(85番八栗寺番屋;発と着) 2所 (小計) 101所		[2着目] ▷別格 20番大瀧寺～1番大山寺 20所 (小計 112所)
印取白衣	▷地元の村社(上桜田) 月山神社(発と着) 2所 (小計) 26所			
総計			421所	

図(表)－12

旅はどんなものであれ普段の生活から開放された非日常であり、楽しくなるものだが、私の歴史街道や四国へんろのスルーハイク遊学紀行は、立ち寄り先の目標点はあるものの毎日が単純な“歩きが仕事”であります。その中でも楽しさが湧くような独自色・個性的・オリジナル・独創的な、つまり、私らしさを表現した取組みをしたいと強く意識して実践したものが、次の8点であります。このようなことは、他の人はあまりやっていないと思われ自負する処です。

全体の構成骨格は次のとおり。

歩く途中で心が萎えてくると、計画時に設定したエネルギー・ミトコンドリアたるこの8項目が推進力エンジンとなって必ず浮かんだ。そして、計画（Input）＝結果（Output）の等式の成立に駆り立てるトランスミッション（変速機）になったのである。

- [1] エネルギー『^{だいこう}大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル』の設定
- [2] 亡き家族供養が見える化
- [3] 遊び心の験担ぎと縁起物『聖水、アオキ葉』持参
- [4] シンクレティズム具象化／自由白衣に社寺御朱印
- [5] 独自の御経を読誦・奉納
- [6] 地元の社寺に仁義を切ったお参り
- [7] 順番通りの「貫中久」順礼
- [8] 「阿吽・起承転結」で円環成就

【No05-1】 [1] エネル源^{だいこう}『大香ブランド老魂^{RouCon}サブタイトル』の設定

『大香ブランド老魂^{RouCon}サブタイトル』とは、一言でいうと「自家発^{だいこう}エネル源着火剤」である。後記のとおりであるが、例えば、

・「前半、街道トレイル」中の②旧山宮街道^{やまみや}においては「[太平洋・日本海マリッジ大作戦]（日本第1運河開通）太平洋⇒日本海」というキャッチフレーズを設定した。また、

・「後半、へんろトレイル」中の④⑤四国第1回目へんろにおいては「[四国108 霊場一筆書き& 霊土採取大作戦]」というキャッチフレーズを設定した。

さて、原点は――別記【No02-2】図(表)-5中の①『旧塩の道（秋葉古道）：途中リタイヤ』において、歩いている最中には弱音や挫折感も出てくることを経験し、悔しさと反省点があった。そこで、同②『旧山宮街道^{やまみや}』スルーハイクから採用・実践したものである。なお、①『旧塩の道（秋葉古道）』における[初挑戦-木っ端微塵の一つ星]は後付けである。

その心は、上記途中リタイヤの失敗から――歴史街道を基点から基点までとは言え、ただ漫然と歩くだけではつまらない、歴史物が好きとは言え物理的な寺社の建物や仏像に接しただけでは満足感^{N o n}は得られない、知らない土地に行って見たいとの欲求だけの歩き旅では、充足感を得られるはずはないと思ったからだ。

そこで、勢いよく飛び出したものの途中においては、弱気・弱音、挫折感が必ずや出て来るだろう。そこで、大義名分を立てたい、歩き旅を持続するための精神的支柱を立てたい、心の中に夢と理想を固める太しき宮柱を立てたい、心の芯棒^{たきつ}に情熱を焚付ける火薬を詰めたいと思った。そのためにスルーハイク歩き旅に明確な意義付けをしよう、それも楽しくなるような、内奥から決意と覚悟と勇気が湧くようなコンセプト（概念、新しい意義付け）とミッション（初志貫徹を加勢する作戦任務）を設定し、それらを凝縮したサブタイトル・キャッチフレーズ（うたい文句）を掲げて、オモシロイ取り組みを行おうと思った。昔からの街道・古道を歩く旅であるから、換言すれば、過去と現実と未来との架け橋の存在をイメージしたのだ。付加価値（他にはない独自性）の導入である、新たな価値の創造という自己満足の世界である。

これら大言壮語の思いを「Romanesque a la Concept & Mission^{ロマネスク風のコンセプトとミッション}（ロマネスク風のコンセプトとミッション）」と銘打ち、さらに、Romanesque a la Concept & Mission^{の綴りから一部の文字「R o u C o n (m ⇔ n ・ ん)」を取り出し、「老魂^{RouCon}」に当て、「老魂」と表記することにした。}

「日本国語大辞典（小学館）」によると、直訳的には、ロマネスクとは、「ロマン（仏：roman）」から派生し、自由奔放な想像力によって現実の論理・事象の枠を飛び越えた幻想的な性質を指すとのことである。そのような世界でコンセプト（意義）とミッション（任務）を掲示するのだ。

要約すると、歴史の街道・古道を歩き通す初志貫徹を鼓舞するために、非現実的な物語風の意義と任務を創作し、その思いを文字（言葉）に綴って表現することである。その時、頭に「大沼香の犬と香^{つま}」を摘み出し、それらのことを全体包括して略称^{だいこう} [大香ブランド老魂^{RouCon}サブタイトル] としたのである。

具体的なトレイル（歩き旅）に入る前の計画の段階で、スルーハイクに掛ける思いを凝縮した短い言葉のキャッチフレーズを考え、書面にあれこれ書いて、書いては訂正し、^{ろうこん}「老魂サブタイトル」の中身の

イメージを盛り上げる。自分に気合を掛ける鞭^{むち}だから、楽しくなるように、夢想・空想・妄想の世界で言葉遊びをする。自画自賛・自己陶醉・自己満足の大花火大会の境地である。

各トレイル実践においては、この大言壮語の大義名分たる自家発着火剤が「“蟻・亀・蝶”之助のエネルギー」となった。

61 歳から 75 歳までの 15 年間の歩き旅は全 25 件、15,546km、512 日間となった総てに設定した。なお、後半のへんろトレイルにおいて設定したものを抽出すると図(表)－1 のとおり。

実施年	年齢	件名	<small>だいがう</small> 大香ブランド <small>RouCon</small> 老魂サブタイトル
2015(H27)年	66	四国 第1回目へんろ	四国 108 霊場一筆書き & 霊土採取大作戦
2017(H29)年	68	四国 第2回目へんろ	四国 88 霊場一筆書きの逆打ち & 岬巡り大作戦
2018(H30)年	69	四国 第3回目へんろ	無限無窮(6869；むげんむきゅう) 再活大作戦
		長崎遊学 Zigzag 紀行	ちょうちんフットライト (footlights) 大作戦
2019(H31～ R元)年	70	西国参十参所観音霊場 順(巡)礼	西国へんろハート作図－両眼 (両面眼力) 培養 大作戦
2019(R元)年		四国縦V横一登山へんろ	冠カップ・メトロノーム作造大作戦
2024(R6)年	75	四国 第4回目へんろ	終息前夜祭 四国へんろ逆順大作戦
図(表)－1			

私は能天気、ボンクラだが、ただ一つ両親からは丈夫な両足を授かった。そこに感謝を込めた気持ちを形に表したく実践して来たものである。今は亡き両親に対する供養の表し方、見える化である。

(1) 一つ目は金剛杖カバーのこと

歩き姿は図-2のとおり、ダブルストックの右側握り手には黒(紫)っぽい金剛杖カバー、左側握り手には赤っぽい金剛杖カバーを取り付けているが、これはゆりかごであり、この袋には次の思い入れがある。

亡き家族5人(私の両親と弟、妻の両親)をあの世からこの世に連れ出して、これに入って貰い、一緒に旅したのである。右手袋には亡き父・亡き弟・亡き義父を、左手袋には亡き母・亡き義母から入って貰った。

歩いていると“それ、なあに?”と時々行き交う人から聞かれた。

双方の両親は昭和初期の生まれ、——特に私の父は1945(昭和20)年18歳の時、その秋に入植し開拓者として戦後のスタートを切った——貧乏は苦労の中で生計を立てつつも、旅行などとはほとんど縁がなかったことから「親孝行したい時には親はなし」の償いで、あの世から連れ出し同行したということである。昔を思い出しながら折に触れて会話しながら、そして札所や景色を案内しながら参詣旅を楽しんだ。なお、このやり方は、「前半、街道トレイル」中の⑭旧羽州街道から行った。

5人はとても人情味が深く、妻を含めて家族間では一回たりともいがみ合ったことはなかった。私の父は若い頃の冬期間、関東地方に出稼ぎに出ていたが、その間は母が戸主の役を務めて奮闘していた。また、父は亡くなる直前の10日間、私の勤務する会社近くの市立病院に入院したが、終業後同病院に赴き、病院ベッドに横たわる父と毎日対話を重ねた、父の思い残りの無きよう人生万般を語り尽くした。最後は家族(子・孫・ひ孫達)が見守る中で、差し出した水を自ら飲んで大きな深呼吸の後に旅立った。今、私は毎朝、食事前に神仏祭壇正面に向かって正座・読経しているが、その都度両親と対話している、思いやりの深かった生前の家族5人を一番尊敬している、最愛の人生の師であった。

素晴らしい眺望に出会うと、あるいはきつい急坂の時、この5人のことが強く意識され涙が止めどもなく出るのであった。

(2) 二つ目は白衣(おいずり・おいずる)への戒名(法名)の書き込み

1回目の四国へんろにおいて、スタート初日4月1日(水)の宿で岩手県の菅野さんと相部屋となった。その時持参した白衣の背中部分を見せて貰った、「親族の戒名(法名)を菩提寺住職から記して貰った、私一人だけではなく供養のため一緒に歩いているのだ、2着持参し、日々代わる代わる着用する、別の布に書いて貰い白衣に縫い付けたもの」とおっしゃられた。私はその心を含めて是非とも真似をしたいと決意した。そして、**2回目の四国へんろから真似て実践した。**図-3はその時のものである。白衣は着用の物と同図のように御朱印専用の物——これに亡くなった家族の法名・戒名を事前に墨書——



図-2

の2着を持参した。図-1に加えてこの戒名記入の取組みが、亡き父母をあの世から連れ出し同行するという心情をさらに濃いものとなった。

同様の取組みについての全体像は、【Henro memo-report No04】に別記した。

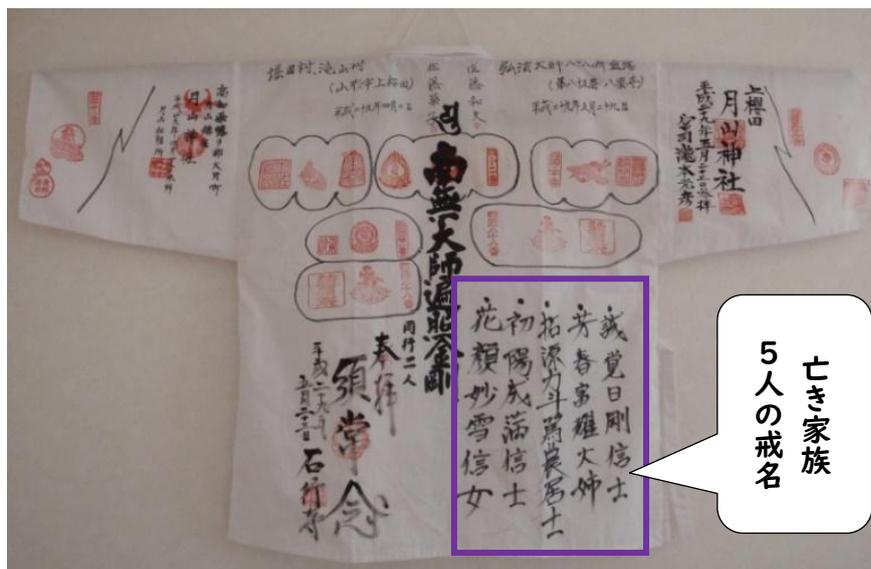


図-3

(3) 『親子で四国へんろ』(原曲は「夜明けのメロディー」)の替え歌へ反映

前記の思いを替え歌にしたが、以下はその創作詩であります。

一、憧れだった四国のへんろ、あの世の父・母・弟を誘い

あの頃のあの時の暮らしに馳る^{はせ}

妻の両親をもこの世に連れ出し来て^{ふたおや}

家族のみなが揃い姿を整え、色んな仏と会話の旅よ

二、“阿波”の一番霊山寺から、“土佐”の海辺の飛沫に感動^{りょうぜんじ} ^{しぶき}

やさしさと厳しさ 教える浄土

“伊予”は最遠の地 “讃岐”の大窪寺は終わりの結願寺^{さぬき} ^{おおくぼじ} ^{けちがんでら}

また霊山寺へ、円弧を描いた 至高のへんろ

三、親子で手を携え時には背中に負い、いと楽しい旅にも別れが来ました

須弥山・七宝雅の城へ、姿が消えるまで“元気で・またね”、親子のへんろ^{しゅみせん} ^{しちほうみやび}

普段は以下のようなものは迷信だと馬鹿にして関心を持たないが、スルーハイクにおいては遊び心から、二つのもの『聖水とアオキ葉』に拘り、それを背負い切るという以下の取り組みを行った。

(1) 聖水のこと

『水』に拘り、「聖水」と称して背負った。

- ・¹人間は、母親の体液（子宮内羊水）の中で育ち生まれる。（羊水は真水ではなく、0.25%程度の塩分を含む生理塩水。）
- ・²生まれた人間の60%~70%は水分である。（体に必要な栄養や酸素は、血液等の水分に乗って運ばれる。）
- ・³よって、水は生命の根源である。
- ・⁴水は汚れを落とします、体内排泄物を運ぶ。

さらに水は、真水（淡水・清水）と海水（潮水・塩水）とその混合水（汽水）がある。

「神道の神秘」（山蔭基央著）の本の中に「川は淡水（真水）で男性象徴であり、海は海水で女性象徴である。その二つが交わる河口は、男女交合のシンボルである」と記載（前後のストーリーから記紀にあるのか。）されている。このようなことから歩く時の身体的エネルギー湧出の呪術的担い手として『水』を意識したもの。

なお、塩の効能について少し触れると、もちろん過剰摂取はだめだが、次の三つの働きがある。『適塩』という言葉ある。

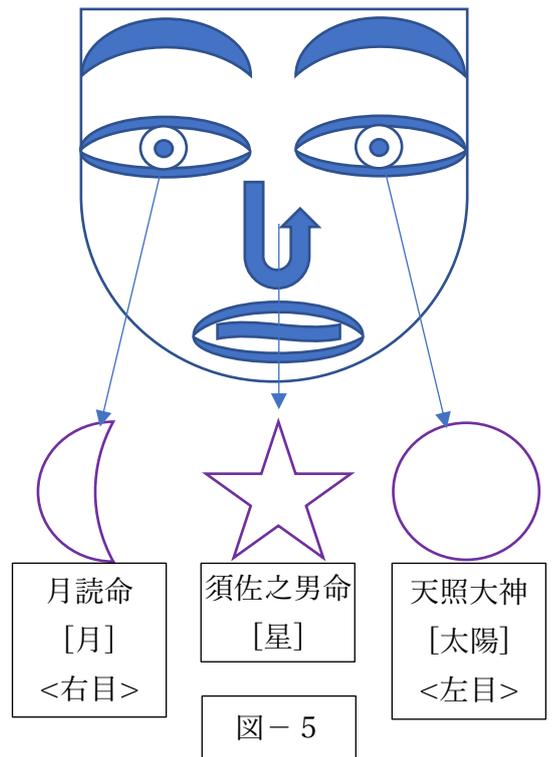
- ・¹細胞を正常に保持
- ・²神経や筋肉の働きを調整
- ・³食欲や味覚を正常化

図-4は1回目四国へんろ（2015・H27年）時に撮った高知県土佐清水地内での写真である、右側から川（真水）が流れ来て、左側の太平洋に刺さって行く状況がよく表れている。真水が海水に食い込んで海水（潮水）が窪んでいる。河口に表れた真水（男）と海水（女）の交合合体の象徴美である。海側から押し寄せた波と川水との闘ぎあいが見事であった。



図-4

日本神話（古事記・日本書紀）において、神代七代十五神の最後に伊邪那岐神（男、夫・父）と伊邪那美神（女、妻・母）が表れ、美斗能麻具波比みとのまぐわいであそばされ、多くの国と神様を生んだ。イザナミを追いかけて・・・黄泉の国から帰られたイザナキは、川に入って禊を行うが、真水と海水の合流点（河口）付近で中の瀬——上瀬は急流であり、下瀬かんりゅうは緩流であり、その2箇所は適地あはに非ずして、上瀬と下瀬の中間地（中瀬）で臨み、最後に顔を洗った際に図-5のとおりのの三貴子を生んだ。なお、中=ok、上・下はダメとした理由は、どちらかの一方に偏る考え方を戒める訓えを含む。「一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ず。さらには、天に日月星が、地には木火土金水の五行が生じた。」の一面である。



a. 真水（淡水）を背負った

背負ったペットボトルの事例は図-6のとおり。

真水の入手先は、自宅近傍の私の父母・弟が眠る菩提寺は新福山石行寺境内しやくぎょうじに流れる御滝みたき（図-7）からである、この源は、昔は修行の御山として馳せた竜山を源とする龍山川である。採取した真水を100CCあるいは200CCペットボトルに注ぎ込み背負った。この御滝には、男ジェンダー（=陽）の㉗不動明王、女ジェンダー（=陰）の㉘弁財天が安置され、清い水しぶきで濡れている。余談だが、ここでも女性上位に配置されている。



図-6



㉗ 不動明王（男）



図-7



㉘ 弁財天（女）

b. 海水（潮水）を背負った

背負った一例から、——東北の地図を見ている中で「太平洋の海水（潮水・塩水）を汲み取って背負い、日本海に注ぐことを実現したい！」との構想が湧いて来た。図-8のとおり正味 2010(平成 22)年 7 月 27 日(火)宮城県閑上海岸スタート⇒ 8 月 2 日(月)山形県湯野浜海岸ゴールまでを 6 連泊 7 日間で、実歩行距離 208 km をスルーハイクで踏破した。

その時 7 月 27 日(火)、日の出の時間に名取市の閑上海岸^{ゆりあげ}において、200 cc ペットボトルに太平洋の海水を汲み入れて、それを日本海まで背負って歩き通し、7 日後の 8 月 2 日(月)午後鶴岡市湯野浜海岸にゴール、それを日本海に注ぎ入れたのである。スタートにおいては無事の歩行通貫を誓い、ゴールにおいては感謝を込めて、その都度、海に頭を垂れ儀式に見立てて締め括った。その時の様子が図-9のとおり。最後に太平洋の海水を少し残し、それに日本海の海水を足し込んで、これを金剛（混合）聖水と称して自宅の神棚にしばらく飾った。

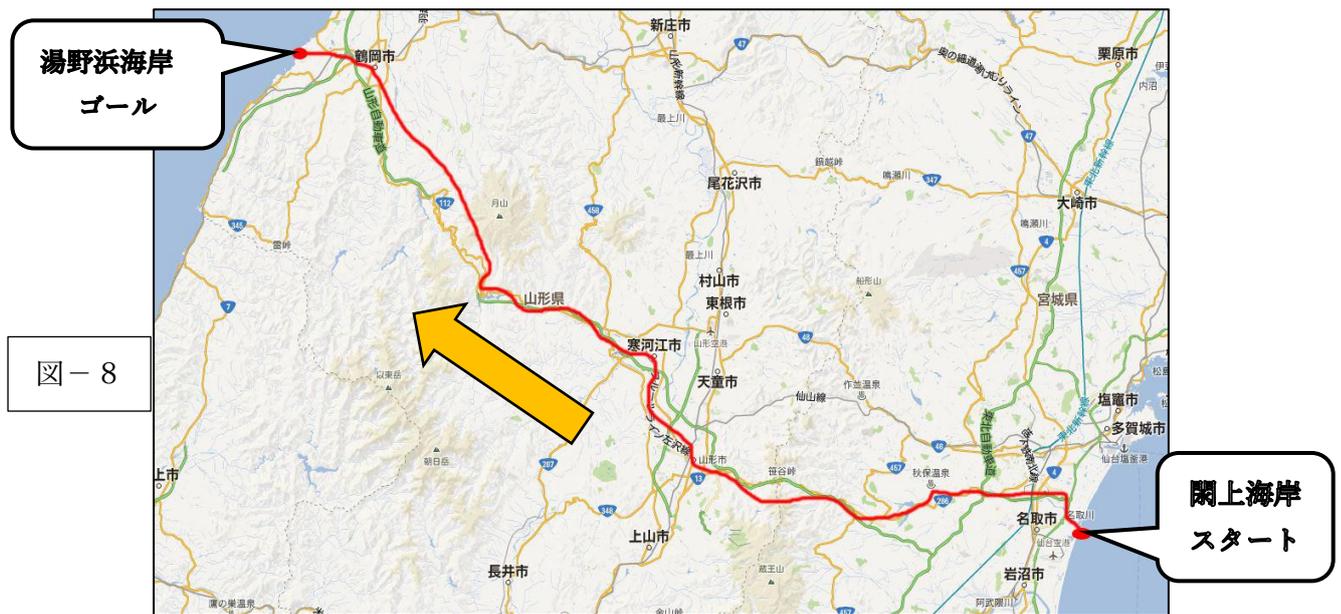


図-8



図-9

この時、太平洋を陽の男、日本海を陰の女に見立てた私にとって、それらはすなわち人間の男（太平洋）と女（日本海）の結婚（marriage）に繋がり、私が仲人役になると想念したのである。

他方で、海水を背負って歩くということは、その道筋に用水路を開削したことになる構想し、この開削する用水路を産道に見立てると共に、運河にも見立て、「日本第 1 運河開通」と呼称付けすることにした、こうして出発前に、「大香ブランド老魂サブタイトル」を「太平洋・日本海マリッジ大作戦（日本第 1 運河開通）」に設定したのである。

c. 聖水を背負った実績の集計

「前半、街道トレイル」においては、図(表)-10のとおり4件となった。

図(表)-10			
通番	スルーハイクの基本名称	水区分	[大香ブランド老魂サブタイトル]
②	やまみや 旧山宮街道	海水	[太平洋・日本海マリッジ大作戦] (日本第1運河開通) 太平洋⇒日本海
⑨	旧塩の道 (秋葉古道): ①リベンジ	〃	[福島原発放射能汚染の太平洋浄化大作戦] (日本第2運河開通) 日本海⇒太平洋
⑪	旧奥州道中	〃	[蟻の一穴ブレイクスルー東北縦断大作戦] (日本第3運河開通) 東京湾⇒青森湾
⑭	旧羽州街道	真水	[六十五ハート全開-奥羽両州連結大作戦] (日本第4運河開通) 吾が地元⇒青森湾 真水を背負うのはこれが初めて

「後半、へんろトレイル」においては、図(表)-11のとおりとなった。④から⑩までは真水だけを背負い、①⑪においては採取した水(真水と海水)を混合して背負った、背中で揺らされた混合水は熟成し化学反応が生じ、私に気合いを与える格別の金剛聖水に豹変した。

図(表)-11				
通番	スルーハイクの基本名称	水の入手先		
④⑤	1回目の四国へんろ	真水	菩提寺は石行寺境内御滝の真水	
⑥⑦	2回目の四国へんろ &坂本龍馬脱藩の道	真水	同上	
⑧⑨	3回目の四国へんろ &高野山への道	真水	66番雲辺寺までは同上、そこからは同寺の真水	
⑩⑪	長崎遊学 Zigzag 紀行	真水	菩提寺は石行寺境内の御滝	
①	さいごく 西国三十三所観音霊場順(巡)礼	混合水	真水	<ul style="list-style-type: none"> 菩提寺は石行寺境内の御滝 吾が地元の月山神社の湧水 琵琶湖の真水 那智の滝の真水
			海水	<ul style="list-style-type: none"> 宮津湾の潮水 [日本海] 那智湾の潮水 [太平洋]
⑪	四国 たてぶいよこいち 縦V横一 登山へんろ	混合水	真水	菩提寺は石行寺境内の御滝
			海水	次頁図(表)-12のと通りの5か所より汲み上げた。

図(表)－12

順番	採取場所	採取			天候
		経過日数	月 日	時間帯	
①	東予港	スタート前日	10月14日(月)	16時20分頃	曇り
②	高知港	6日目	10月20日(日)	9時20分頃	晴れ
③	川之江港	10日目	10月24日(木)	11時40分頃	雨(どしゃぶり)
④	宇和島港	11日目	10月25日(金)	7時30分頃	晴れ
⑤	徳島港	22日目	11月5日(火)	14時25分頃	快晴

(2) アオキ葉

十字対生に拘り、アオキ葉を背負いました。

a. 選定した意味合い

前半の街道トレイル最後の⑭旧羽州街道から始めたことである。後半のへんろトレイル全11件においては4回目四国へんろ以前まで10件に適用し、ラミネートして背負った。この意味合いは以下3点のとおり。

その1；道は様々な道――国道等の公共道、林道、畑作道、山菜道、迷い道、獣道・・・――が交差・交錯し、人々や車や動物が行き交う。その交差点は十字路やY分字路（三叉路、T字路）だが、象徴化（デフォルメ）すれば十字路である。人間模様を重ねれば、交差点は人々が出会い、離れ別れる、えしやじょうり会者定離・愛別離苦の悲喜交々の結合点である。人間は喜怒哀楽が止めどもなく湧いて来るが、その瞬時瞬間に判断の分岐に出会い、その分岐で判断を迫られ選択の判断を行う。その時に応じて適宜適切に正しい判断を鍛錬・醸成したく念じている。

その2；そのような行き交う人々の守り神は、道分けの神（導きの神、道拓きの神、むすびの神）のサルタヒコノオオカミ（※）猿田彦大神である。現地では国土地理院地形図には表記されていない道が沢山あるが、その分岐点で間違いのない正しい選択の決断を促してくれるサルタヒコノオオカミの神通力を形にしく考えた。

（※）『古事記』および『日本書紀』の天孫降臨の段に登場する。上は天界（高天原）のあまつかみ天津神最高神『天照大御神』から、下は地上界（葦原中津国）を治めるように遣わされたにぎのみこと瓊瓊杵尊を、無事に道案内した地上界国津神の最高神をいう。くにつかみ

その3；わが国の古代は、毎日繰り返す東から昇り西に沈む太陽の運行に、生死に係る人間の生命の営みを重ねて来た、よって、「もの・こと」の万般の理解・解釈に当ってはいわゆる東西軸の水平観に主軸を置いていた。その後、中国の哲学（陰陽五行説、易経）が入り、天皇皇帝（天帝、首王）は、動かぬ北極星の位置に座して、北を背面に、南面を向いて為政する「太極・太一」と習合し、ここに南北軸の垂直観も取り入れられた。しかし、水平観が消滅した訳ではなく、水平・垂直の両方の視観が併存し今日に至っている。私はこのような歴史的変遷に鑑みて、水平観・垂直観の交差点・十字路（+、×）は、「もの・こと」の真理のあり様を象徴するポイントであると、つまり、「もの・こと」の真理追及に当っては、水平に係る左右対極の視点、垂直に係る上下両極の視点、ひいては球体的視点の必要性をおし訓えるものと考えている。

.....

以上を考えながらあれこれ思案しつつ、その思いに重なるものを探す中で吾が家の小さな庭から見付けたのが、葉付きが十字対生の「アオキ葉」であった。思いをこの「アオキ葉」に仮託して歩いたということである。

b. 植生・特徴

図-13上のとおり、葉付きは上から見ると綺麗な左右対称性の十字を構成している。人間もほぼ左右対称、しかし、葉片も人間も上下対象ではない。同図下は、アオキの雌雄の花弁も十字対生、かつ左右上下対象である、つまり、点対称なのだ。「似ているが違う、違うようで似ている」ここがいいのだ。全姿は年間常緑である。普通の植物が葉を落とし、実を落とす真冬を過ぎた3月頃下旬から実は赤く色付き、4月中旬以降にはその真っ赤な実の傍らで花を咲かせるのである。これはいわば一周遅れの変り者（偏屈？）の象徴で私にとっても似つかわしいものである。なお、十字対生には私の好きなヒトリシズカあるいはフタリシズカ（図-14）があるが、これは日持ちしないこと、青い盛りは限定期であることから携行（背負う）することには不適とした。



図-13a

図-14



図-13b

アオキ葉は生であり、取れば水分が抜けて黒ずむことから、ラミネートすると図-13bのとおりになる。

《 参 考 》

戦国時代、豊臣秀吉の知恵袋といわれた黒田官兵衛(黒田如水；キリシタン大名)の教え「水五訓」について記述する。

- 一 自ら活動して他を動かしむるは水なり
- 二 常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 三 障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 四 自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るるは水なり
- 五 洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり、
雪と変じ霰^{あられ}と化し凝^{ぎょう}しては玲瓏^{れいろう}たる鏡となりたえるも其^{その}性を失はざるは水なり

私が「水五訓」から学ぶこととして、浮かんだ四文字熟語等は次のとおり。

一については、「率先垂範」である、そして、「知行合一」である。

頭でっかちで知識偏重、他人を口先と指先だけで動かしたり、囲い込もうとする胡散臭いのがうようよしている世の中は要注意である。そのような輩には「面従腹背」であしらって信用しない、以後は不用意に近付かない。 連なって浮かんで来た名言である。

□山本五十六――太平洋戦争当時の日本海軍最高指揮官――の名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」

□上杉鷹山(上杉治憲)――米沢藩9代藩主――の名言「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の、為さぬなりけり」

二については「常在戦場」である。

三については「難関突破、進取果敢」である、そして「フロンティア・スピリット、ルート・ファイティング、ブレイクスルー」である。

四については、「対等互敬(恵)」である、そして、「玉石同匱^{どうき}」(匱^きとは大きな箱)である。

五については、「自由自在」である、そして、「縦横無尽」「円転滑脱」である。

【No05-4】 [4] シンクレティズム具象化／自由白衣に社寺御朱印

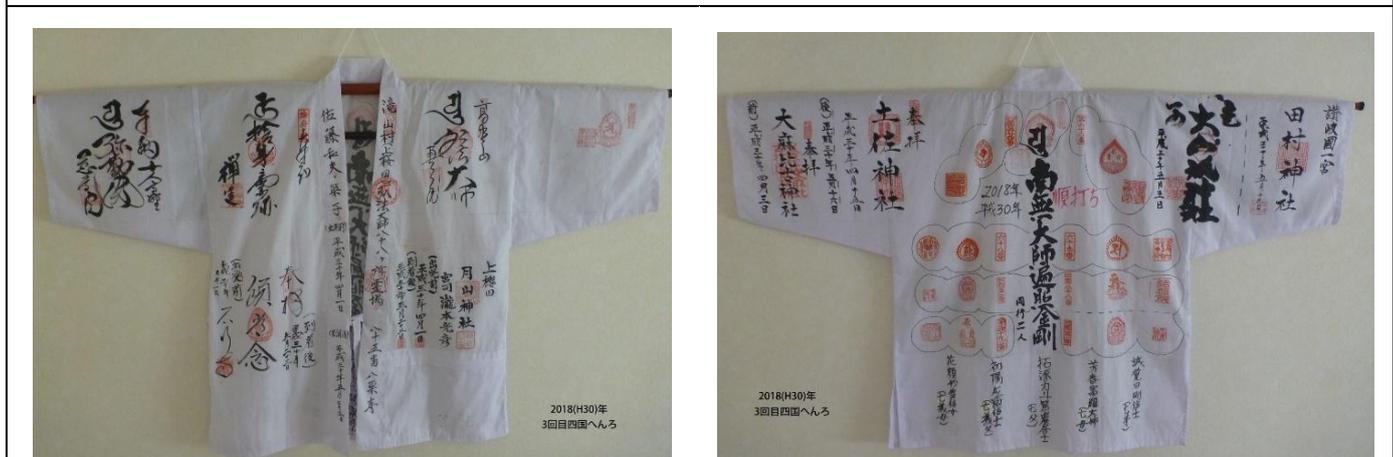
形式的な御朱印帳・納経軸・印取白衣に朱印を貰う他に、私のシンクレティズム（諸教混交）の見える化を図りたく、思い入れのある寺社から貰ったものである。各個別の報告書において活字化を図っている。



図(表)-15／ 1回目四国へんろ（前面のみ利用）



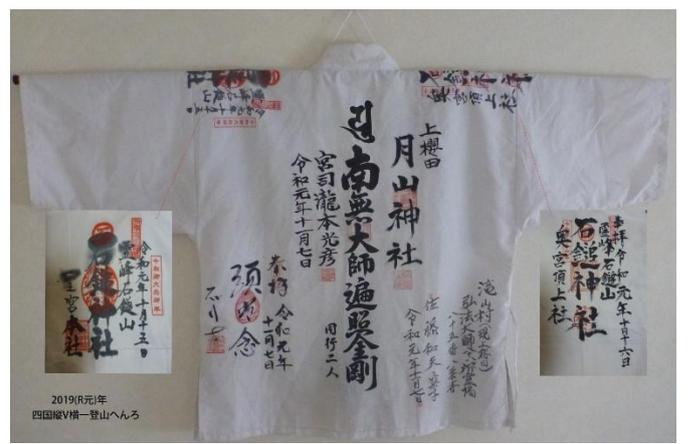
図(表)-16／ 2回目四国へんろ（背面のみ利用）



図(表)-17／ 3回目四国へんろ（前後両面利用）



図(表)-18/ ^{さいごく}西国三十三観音霊場へんろ (前後両面利用)



図(表)-19/ ^{たてぶいよこいち}四国縦V横一登山へんろ (前後両面利用)



図(表)-20/ 四回目四国へんろ

前記御朱印用自由白衣の朱印集計一覧は下表のとおり。

四国へんろ 1 回目 (順打ち)	四国へんろ 2 回目 (逆打ち)
<p style="text-align: center;">【前面のみ】</p> <p>◇地元の菩提寺 <small>しゃくぎょうじ</small> 石行寺 (発と着) 2 所 ◇地元の村社 (上桜田) <small>がっさん</small> 月山神社 (発と着) 2 所</p> <p>(小計) 4 所</p> <p>(平成 26 年開創 1200 年記念)</p>	<p style="text-align: center;">【背面のみ】</p> <p>◇地元の菩提寺 <small>しゃくぎょうじ</small> 石行寺 (発と着) 2 所 ◇地元の村社 (上桜田) <small>がっさん</small> 月山神社 (発と着) 2 所 ◇掘田村・滝山村弘法大師八十八所 霊場 (85 番八栗寺番屋;発と着) 2 所 <small>つきやま</small> ◇月山神社 (高知県大月町) 1 所 ◇1 番霊山寺・20 番鶴林寺・24 番最御崎寺 38 番金剛福寺・39 番延光寺・42 番仏木寺 88 番大窪寺 (2) の 8 所</p> <p>(小計) 15 所</p>
四国へんろ 3 回目 (順打ち)	四国へんろ 4 回目 (逆打ち)
<p style="text-align: center;">【前面】</p> <p>◇地元の菩提寺 <small>しゃくぎょうじ</small> 石行寺 (発と着) 2 所 ◇地元の村社 (上桜田) <small>がっさん</small> 月山神社 (発と着) 2 所 ◇掘田村・滝山村弘法大師八十八所霊場 (85 番八栗寺番屋;発と着) 2 所 ◇85 番八栗寺 1 所 ◇慈尊院 1 所 ◇73 番出釈迦寺奥の院－捨身ヶ獄禅定 1 所 ◇高野山奥の院 1 所 ◇高野山金剛峰寺 根本大塔 1 所</p> <p style="text-align: center;">【背面】</p> <p>◇大麻比古神社・土佐神社・大山祇神社 田村神社 4 所 ◇高野山奥の院 1 所 ◇1 番霊山寺 (2)・24 番最御崎寺・49 番浄土寺 66 雲辺寺・68 番神恵院・69 番観音寺・ 88 番大窪寺の 8 所</p> <p>(小計) 24 所</p>	<p style="text-align: center;">【前面】</p> <p>◇地元の菩提寺 <small>しゃくぎょうじ</small> 石行寺 (発着延べ) 2 所 ◇地元の村社 (上桜田) <small>がっさん</small> 月山神社 (発着延べ) 2 所</p> <p>◇高野山奥之院 1 所 ◇與田寺 1 所 ◇紀州東照宮 1 所 ◇西国三番粉河寺 1 所 ◇西国二番紀三井寺 1 所 ◇大麻比古神社 1 所</p> <p style="text-align: center;">【背面】</p> <p>88 番大窪寺⇒2024(R6)/4/10(水) [スタート] 2024(R6)/6/11(火) [結願] の 1 所 2 印 (延べ 2 所) 1 番霊山寺 2024(R6)/6/2(日) [満願] 2024(R6)/6/9(日) [リスタート] の 1 所 2 印 (延べ 2 所)</p> <p>(小計) 14 所</p>
<p>総計 57 所</p>	
<p>図(表)－21</p>	

(end)

繰り返すが、私は宗教の〇〇団体とか、〇〇教とか、〇〇宗とか、個別のものには特別な関心はまったくなく、もちろん入会もしていない。何か特別な心の傾けを以って信仰している宗派はない。基本は、神様・仏様・キリスト様を平らかに扱うことにしている。

四国八十八カ所霊場会においては、札所（寺院）で読誦・奉納すべき標準的な御経〔合掌礼拝、開経偈、懺悔文、参帰依文、十善戒、発菩提心真言、参味耶会真言、般若心経、ご本尊真言、光明真言、ご宝号、回向文、合掌礼拝、御詠歌またはご和讃〕を推奨しているが、それらをきちんと読誦したのは1回目の四国へんろだけである。

ここで、図-22を紹介しておく。2回目へんろ 2017(H29)年、
22日目4月25日（火）撮影、高知県大月町の月山神社手前の遍路道（山道）には、地元大月小学校の学童が描いた歩きお遍路さんに対する激励メッセージが木々にぶら下げられている。四国遍路は札所と呼ぶお寺を巡拝するが、同図とおおり、高橋さんの絵柄には、鳥居の形が大きく描かれている。この他に何人も同様の鳥居を描いていた。子供達のイメージとしては、巡拝の対象が神社という錯誤ではなく、寺とか神社とかの区別なく、とにかく神様のような何か神秘的で偉大なものと写っているのだろう。寺のマークの卍を書いている人は誰もいなかった、子供達の感性に脱帽である、大人になってもこのような感性が大事である。



図-22

さて、2回目以降の四国へんろ、西国三十三へんろにおいては、図(表)-23のとおりで、仏様への経は絞り、神社神道の「祓

詞」、キリスト教の「御言葉」をも唱えた。思い付きではなく計画時から決めていた。祓詞を唱える所作は前後に神道方式“二礼二拍手一礼”（柏手を打ち）、キリスト教御言葉を唱える所作は前後にカトリック方式“父（額）と子（胸）と聖霊（左肩）の御名によって（右肩）アーメン（指を組んで合掌）”と、顔と胸の処で十字を切る作法を以って対応した。

お寺でなぜ祓詞・御言葉なのか？ 神社でなぜ般若心経・キリスト教の御言葉なのだ？ と疑問を持たれると思う。人間のあるべき指針を啓示している象徴的な宗教としては神社神道、仏教、キリスト教だと考えて、神仏習合の姿が大好きな私は、シンクレティズム（syncretism；諸教混淆）を尊重し、そのような行動をとったものである。人によっては邪道（外道の邪見）だと語気を強める人は多数いるだろうが、私は意に介しない、当たり前の心・言・行なのだ。

なお、大師堂前で般若心経を読誦しない理由は、単に時間短縮のためである。

私は「崇仏敬神＝偶像崇拜」と憚らないシンクレティズムの者として、神仏の有りもしない靈魂に縋るという考え方はさらさらなく、寺院や神社の本殿の前に佇む機会を利用し、自身内の『仏性』と『魔性』の二人自己対話をする時間・空間と見なしているだけである。

崇める対象	本堂前で読経 ^(註)	大師堂前で読経
仏（仏教）	般若心経	――
	光明真言 家族5人の戒名 お大師御宝号（3回）	
神（神道）	祓言葉	
キリスト（キリスト教）	御(み)言葉	

・般若心経（省略）

・光明の真言
おん あぼきやー
べいーろしやのう
まかぼだら まに
はんどま じんばら
はらばりたや うん

・亡き父母戒名
拓原力斗篤農居士（亡父 力）
ほうしゅんふたうだいし
芳春富耀大姉（亡母 トミヨ）
せいかくにちごうしんじ
誠覚日剛信士（亡弟 剛）
しょうじょうまんしんじ
初陽成満信士（亡義父 初男）
かがんみょうせつしんによ
花顔妙雪信女（亡義母 花子）

・お大師御宝号
南無大師遍照金剛
なむだいしへんじょうこんごう

・祓詞
はらへことば
掛けまくも畏き伊邪那岐の大神
か かしこ いざなぎ おほかみ
つくし ひむか たちばな おど
筑紫の日向の橘の小戸の
あわぎはら みそぎはら たま
阿波岐原に 禊祓へ給ひし時に
な はら ど おほかみたち
成りませる祓へ戸の大神等
もろもろ まがごと つみ けがれあ
諸諸の禍事・罪・穢有らむをば
はら たま きよ たま まを こと
祓へ給ひ清め給へと白す事を
き かしこ かしこ まを
聞こし食せと恐み恐みも白す

・御言葉
神よ 私は おごらず 高ぶらず
偉大な事 身に余る事を
求めようとしない
心静かに 私は憩う
母の手に 安らぐ幼子のように
心静かに 私は憩う
神の前にある 幼子のように

図(表) - 23

(註) 西国三十三観音霊場へんろにおいては、^{かんのおんごわきん}観音御和讃を讀誦した。

【No05-6】 [6] 地元の社寺に仁義を切ったお参り

これまでの徒歩へんろ（四国4回、西国1回）に当たっては、本番行程の前・後に、吾が地元の社寺（図-24）に対し、出発前日には無事を誓い、帰宅後の翌日には感謝報告を以って参拝し、納経して来た。私が崇敬している足元の社寺に対する礼儀・挨拶という意味である。



図-24

1. 吾が地元の村社「(宗) ^{がっさん}月山神社」

自宅から直線距離 170m 程の所にあり、図-25 のとおりの小さな境内ではあるが、針葉樹と広葉樹が混在して鎮守の森を造形している。これでも宗教法人であり、神職無住ではあるが、少し離れた地区の瀧本光彦氏が宮司（代表責任役員）を勤めている。

祭神は「つくよみのみこと月読尊」である。毎年の例大祭（毎年の祭典）は、子供神輿が繰り出し 4 月 29 日（昭和の日）に実施している。

現状、法人格を有する『認可地縁団体』の吾が町内会（自治会）は宗教法人を直営していることから、

憲法の保障する信教の自由などに抵触しており、正常化を図るべきであると具体的な改善提案を行っている。



図-25

2. 菩提寺「しゃくぎょうじ新福山石行寺」

同寺は天台宗、私の亡き父母と弟が眠っている菩提寺である。また、最上三十三観音霊場第七番岩波観音（図-26）の別当寺（納経所）でもある。

同図写真のとおり、岩波観音の入り口（奥の御堂が観音堂）には何と昔のままの神社鳥居が結界している、本尊は十一面観音菩薩である。

昔は瀧山（竜山）信仰の中心として栄え、708 年行基菩薩が開山、慈覚大師が再興した歴史ある寺院である。

私のへんろにおいては、まずは、この岩波観音様を、次に同寺の本堂内でお参りして来た。

- ◎ 寺では御詠歌・和讃の会、オカリナの会、茶道の会を毎月 2 回ずつ開催している。
- ◎ そして、観音堂で毎月 20 日に副住職が護摩祈祷を行っている。



図-26

なお、図-27 のとおり、天台宗の石行寺本堂には、真言宗開祖の弘法大師像（空海）が、天台宗開祖の伝教大師（最澄）像と並んで祀られている。余談のこと、弘法大師は下段で伝教大師よりも位を下段に祀っているが、他方ではお参りする人に近いことを意味する。



図-27a



図-27b

3. 佐藤さん宅の祭壇・お大師様



佐藤さん

図-28



私の隣家の個人宅である。当地区界限には、明治四十四年八月二十日に設定された四国霊場の写し霊場として『堀田（村）・滝山（村）八十八所霊場』がある。私の居住地区には、その中の5軒（図-28）が比定されている、佐藤さん宅は『85番八栗寺』を受け持ち、写真（同図中の『これ』）のようなお大師様の像を祀っている。

日常적으로世話になっているお宅であり、まずは吾が足元ということでお参りして来た。

なお、後半のへんろトレイルにおいて、ここ佐藤さんのお大師様への参拝は、上記四国3回・西国1回の計4回実施している。（四国へんろ4回目の時期は、体調不良で佐藤さんは対応不可となっている。）

4. お参りに係る御朱印

例示として、4回目四国へんろの時の朱印は図-29のとおり。



図-29

【No05-7】 [7] 順番通りの「貫中久」順礼

私の四国歩きへんろの打ち方は、「起承転結」の考え方を取り入れて、札所不定の順番に拘ったことについてである。

順打ち時のイメージは図(表)-30のようになった。

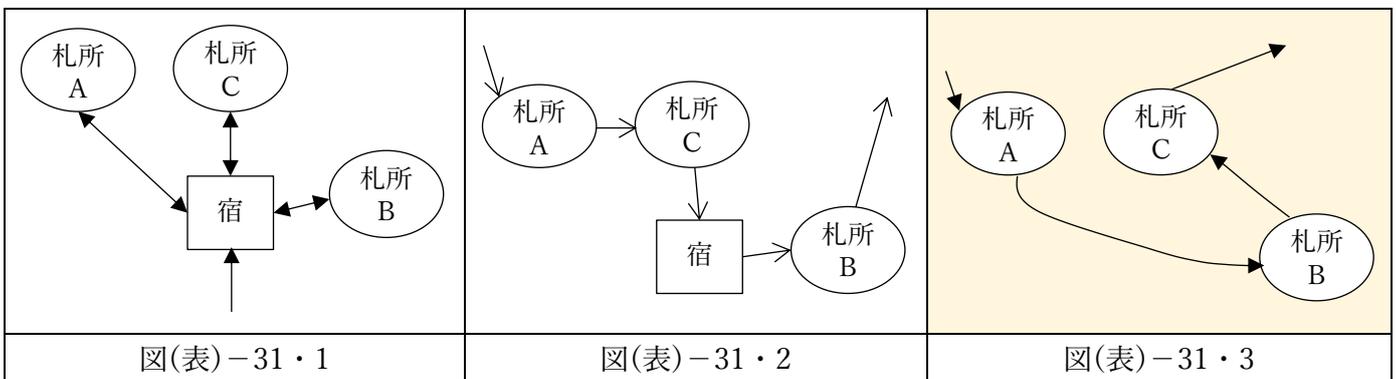
自宅・地元 前工程		札所不定の順番通り打つ			自宅・地元 後工程	
(移動)		現地スタート	順礼トレイル	現地ゴール	(移動)	
		1 番	納経 (札打ち)	88 番		
起		承・転			結	
図(表)-30						

四国八十八所霊場においては、御朱印には日付を入れてくれない。順序を問わずどこから納経してもよい、どんな巡り方をしてもよい、要は八十八か寺に参拝し、納経料金 (300 円、あるいは 500 円) を納めて貰えばよいということなのだろう。しかし、販売されている納経帳には札所の順番どおりに御朱印スペース (余白) が取られている。

現地であるへんろ人から聞いたのだが、御朱印を間違っって別の所に頂戴した (例えば、納経帳の 50 番の所に 60 番札所のもの) とのこと。混雑していた中で、自分が間違っって開いて差し出し、それを納経担当者は確認もせず押印してしまったということ。

往々にしてある事例を示す。図(表)-31・1のようにある宿を拠点として、その時の気分で順不同ランダムに打つ、あるいは、同2のように、近い札所から打って行くというやり方である。

私は、そのように安直な対応は一度も取っていない。4回全てにおいて、初めから順番どおりに埋まるように、順打ちでは「1番→2番・・・87番→88番→1番」、あるいは、逆打ちでは「88番→87番・・・2番→1番→88番」と、徹底して順番 (札所不定の番号) に拘って打った。剣道精神「貫中久」、すなわち、初心貫徹を以って一つ一つの目標点を繋ぎ (中てる)、ついには結願を果たし、その心を忘れずにそれ以降の生き方に活かして行く精神を踏まえて私の取ったこの行動を「順礼」と称している。きれいな打ち方を行ったという充足感が湧いて来る。



(end)

「(社) へんろみち保存協力会」発行「管理編」に、「従来から遍路の間ではお礼詣りと云うならわしがある。本来打ち始めの札所へするのが建前であるが、行程の都合で最寄りの札所へ額づいて帰る方法もとられている。・・・高野山詣、一般に、遍路は四国巡拝に先立ち、あるいは満願後に高野山奥の院に参詣している。」と記述されている。

私は、お礼参りの行為については、「最後は閉じる」(最期・末期は閉じる)という意義付けをしている。言い換えると、円環成就をねらい起承転結の『結』と阿吽の『吽』の具現化の実践である、『結・吽』のないものは締まりがない、物足りなさを感じる。閉じる結があつてこその一気通貫で裏打ちされる「起承転結」であるという考え方である。四国へんろ4回、西国三十三所観音霊場へんろを1回行ったが、その5回に共通したことである。

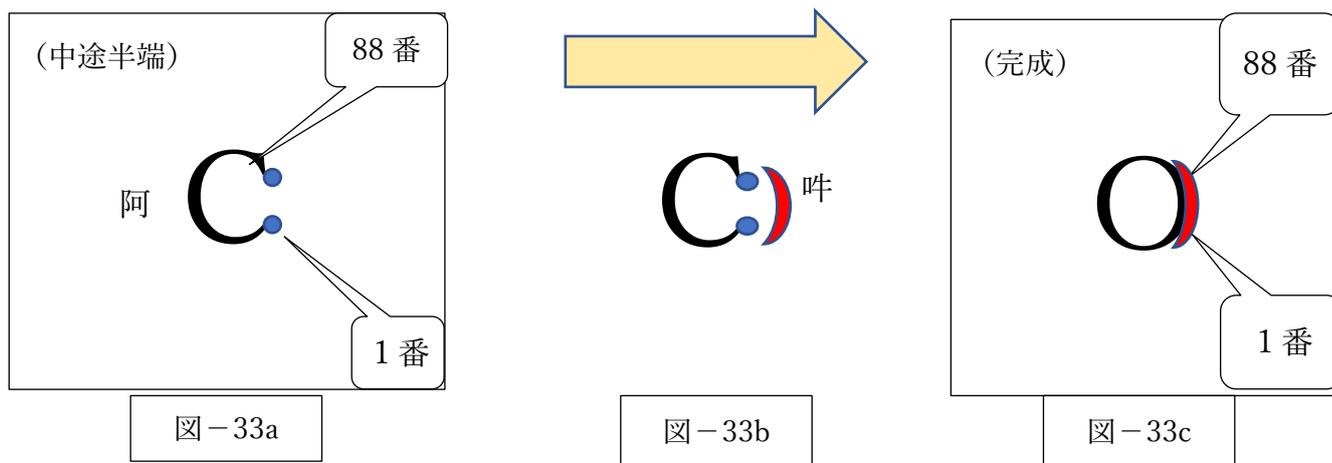
(1) 於四国へんろ

四国へんろの順打ち(1番霊山寺スタート ⇒ 88番大窪寺ゴール)においても、逆打ち(88番大窪寺スタート ⇒ 1番霊山寺ゴール)にしても、その二つの位置関係は図-32のとおり。順打ちに焦点を当てて説明するが、四国へんろの最終目標である88番を参拝し、いわゆる結願した人の殆どは帰宅の途に着く。結願が最終の目標・目的だから、成就・達成すれば「全て佳し」なのである。それでは、足跡(GPS軌跡・GPSトラックログ)において88番と1番の間が抜けるということになる。私は88番だけで終われば締まりがなく中途半端を感じるだろう、後悔が残る後々まで引きずるだろうと事前に想像が付いた。



図-32

88番（逆打ちは1番）で終わる図-33aの形は、右側に隙間が生じ中途半端である。そこで隙間を塞ぐ必要があると考えた。塞ぐもののイメージ図柄を何にするか、三日月（同図b）が浮かんだ。同図aは英語のCのように口を開けた『阿』である。塞ぐ三日月を以って『呬』となる。完成したのは同図cのようにまん丸の太陽である、目出度し目出度し。太陽の日は太陰の月とペアを組む。そのためには、結願寺の88番大窪寺から発願寺の1番霊山寺に歩き通さなければならないのである。そのようなことについてお天道様とお月様から指令を貰ったことから前記図-14軌跡のとおり、約43kmを歩いて繋いだのである、丸1日かかりである、2日間を要したこともあった。この1・2日は人によっては意味のない無駄なことになるであろう。私にとって不可欠の意義深いものは、他人からすれば無意味ということになる。善悪を争う問題ではなく価値観の相違、見解の相違というもの、世の中の当然の有り様である。



(2) 於西国へんろ

西国へんろ（図-34）も四国へんろ同様に「最後は閉じる」こと（closing）に拘った。1番青岸渡寺をスタート、33番華嚴寺で満願（ゴール）した。一般的にはここで終わりにする。しかし、私はその後、最寄りの木知原駅から伊勢神宮外宮まで電車移動し、同宮で参拝後、そこから内宮までの古道を歩き通し、参拝終了後、最寄りの五十鈴川駅から電車移動で、那智勝浦駅まで乗り降車した、翌日、そこから再び歩いて1番青岸渡寺に到着し、心の結願とした。同図において紫色の実線は、敢えて「閉じる」ことの行動を起こしたGPSトラックログである。電車利用・歩行移動に伴うGPS軌跡を以って「閉じた」のである。「閉じる」ことを実体験して見るに、そこで達成感を味わうことが出来た。

ところで、吾が人生（命）を閉じる末期のその瞬間に何が浮かぶだろうか？ “あれもやった、これもやった、あの人に出会って本当に良かった・・・満足、満足、大満足”で逝きたいと念じている。



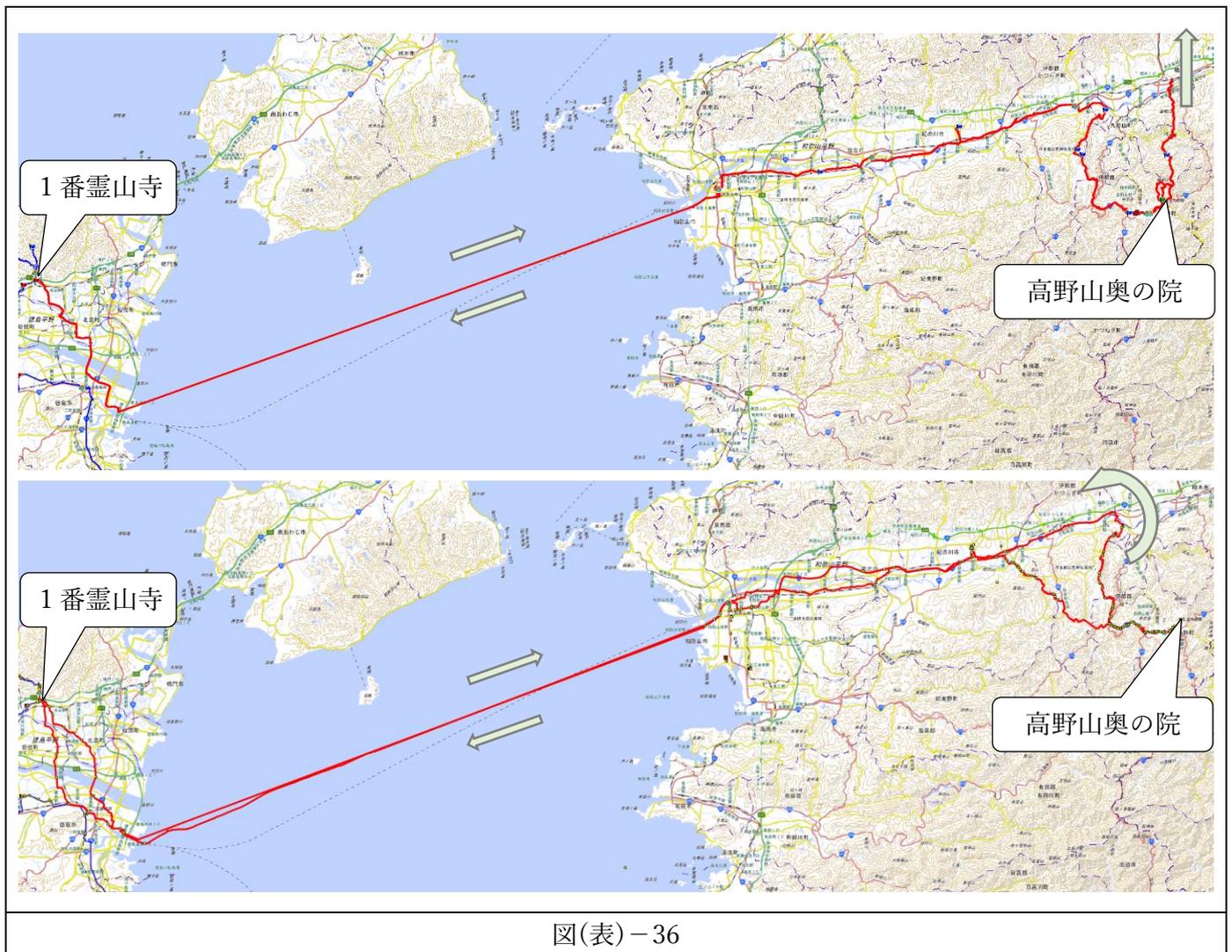
図-34

(3) 高野山参り

4 回の四国へんろに係る対応は図(表)-35・36のとおり。

1 回目へんろ	2 回目へんろ	3 回目へんろ	4 回目へんろ
鉄道利用により、高野山にはへんろの前後に参った。		へんろ終了後、引き続き1 番靈山寺から歩き、徳島港から和歌山港間はフェリー、そこから高野山まで3 日間掛けて歩き参拝した。	へんろ終了後、引き続き1 番靈山寺から歩き、徳島港から和歌山港間はフェリー、そこから高野山まで2 日間掛けて歩き参拝した。引き続き逆に引き返し1 番靈山寺に戻り、さらに、與田寺経由の2 日間掛けてスタート基点の88 番大窪寺に戻った。これで全てを終えて帰宅の途に着いた。
		a	b

図(表)-35



図(表)－36

(4) 私の拘り

冒頭前出協力会のいうとおり、近年は、歩きへんろ人もお礼参りをする人は多くなっただろうが、私の取り組みは次の点で珍しいと思っている。

- ・単なるお礼参りではなく、きちんと意義付けを図ったこと。
- ・へんろ4回の全てをアップダウンがあって標高320mの大坂越、卯辰越の、あえて難儀なコースを選択したこと。88番と1番を繋ぐコースには平坦な10番切幡寺経由もあり、大半はこちらであろう。また、複数回の遍路人にしても大阪越えは僅かであろう。
- ・高野山までの片道を歩いた、あるいは、歩いて往復したこと。こんな人はいたでしょうか？

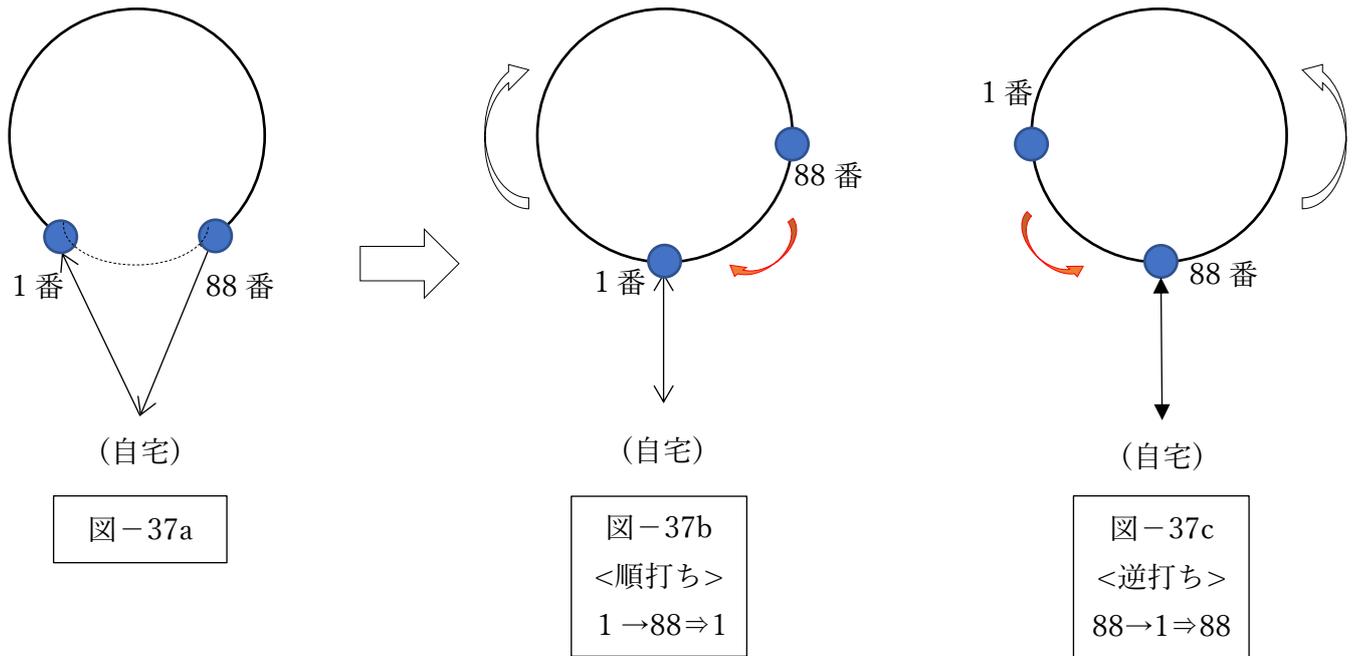
(5) 「閉じる」ことのもう一面

a. 宗教学者の山折哲雄氏はその著書「山折哲雄の新・四国遍路」(PHP新書)の中で次のように述べている

——「 四国霊場、西国霊場、千日回峰行など日本の巡礼はすべて右回りの円運動になっていることに注目したい。これに対して、世界遺産に登録されているスペインの『サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路』などキリスト教、イスラム教の巡礼は自分たちの神や宮殿だけを参拝して戻る往復運動です。 」——

山折さんのイメージしている円運動とは、図-37aの形なのかもしれないが、私のへんろに係る円環とは、あくまでも同図bあるいは同図cのような形成を指している。巡礼路において閉じるのだ。同図17aでは私の本意とはまったくかけ離れてしまう。

b. 出発する前と帰宅後における吾が地元の寺社2か所に対する畏敬参拝について。一つは村社「(宗)月山神社」、二つ目は菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第七番岩波観音」である、四国へんろ4回・西国1回の計5回の歩きへんろにおいては、行き(往き)と帰り(復り)に当たっては、同じ寺社について逆の順序で参拝の「閉じ行為」(closing)を行った。その上でご御朱印を貰っている。



なお、私の居住地には『堀田村・滝山村八十八所(写し)霊場』が設定されており、お隣の佐藤さん宅は85番八栗寺が比定されている。そごて、四国2・3回目、西国巡礼においての3回、参拝し、ご御朱印代わりに、白衣に署名・捺印して貰った。

(6) 「閉じる」に敢えて拘る理由はなぜなのか

陰陽二元相対(待)性原理が頭にある。「陽中陰あり、陰中陽あり」の世は、「宇宙の始まり(存在の発生)の言葉『阿』(開ける)、陽」と、「終わり(存在の終結)の言葉『吽』(閉じる)、陰」の正反対二つが一对で一つを成す、すなわち円環を為して完成するものである。この原理に外れれば当然満足は得られない。何事も「起承転結」のけじめ・節目が必要であると思っている。最後は閉じてこそその完結である。

前記図-17a イメージで終わる人——“ 次回は1番と88番を繋いで閉じてみよう! ” という人 ” は、何事に付けて、“そのうち、そのうち”が口癖、この言葉を平気で乱発する人は、そのことを永久に実行しない・出来ない、性格的に胡散臭く誠実でない人である。なぜ、胡散臭いと言えるのか、対象のもの・ことに完結の節(魂)を入れていないのだ。外面的には閉じたように見せかけてその実は閉じていない、つまり、外面的には実行したように見せ掛けて、その実は実行していない詐欺師性格の片鱗を漏らした証左である。

また、陰陽とくれば、女と男の出番である、凹凸を持ち合い互いに結び合い、開いている所を閉じてこその子孫繁栄、五穀豊穰というものである、片思いは成らないのである。

(7) 仏教と神道に繋がること

よく仏の世界は円環的で、神道の世界は直線的と言われる。

前者仏教（仏堂）施設についての多くは、一般的には、お寺の中に入ると、ご本尊を祭る逗子・内陣（その中は簡単に見せない。）の中央祭壇を裏側まで回ることが出来る。三重の塔とか五重の塔もそうである。仏教を様々な仏像を以って可視化している、開放的でオープンな様相である。

後者神社（神殿）施設についての多くは、一般的には、鏡が置かれている最奥の神殿に向かって、その手前の拝殿から拝むだけになる、回るようにはなっていない。神社神道においては、元々神様は隠れている・隠しているものであることからは見えないのだ。閉鎖的でクローズドな様相である。

そのように寺社の性格の一面においては、動系の円運動と静系の直線（往復）運動との対極的な関係にある。

宗教の何とやらを強く意識しようがしまいが、現代において国民の日常生活に溶け込んでいる宗教施設は間違いなくお寺と神社である。我々庶民は、神仏とその施設を自己都合に合わせ、動と静を、回転と往復の動きを上手に柔軟に使い分けている。直線の両端を結べば円になり、円の任意点を切断すれば直線になり、同じものである、メビウスの帯も見方は同類である。陽中陰あり・陰中陽ありの陰陽相対（待）性原理が溶け込んでいる世界で平民は活躍しているのだ。あえて、庶民とか平民という言葉を使ったが、その訳は、一部の専門馬鹿――つまり、神職や僧職で偏っている者を揶揄するために対比的な表現を取ったものである。

根本的に、陰陽が混在する私においては、常々に左右（上下、あるいは前後）対極を意識せざるを得なく、対称的な相関にある神仏に接触する機会にあれば、すなわち「後半、へんろトレイル」に当たっては、意図的計画的に寺院のみならず関連所要の神社への参拝も行って来た。日頃から「神・仏・キ混淆、神・仏・キ習合」のシンクレティズムは私の中では当たり前なのだから。

タイトル「起承転結・阿吽で円環成就」は、憧れ・夢を形にしたいという願望・思いの実現化の最後の行動であったのだ。

(end)

4回（別年単位で4巡）の四国歩きへんろについて、記録報告書を作成しているが、その件名に“〔松陰・六部・童財善子〕もどき”と記述しているが、その根拠を整理する。歴史上に名を遺した3人の廻国遊行から絞り出された生き様に傾倒・心酔し、重なると思う処があること、あるいは、憧れの対象人物であることからの意味合いである。

#1 「吉田松陰」

全国を遊行した幕末志士（長州藩）の一人。私が大好きな吉田松陰の心意気を象徴する二つの姿勢がある。

一つ目、松陰が松下村塾でモットーとした「^{ひじちようもく}飛耳長目」。

耳を飛ばして、目を遠方（長）に！ その意味合いは、遠方のことをよく見聞する耳目を持って、物事の観察に鋭敏であれ、ふつふつ湧き上がる好奇心に従順であれ、ということだと思ふ。垂直指向の「高いアンテナを張れ」という教えもあろうが、私の及ばざる処。水平指向の「飛・長」を摘み出し、遠近の旅に出たいという心を重ねて学んでいる。

二つ目、司馬遼太郎の著書「世に棲む日日」にある一節。

「・・・松陰（吉田松陰）の旅は、このようである。ゆく先々の蔵書家から書物を借りて読み、人物がいると聞けばそれを訪ねて意見を聞き、いわば花から花へ移る蝶のように自分自身を移動させつつ、そのようにして蜜を吸ってゆく。・・・」

松陰の姿勢に感動するが、遼太郎さんの紹介が素晴らしい！ どこかの管理職や「何とか長」みたいに、デスクにしがみ付いて、「君、君・・・」と『指先と口先だけ』で部下を動かそうとする人とはまったく違う。「知行合一」を原理原則に据えた自らの実行である。

#2 「六十六部（六部）」

六部とも、日本回国行者とも、日本回国大乘妙典六十六部経聖と称されている。元は日本全国66か国を巡礼しながら、1国1か所の霊場（必ずしも固定したものではなく、一之宮、あるいは国分寺、あるいはその他の社寺も含め）に法華経を1部ずつ納める宗教者のことをいう、いわば、国全土を聖地とみなす思想に基づいた巡礼とも言われている。自然や神仏に同調・同化したいと念じたのだろう。

「村山民俗第36号」（2022年7月16日発行・村山民俗学会）の中に「流浪の六部 喜平治の行跡（市村幸夫氏著）」という段がある。

喜平治の行跡について、同書より簡潔に要点を抽出する。

・・・天保四年（1833）年、天童生まれの喜平治という男が六部として、廻国巡礼に赴き、九州は杳尾村に回った際、香圓寺から得度を受け、隣村の猪熊村の庵寺に起居することになる。俳句などを嗜み村人と交流を深めていたが、安政六（1859）年四月帰らぬ人となった。・・・天保四年（1833）年八月に天童を立ち四年にわたる巡礼の途次、豊前国杳尾村に滞留・・・杳尾村に滞在すること八年・・・平凡な一人の六部の死は、多くの人の善意によって葬儀や後始末が行われた・・・



図(表) - 2

その中に次の和歌（連歌）が載せられている。

世の垢をあか去されバ涼しキ 雲の上 順道（喜平治）

さしなき風に 蓮こうばの香バシ 香圓寺（樂山）

私の直訳的な理解は次のとおり。『世』は娑婆・社会であろうが、『餘（われ）』をも勝手に重ねて解釈する。*** 精一杯の六部活動や寺院奉仕の生き方を通して、煩惱を少しでも取り払うべく精進努力を続けて来た今、死に直面するこの時に至っても、雲の上に出たような気分——雲の上に出れば、塵埃のない清浄無垢の青空が一杯広がり、天空の夜空は星が煌めき、涼しきそよ風（さしてもない風、取り立てていうほどでもない風）に蓮の香ばしいかおりが乗って漂って来るような空気に包まれ、晴れやか・爽やかな心持ちになっている、悔いはない、思い残すことはない。***

図(表) - 3

喜平治の所期の志は、諸国の神社仏閣はいれいを拝禮・行脚し、無事帰郷することであっただろうが、遠地はるばる、旅の途次に縁が生まれ、そこで新たな人生を育み、そこに命を捧げるに至ったプロセスは、まさに幕末期の僧「月性」の生き方——まさに東遊せんとして壁に題す將東遊題壁——と一致するではないか。旅先で様々な人々との接触があり、自らの修行と共に、今でいう地域活動もしながら日本全国に仏道を広める利他行の実践だったのである。

3 「童財善子」

実在の人物ではなく仏教説話のキャラクターで、華嚴經最終章「入法界品」にゅうほっかいぼんに登場する求道物語の主人公のことである。場面は七宝で荘嚴された祇園精舎僧園の中に普賢菩薩と文殊菩薩を上首とする法会から始まる。童財という少年が、仏道——悟り（菩薩）の境地を求めて、53人の良き師友を訪ねながら修行の旅に出る。師とされる者は、菩薩・比丘・比丘尼・長者・女性信者・仙人・娘・少年・国王・商人・漁師・職人など様々な立場の人が修行する。最終段において、⁵¹ 弥勒菩薩（菩薩の最高位）、⁵² 文殊菩薩、⁵³ 普賢菩薩に会い、つまり、初めに戻った、円環修行の末の原点回帰を以って終結としている。

例えば、最初の師「功德雲比丘」は色々説いた後、“・・・他に私の到底及ばない仏法が無量にある。そこで貴方は、次の善知識（師）を訪ねて行きなさい・・・”と諭した。次の師「海雲比丘」は色々説いた後、“・・・私が会得している仏道はただこの一法に過ぎない。どうしてその他の行道を知ることができようか。 次の善住という比丘を訪ねて行きなさい・・・”と諭した。

童財を導くはずの師については、仏道を離れた人までも、社会的身分や職業の貴賤なく登場させ、それらの師も自らに謙虚であり、決して、自説が絶対唯一で正しいなどとする独善・傲慢な者は一人もいない、また、師が師をリレー式に紹介する。しかも、童財が教えを一方的に乞うのみ、師は一方的に教えるだけ、ではなく、共々に学び合う姿を描いている。立場・身分を超えて教えたり教えられたりである、まさに、太陽と太陰、お日様とお月様の関係、お日（陽）様は照らし、お月様は照らされて明るくなる。太陽は月に対し“もっと大きくなれ”とか、月は太陽に対し“もっと俺の方に強く当てれなどと言わない。”あるがままを認め合い、強弱・優劣の関係は生じ得ない。赤心純真な少年の物語、何とも言えない素晴らしいシチュエーションである。まさしく、吉田松陰や六十六部の生き様とぴったり重なる。

(end)

1. 四国「遍路転がし」

四国八十八か寺霊場巡りの参詣道において、特に難儀を要する急な上り下りの急坂を伴う山道、起伏の大きい山道を四国では『遍路転がし』と称しており、これについて整理した。

図に記述した区間距離 km は、歩行ルートに沿った凡その沿面距離であり直線距離では無い。また、図中のくねくねの赤い実線は私が携行・ハイクした GPS 軌跡（トラックログ）である。

(1) 阿波は徳島県内

「一に焼山（12 番焼山寺）、二にお鶴（20 番鶴林寺）、三に太龍（21 番太龍寺） 遍路泣く」と呼ばれた。

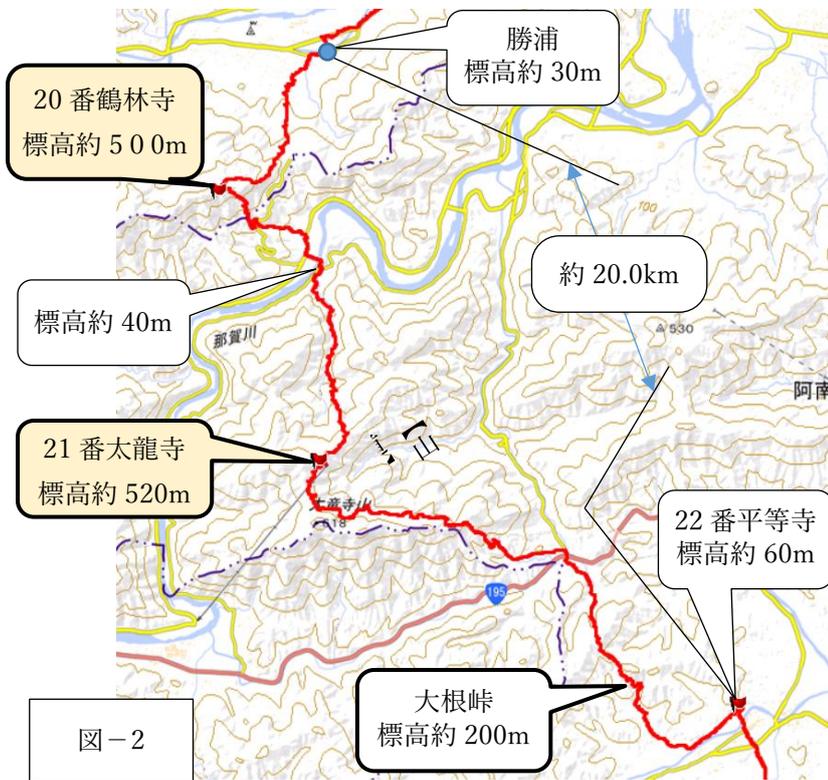
一般の遍路人の歩き方で、焼山寺越えは——図-1 の 12.9km は未舗装が連続する山道としては最長、遍路転がしのシンボリック存在——1 番霊山寺スタートから 3 日目あるいは 4 日目に当る。



図-1

また、図-2 の鶴林寺・太龍寺越えは、1 番霊山寺スタートから 6 日目あるいは 7 日目に当る。

全周 45 日間前後の中でのスタート直後、まだ、足が・身体が慣れていない内に過酷な試練に晒されるのだ。これが四国遍路の醍醐味。ここを歩き通せば、まずは第一関門突破（通過）である。



(2) 土佐は高知県内

a. 「かどや やきざか そえみみず」
(図-3) と呼ばれた。須崎から土佐安和までの角屋峠は、最新の「へんろみち保存協力会編」の地図には記載なく、現地でも案内されていなく、今はトンネル通過が一般的になっている。よって、本地図には記載していない。





図-4

図-5～図-7の山道も素晴らしい古道である。

b. 27 番神峯寺の遍路道 (図-4) は、片道 4 km 弱 (3 km 程度は舗装道路) ではあるが、海岸から一気に標高を 400m 超上げることから急こう配である。

(3) 伊予は愛媛県内

a. 柏坂越え (図-5)



図-5

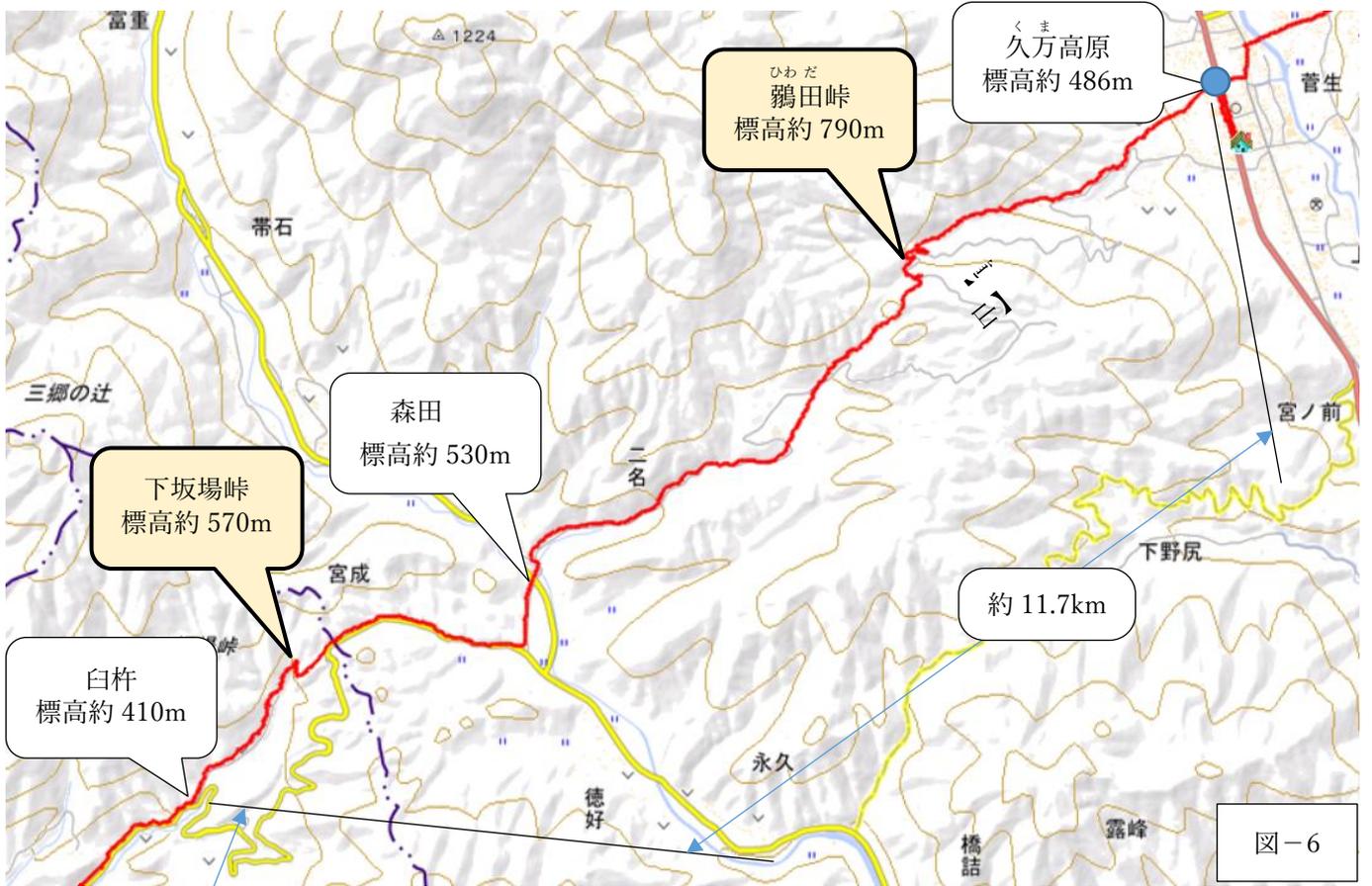
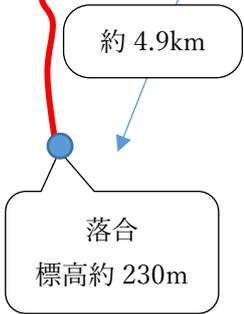


図-6



b. 下坂場峠～鴉田峠
(図-6)

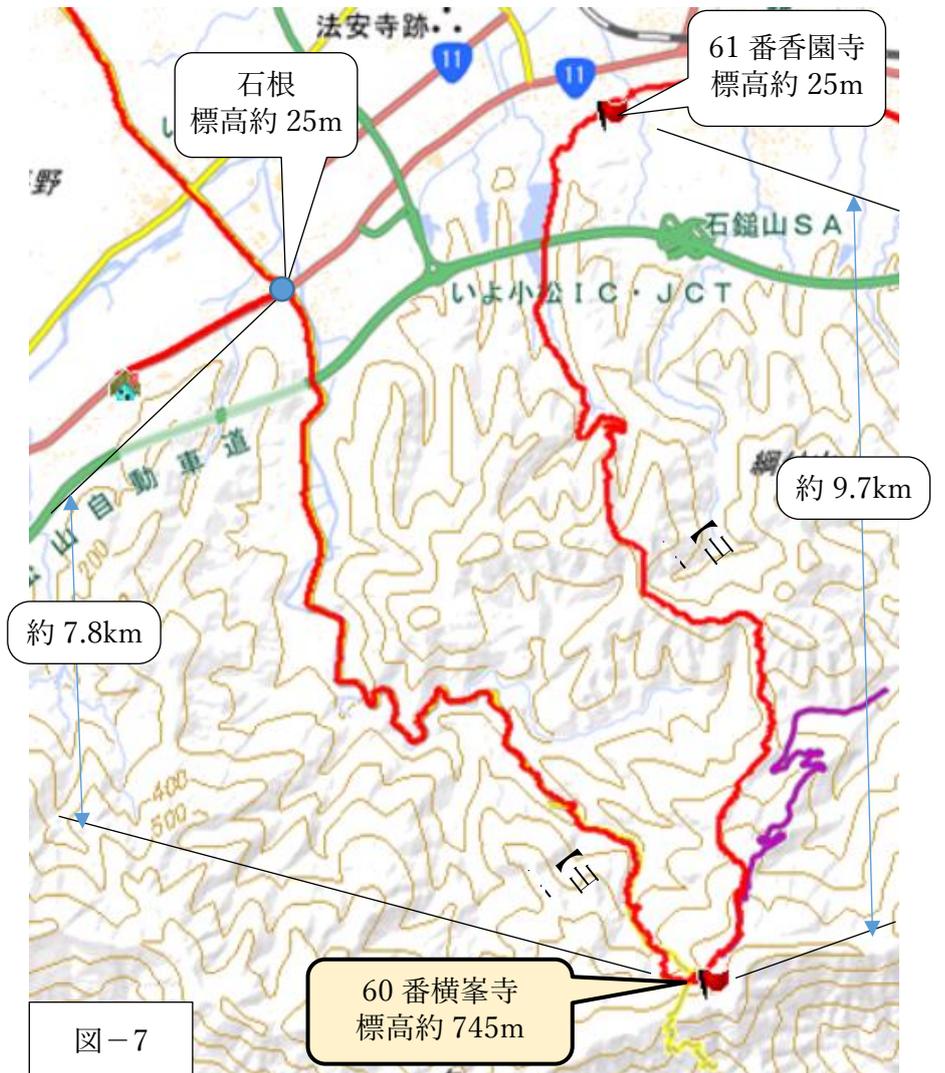


図-7

c. 60番横峯寺上り下り
(図-7)

(4) 伊予は愛媛県と阿波は徳島県と讃岐は香川県に跨る^{またが}

○ 65番三角寺～雲辺寺越え (図-8)



図-8

(5) 讃岐は香川県内

○ 前山へんろ交流センターから 88 番大窪寺 (図-9)

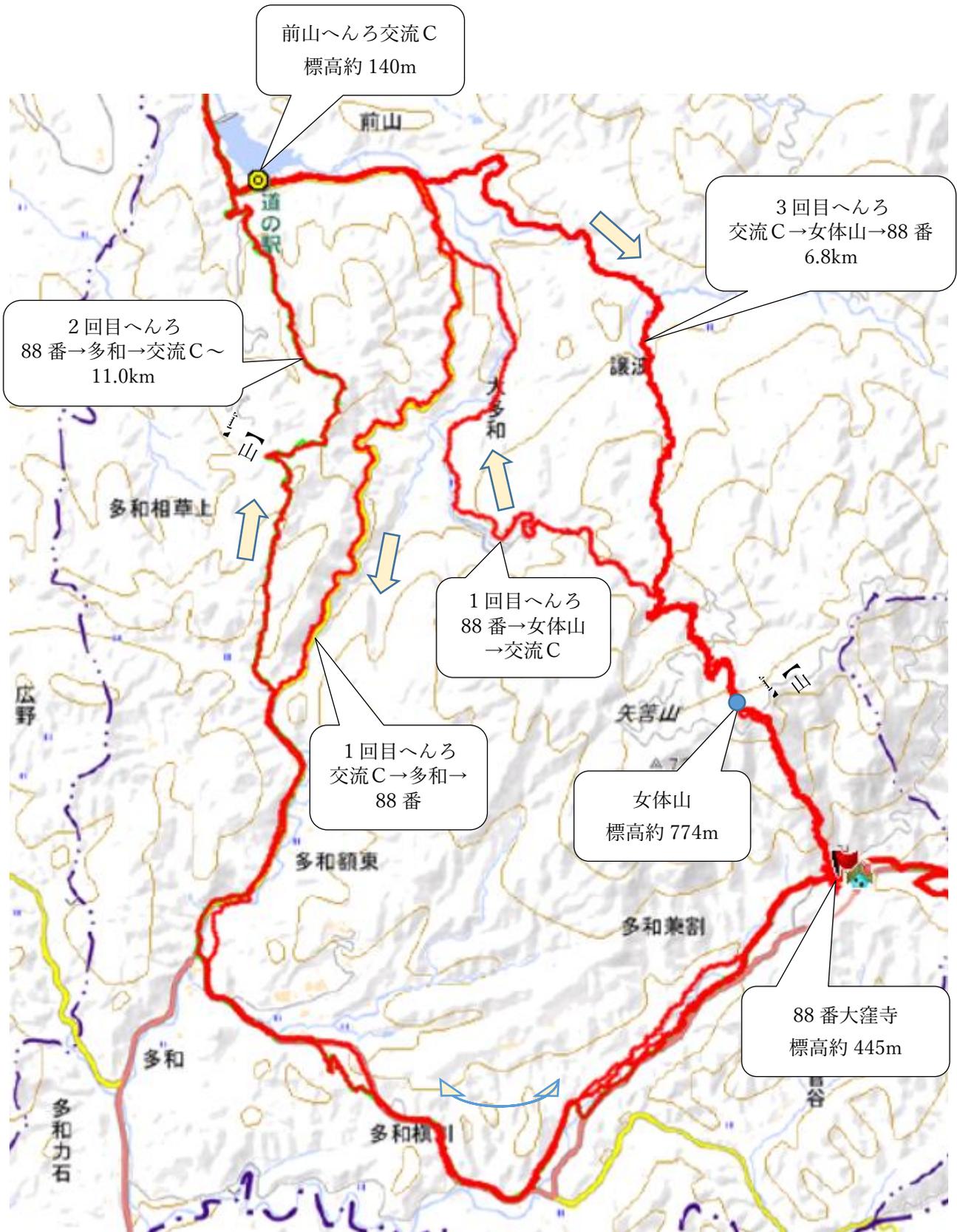


図-9

2. 三大長丁場

二つ（前後）の札所（寺院）間が70km超の所が3箇所（区間）ある。1区間当り2.5日間～3日間を要するが、納経が無い区間——御朱印を貰う当てが無いのに2泊もするのは無駄と思えるのもやむを得ない面もある。

(1) 23番薬王寺～24番金剛福寺；約75.4km（図-10）

よって、最初の23番薬王寺と室戸岬24番最御崎寺の取り組みが問われる、その意志如何により、「歩きへんろ人」からバス等公共交通機関利用のミックス派になる——いわゆる『転落、落伍』、おっと失礼！——人が半数はいるのではないか？



(2) 37 番岩本寺～38 番金剛福寺；80.7km (図-11)

この札所間が最長である。



図-11

(3) 43番明石寺～44番大宝寺；約70.0km (図-12)



図-12

三大長丁場の全体位置は、
図-13のとおりである。

一つ(区間)の遍路道は数km程度
の単距離ではありません、10km前後
からそれ以上に山道が続くので
す。とにかく素晴らしい！

(end)

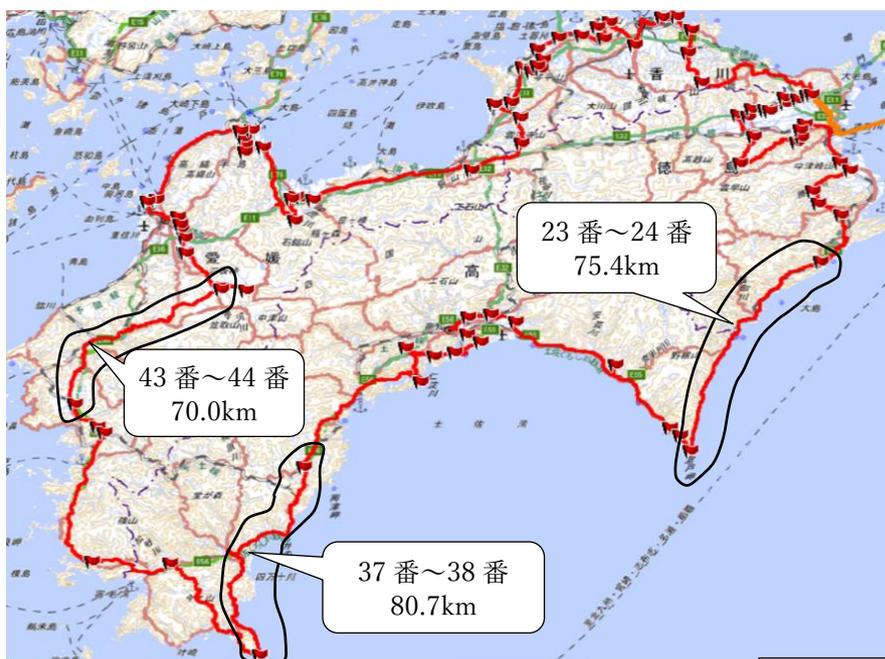
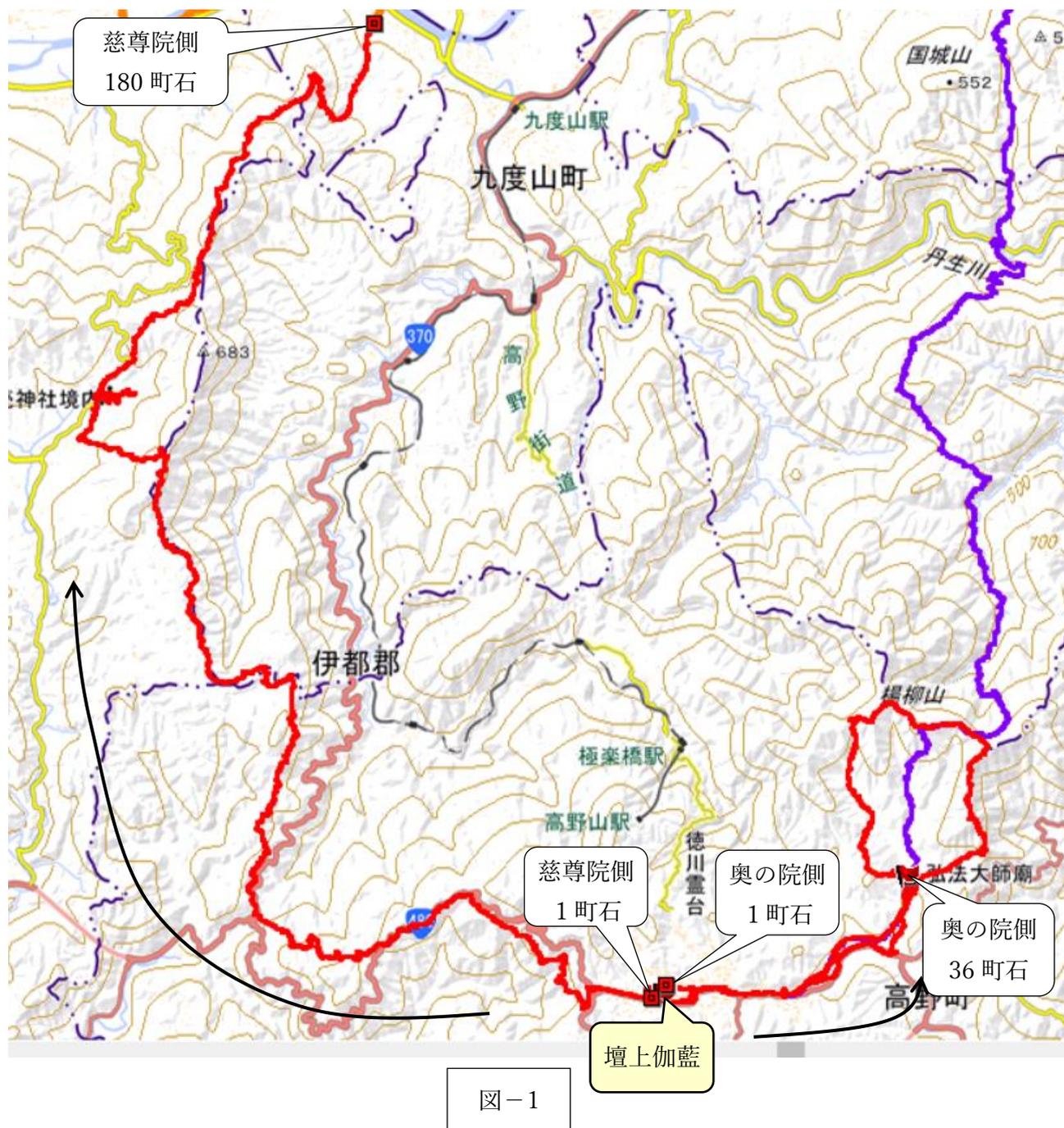


図-13

高野山の「町石^{ちょういし}」とは、縦長方形の石柱に密教の仏尊を示す梵字と、距離を表す町数、そして寄進者の願文を刻んだものをいう。図-1のとおり、壇上伽藍内を基点（0番）——根本大塔なのか、金堂なのか、その中間点なのかは不明？——として、慈尊院側と奥の院側の2方向に、すなわち、左右（東西）両北に全長約23km（うち高野山内4km）に渡って、合計216基建立されている。



図中のくねくねの赤・紫の実線は私が携行・ハイクしたGPS軌跡（トラックログ）ある。大きさの平均は、高さ約3メートル、幅30センチメートル、重量約750kgと謂われている。

1. 壇上伽藍内の町石

図-2は、壇上伽藍内にある慈尊院側の『1町石』と、奥の院側の『1町石』の状況である。



図-2

2. 慈尊院近くの町石

図-3は『町石道』^{ちょういしみち} 慈尊院側の最終『180町石』の状況である。



図-3

3. 奥の院内の町石

図-4は、町石道の奥の院側最終一つ手前の『35町石』（燈籠堂前）の状況である。正面の建物は燈籠堂である。なお、通常はこの付近の撮影は禁止（ごめんなさい!）である。



図-4



図-5

最終の『36町石』は図-5のとおりであって、大師御廟の内部にあり、見付けかねている。

4. 途中「町石道」沿い町石（図-6）



町石道の途中、標高 469m 地点
『慈尊院側 149 町石』



金剛峰寺手前、鐘の下
『奥の院側 4 町石』

図-6

<参考>四国へんろ道における丁石の一例



(end)

【Henro Total-report No09】 二大靈場（四国 & 西国^{さいごく}）一覽

1. 四国靈場 本札八十八所の一覽

札番	寺号	読み	所在地
1	靈山寺	りょうぜんじ	徳島県鳴門市
2	極楽寺	ごくらくじ	徳島県鳴門市
3	金泉寺	こんせんじ	徳島県板野郡板野町
4	大日寺	だいにちじ	徳島県板野郡板野町
5	地藏寺	じぞうじ	徳島県板野郡板野町
6	安楽寺	あんらくじ	徳島県板野郡上板町
7	十楽寺	じゅうらくじ	徳島県阿波市
8	熊谷寺	くまたにじ	徳島県阿波市
9	法輪寺	ほうりんじ	徳島県阿波市
10	切幡寺	きりはたじ	徳島県阿波市
11	藤井寺	ふじいでら	徳島県吉野川市
12	焼山寺	しょうざんじ	徳島県名西郡神山町
13	大日寺	だいにちじ	徳島県徳島市
14	常楽寺	じょうらくじ	徳島県徳島市
15	国分寺	こくぶんじ	徳島県徳島市
16	観音寺	かんおんじ	徳島県徳島市
17	井戸寺	いどじ	徳島県徳島市
18	恩山寺	おんざんじ	徳島県小松島市
19	立江寺	たつえじ	徳島県小松島市
20	鶴林寺	かくりんじ	徳島県勝浦郡勝浦町
21	太龍寺	たいりゅうじ	徳島県阿南市
22	平等寺	びょうどうじ	徳島県阿南市
23	薬王寺	やくおうじ	徳島県海部郡美波町
24	最御崎寺	ほつみさきじ	高知県室戸市
25	津照寺	しんしょうじ	高知県室戸市
26	金剛頂寺	こんごうちょうじ	高知県室戸市
27	神峰寺	こうのみねじ	高知県安芸郡安田町
28	大日寺	だいにちじ	高知県香南市

29	国分寺	こくぶんじ	高知県南国市
30	善楽寺	ぜんらくじ	高知県高知市
31	竹林寺	ちくりんじ	高知県高知市
32	禅師峰寺	ぜんじぶじ	高知県南国市
33	雪蹊寺	せっけいじ	高知県高知市
34	種間寺	たねまじ	高知県高知市
35	清滝寺	きよたきじ	高知県土佐市
36	青龍寺	しょうりゅうじ	高知県土佐市
37	岩本寺	いわもとじ	高知県高岡郡四万十町
38	金剛福寺	こんごうふくじ	高知県土佐清水市
39	延光寺	えんこうじ	高知県宿毛市
40	自在寺	かんじざいじ	愛媛県南宇和郡愛南町
41	竜光寺	りゅうこうじ	愛媛県宇和島市
42	佛木寺	ぶつもくじ	愛媛県宇和島市
43	明石寺	めいせきじ	愛媛県西予市
44	大寶寺	だいほうじ	愛媛県上浮穴郡久万高原町
45	岩屋寺	いわやじ	愛媛県上浮穴郡久万高原町
46	浄瑠璃寺	じょうるりじ	愛媛県松山市
47	八坂寺	やさかじ	愛媛県松山市
48	西林寺	さいりんじ	愛媛県松山市
49	浄土寺	じょうどじ	愛媛県松山市
50	繁多寺	ほんたじ	愛媛県松山市
51	石手寺	いしてじ	愛媛県松山市
52	太山寺	たいざんじ	愛媛県松山市
53	円明寺	えんみょうじ	愛媛県松山市
54	延命寺	えんめいじ	愛媛県今治市
55	南光坊	なんこうぼう	愛媛県今治市
56	泰山寺	たいさんじ	愛媛県今治市
57	栄福寺	えいふくじ	愛媛県今治市
58	仙遊寺	せんゆうじ	愛媛県今治市
59	国分寺	こくぶんじ	愛媛県今治市
60	横峰寺	よこみねじ	愛媛県西条市
61	香園寺	こうおんじ	愛媛県西条市

62	宝寿寺	ほうじゅじ	愛媛県西条市
63	吉祥寺	きちじょうじ	愛媛県西条市
64	前神寺	まえがみじ	愛媛県西条市
65	三角寺	さんかくじ	愛媛県四国中央市
66	雲辺寺	うんぺんじ	徳島県三好市
67	大興寺	だいこうじ	香川県三豊市
68	神恵院	じんねいん	香川県観音寺市
69	観音寺	かんのんじ	香川県観音寺市
70	本山寺	もとやまじ	香川県三豊市
71	弥谷寺	いやだにじ	香川県三豊市
72	曼荼羅寺	まんだらじ	香川県善通寺市
73	出釈迦寺	しゅっしゃかじ	香川県善通寺市
74	甲山寺	こうやまじ	香川県善通寺市
75	善通寺	ぜんつうじ	香川県善通寺市
76	金倉寺	こんぞうじ	香川県善通寺市
77	道隆寺	どうりゅうじ	香川県仲多度郡多度津町
78	郷照寺	ごうしょうじ	香川県綾歌郡宇多津町
79	天皇寺 (高照院)	てんのうじ (こうしょういん)	香川県坂出市
80	国分寺	こくぶんじ	香川県高松市
81	白峯寺	しろみねじ	香川県坂出市
82	根香寺	ねごろじ	香川県高松市
83	一宮寺	いちのみやじ	香川県高松市
84	屋島寺	やしまじ	香川県高松市
85	八栗寺	やくりじ	香川県高松市
86	志度寺	しどじ	香川県さぬき市
87	長尾寺	ながおじ	香川県さぬき市
88	大窪寺	おおくぼじ	香川県さぬき市

2. 四国霊場 別格札所 20 所の一覧

札番	寺号	読み	所在地
01	大山寺	たいさんじ	徳島県板野郡上板町
02	童学寺	どうがくじ	徳島県名西郡石井町
03	慈眼寺	じげんじ	徳島県勝浦郡上勝町
04	鯖大師本坊	さばだいしほんぼう	徳島県海部郡海陽町
05	大善寺	だいぜんじ	高知県須崎市
06	龍光院	りゅうこういん	愛媛県宇和島市
07	出石寺	しゅっせきじ	愛媛県大洲市
08	十夜ヶ橋永徳寺	とよがはしえいとくじ	愛媛県大洲市
09	文殊院	もんじゅいん	愛媛県松山市
10	西山興隆寺	にしやまこうりゅうじ	愛媛県西条市
11	生木地藏	いききじぞう	愛媛県西条市
12	延命寺	えんめいじ	愛媛県四国中央市
13	仙龍寺	せんりゅうじ	愛媛県四国中央市
14	椿堂	つばきどう	愛媛県四国中央市
15	箸蔵寺	はしくらじ	徳島県三好市池田町
16	萩原寺	はぎわらじ	香川県観音寺市
17	神野寺	かんのじ	香川県仲多度郡まんのう町
18	海岸寺	かいがんじ	香川県仲多度郡多度津町
19	香西寺	こうざいじ	香川県高松市
20	大瀧寺	おおたきじ	徳島県美馬市

3. 西国三十三所観音霊場の一覧

札番	寺号	読み	所在地
01	那智山 青岸渡寺	せいがんとじ	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町
02	紀三井山 金剛宝寺	こんごうほうじ	和歌山県和歌山市
03	風猛山 粉河寺	こかわでら	和歌山県紀の川市
04	槇尾山 施福寺	せふくじ	大阪府和泉市
05	紫雲山 葛井寺	ふじいでら	大阪府藤井寺市
06	壺阪山 南法華寺	みなみほっけじ	奈良県高市郡高取町
07	東光山 岡寺 (龍蓋寺)	おかでら	奈良県高市郡明日香村
番外	豊山 法起院	ほうきいん	奈良県桜井市
08	豊山 長谷寺	はせでら	奈良県桜井市
09	興福寺 南円堂	なんえんどう	奈良県奈良市
10	明星山 三室戸寺	みむろとじ	京都府宇治市
11	深雪山 上醍醐准胝堂	かみだいごじゅんてん どう	京都府京都市伏見区
12	岩間山 正法寺	しょうほうじ	滋賀県大津市
13	石光山 石山寺	いしやまでら	滋賀県大津市
14	長等山 三井寺 (園城寺)	みいでら	滋賀県大津市
番外	華頂山 元慶寺	がんけいじ	京都府京都市山科区
15	新那智山 今熊観音寺	いまくまかんのんじ	京都府京都市東山区
16	音羽山 清水寺	きよみずでら	京都府京都市東山区
17	補陀洛山 六波羅蜜寺	ろくはらみつじ	京都府京都市東山区
18	紫雲山 六角堂 (頂法寺)	ろっかくどう	京都府京都市中京区
19	霊麁山 革堂 (行願寺)	こうどう	京都府京都市中京区
20	西山 善峯寺	よしみねでら	京都府京都市西京区
21	菩提山 穴太寺	あなおうじ	京都府亀岡市
22	補陀洛山 総持寺	そうじじ	大阪府茨木市
23	応頂山 勝尾寺	かつおじ	大阪府箕面市
24	紫雲山 中山寺	なかやまでら	兵庫県宝塚市
番外	東光山 花山院菩提寺	かざいんぼだいじ	兵庫県三田市
25	御嶽山 播州清水寺	ぼんしゅうきよみずで ら	兵庫県加東市
26	法華山 一乗寺	いちじょうじ	兵庫県加西市
27	書寫山 圓教寺	えんぎょうじ	兵庫県姫路市
28	成相山 成相寺	なりあいじ	京都府宮津市
29	青葉山 松尾寺	まつおでら	京都府舞鶴市
30	巖金山 宝巖寺	ほうごんじ	滋賀県東浅井郡びわ町
31	姨綺耶山 長命寺	ちょうめいじ	滋賀県近江八幡市
32	繖山 観音正寺	かんのんしょうじ	滋賀県蒲生郡安土町
33	谷汲山 華巖寺	けごんじ	岐阜県揖斐郡揖斐川町

(end)

以上の山形県に提出した文書を踏まえて次への発展的提案です。

その1；

本書冒頭に記述したとおり、私は先般令和2年1月9日(水)、「歴史的文化財へ誘う方策についての一考察（意見・提案のメモ）」なる件名の提案書を持参し、山形県（観光誘客対策関係）に訪問し説明して来ました。改善されないままそれから1年半が経過し、図-12の山形県広報誌2021年7月号に同様の記事が掲載されました。私の提案がそのまま通るとはもちろん思っていないが、何一つ実行していない！ 同図に「世界中から注目される」と豪語しているが、世界中は何も注目して^Nおりませⁿん、“四国遍路レベルの取り組みなくしてほごくな、独りよがりの嘘つき！”と罵倒したい。実践・実証を伴わない知識偏重の観念論に終始していないのか、担当者は数年以内の短期間で人事異動交代するだろうが、『 四国に言って見ましたか？ もちろん私^{わたくしごと}事で、自費ですよ！ 』

特集 世界に誇る山形の「精神文化」を生かして
～やまがた出羽百観音による観光交流の促進～

こうたくし
羽黒山最古の寺院とされる庄内三十三観音首番「羽黒山荒澤寺」

「精神文化」とは？

本県の特徴ある文化の一つが精神文化です。精神文化とは、「自然を尊び、自然に感謝する心が生み出した文化」を指し、出羽三山信仰、草木塔、最上・庄内・置賜の各三十三観音などが挙げられます。

その中でも本県の精神文化を代表する出羽三山は、今も続く山岳信仰に根付いた特有の伝統文化として国内外から高く評価されており、**出羽三山「生まれかわりの旅」**は日本遺産として認定されています。

今、注目される精神文化

現代を生きる人々が抱える「心の疲れ」や度重なる災害、コロナ禍等による不安感が広がる社会状況下で、心の安らぎや癒しを与えてくれる精神文化の価値が見直されてきています。これまで大切に受け継がれてきた精神文化は、本県が誇る魅力的な地域資源であり、世界中から注目される大きな強みなのです。



精神文化を生かした観光交流の促進

県では、この精神文化を活用した観光振興に取り組むことで地域や経済の活性化、交流人口の拡大を目指すとともに、精神文化の継承・発展につなげていきたいと思います。

特に昨年度から取り組み始めたテーマが**やまがた出羽百観音**です。**やまがた出羽百観音**は、本県に古くから深く根付く観音信仰に由来する最上・庄内・置賜の各三十三観音の総称であり、県内外から巡礼者が訪れるその魅力を高め、特徴を生かし県内周遊に結びつけていきます。

やまがた出羽百観音の現状と課題

近年、高齢化や団体巡礼の衰退により、巡礼者数自体は減っています。一方で、県外からの巡礼者は増加し、女性や若年層を中心に、御朱印の収集や精神文化に興味を持つ新たな関心層が訪れています。しかし、お遍路さんで知られる四国八十八箇所などの全国区の巡礼地に比べると、まだまだ知名度が低いのが現状です。県は、認知度向上に向けた情報発信を進めており、今回の特集では、県民の皆さんに**やまがた出羽百観音**の魅力を伝えたいです。



県民のあゆみ 7月号 4

図-12

そんな内容構成に当って、一応はチェックしたであろう中間管理者も公務員に非^{あら}ずです。

その2；

よく聞かれる「古絵図」の観光客誘致の視点からの利活用についてです、前記の内容と少し重複するかもしれないが、具体的事例を以って提案視点からの記述です。

出羽三山のおひぎ元「いでは文化記念館」などで販売し、書籍にも古絵図が載っています。

図-13は、出羽三山羽黒山絵図（文政¹3⁸3⁰年）です。類似の古絵図が3種類あるそうです、鶴岡市羽黒町手向地区にある「いでは文化記念館」において、同図とは少し違う「湯殿月山羽黒三山一枚絵図」を販売しています。販売だけで終わるようでは、観光客を呼び込む強いファクターには成り得ないと思います。そこで、古絵図上にある旧寺社跡（神仏混淆時代の名称と位置が明記）について、今の現地に簡易標柱・立て札を設置して欲しいと提案しています。細部に亘る説明を記述した立派な案内表示板等高額な工事費用を伴うものでなく、旧寺社の名前だけを記したローコストのもので良いのです。例えば、現地には何らかの番号表示だけでもよいのです、後は当該関係ネットサイトに飛んで番号サーチで確認出来るようにすればよいのです、見地にQRコード表示も考えられるが、一時はよいとしても、自然界に放置では経年変化や汚れで早晚正しく読み込まれなくなり不適です。

すると歴史に関心ある人は必ず現地に行って絵図と照合したくなります、

全部に行きたくなります、時間がかかるようになります、滞在時間が長くなります、飲食物の携行に繋がります、宿泊に繋がります、お金が地元で投下されます。このように連鎖して行きます。

単なる絵図の販売だけに終わっては、このような行動拡散は期待出来ません。集客のための机上

の空論に^{うつつ}現を抜かすのではなく、人間の素朴な心理・心情に根差した観点、現地と結び付ける手法を検討、そして実践することが肝要です。人間は向上心、好奇心があります、まだ見たこともない所に行きたくなります、いや、過去に行ってもさらに深堀・探求したくなります。常に、情報媒体と現地をリンクする発想が必要です。その時現地に誘導する案内地図についてです。デフォルメ——対象の特徴を誇張、強調して簡略化・省略化した表現方法——した見栄えの良い、いわゆる観光マップでは^{N o n}だめです。国土地理院地形図に対象地点をプロットし、そこに至るルートを書き込むことです。図-14のとおり①②③三本柱をセットする、この3点を統一的・体系的に整備することが肝要です。何らかの管理番号を不定すると思うが、①②③について一致させることです。現地には長々と書いた高額な説明看板は必要ありません、全てHPに記載すればよいのです。例えば、出羽三山神社対応地区については、古絵図と地理院地形図と現地との照合、ならびに標柱の仕様検討と予算確保に1年半、現地に標柱設置半年の2年間で仕上げられます。

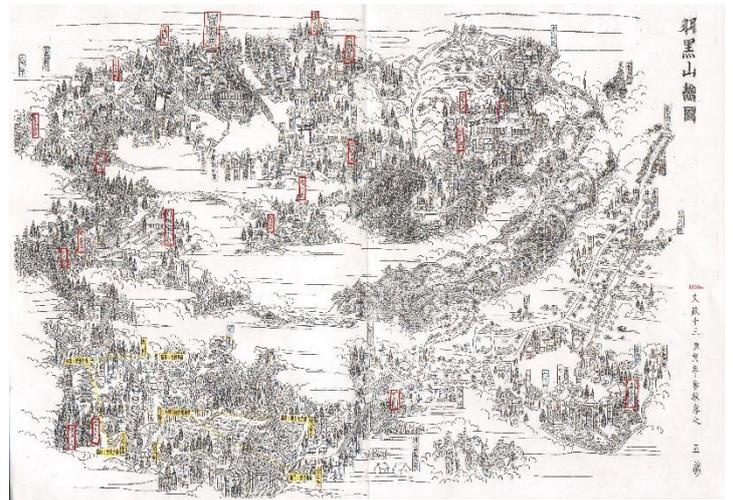


図-13

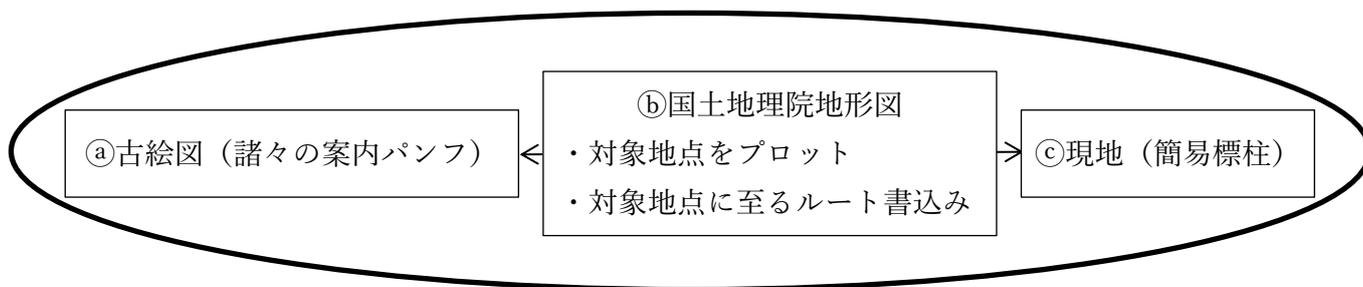


図-14

その3；

私はかく思います。41年間長の会社人生、その後の全国（北海道除く）の歩き旅を通しての目線です。

従来型の先入観塗れの「プロダクトアウト」（送り手絶対優位主義、殿様商売）の視点では先が開かれませんが、組織内の人には、組織防衛論に引き摺られて、「プロダクトアウト」の呪縛から逃れられない悪弊があります。組織内において、「プロダクトアウト」の視点から学問的・専門的に議論するのは大いに結構でしょう。しかし、この自分達が造ったネット包囲リングを取り払う、独善囲いを撤去することの自覚・自明なくして発展は絶対に有り得ません。「プロダクトアウト」とは、自分達の作ったもの・こと、あるいは、企画立案・計画したもの・ことは、絶対に間違いはない、下の者よその通りにやれ！といういわゆる上から目線の驕り高ぶりの表現をいいます。上手く当たれば花咲くが、80%の確立で外れます。本当に、心から観光・誘客・集客というのであれば、外部の顧客を相手にするというまったく別のステージに移る必要があります。真の「マーケットイン」（受け手絶対優位主義、お客さまは神様）、カスタマーサティスファクション（顧客満足）の優先視座です。実はこの精神的ハードルはとても高いのですが、広い世の中、柔軟転換、先手必勝、ニッチ起業で商売繁盛している組織・団体・企業・自治体は相当数あることでしょうか。

繰り返すが、顧客に来て欲しい、顧客の心をくすぐるというのであれば、組織内の高度な理論は組織内に留めておけば良く、「人間の素朴な心理・心情に根差した観点」です、これからは、地域観光開発、地方創生に力を入れるというのであれば、心理学を学んだ人を採用すべきであります。大学で経営理論ばかりを極めたという人は、地方の現場では使い物にはなりません。

「デジタル田園都市国家構想」を目指す日本です、観光立国を目指す日本です。行政や観光業界はこぞって集客・誘客のためのあの手この手の作戦を展開しています。そのためにPR動画やPRパンフレットを作成しています、今に始まったことではありません。それらの媒体は見栄えが良く、現地に行ってみたくになります。現地に行ってみました。「それらPR媒体と現地は一致しないではないか、その現地に行くにはどうすれば良いのか？」と期待外れになります、私の経験から沢山ありました。

それらPR媒体の作成目的は、お客様から現地に来て貰ってお金を使って頂きたいというのが端的な意図です。しかし、作成の担当個所は作成することが目的化し、本人達は見栄えの素晴らしいものを作った、独創的だと自慢・自己満足していることがほとんどではないかと想像しています。

例えば福祉関係PR動画・パンフ、あるいは教育用PR動画・パンフは一方的な、プロダクトアウトの垂れ流しでもいいのかもしれませんが、なぜならば、啓発・啓蒙に主眼があるからです。やるかどうか、実践するかどうかはまさに本人の自覚と意識と実行力にかかっています。しかし、誘客・集客という意図からは、現地に来て時間とお金を消費して貰わなければ意味はありません。観光PR動画・パンフは自宅

のパソコンで見て貰えれば、それでよいのですか？

観光誘客施策は、「PR媒体＝現地」の等式が成立する施策、作戦でなければ、観光客が押し寄せる、リピーターが定着するということはないでしょう。とにかく問題は現地のピンポイントに行って貰うことです、動いて貰うことです。ここ一点に集中すべきだと思っています。

(end)

【Henro Total-report No10-3】歴史古道等利活用の整備と誘客提案（3）

歴史街道・歴史古道（登山道・山道）の保全のあり方に対する考察と提案です。

そのような山道を歩きたいと思う人は、決して、林道や舗装道路を欲しません。昔々、往時の人達——お殿様、お姫様、修験者、信者、商人、^{あきんど}庶民などが歩いた山道に入り追体験したいのです。

1. 自然界の山道に危険リスク潜在は当然のこと

私は、2010(平成22)年から2019(令和元)年までの丁度10年間に、歴史街道・歴史古道を対象に、正味14,101km(31.2km/日)、453日間の歩き旅を行って来ました。その中で行政等の管理者が取り付けた「通行止め」「通行禁止」の表示のある所が何か所もありました。しかし、私は無視して、その全てを歩いて来ました。管理者が危険と判断したと思われる場所のほとんどは「道が崩れている。」この場所を指すのだろうと現地では分りました。しかし、既に道は踏み固められ、あるいは少し巻道が作られて、危険は無くまったく問題はありませんでした。既に様々な人達が立ち入って通過している証拠です。なぜ、「通行止め」「通行禁止」を無視して通過する人が多いのか、そのルートは歴史の道・歴史の古道だからです。迂回案内されている林道や舗装道は人工的なものであり、そんな道を歩くために費用や時間をかけているのではないからです。「通行止め」「通行禁止」されているそんな場所よりもっと危険と思われる状態は沢山ありました。

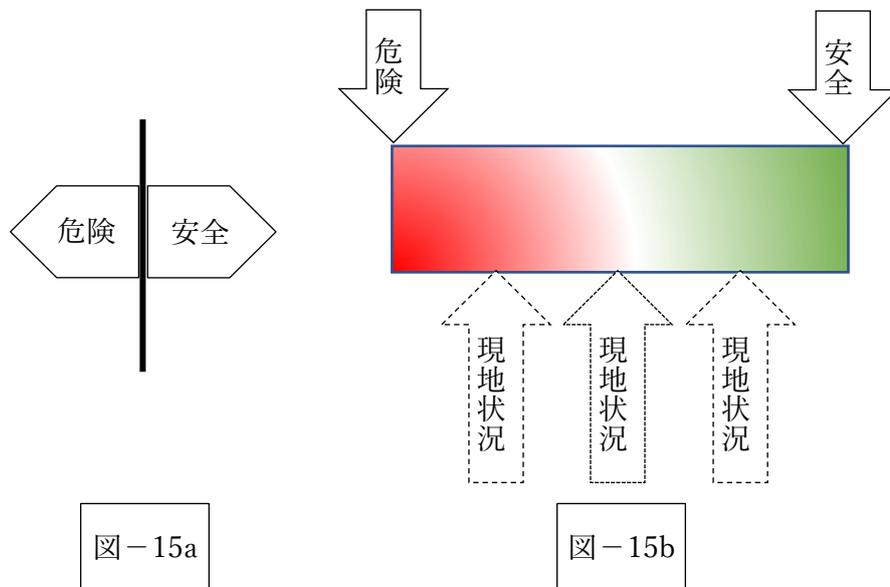
そもそも危険発生リスクには際限は有りません。

- ・風が吹いただけで樹木が揺れて根元の岩石が落下する、枝が落下する。
- ・小さな地震でも大きな落石あり、大きな樹木の折損・倒木があり、小規模な崖崩れがあり得る。
- ・動物の突然の襲来の恐れがある。
- ・平時の降雨でも道が岩石や流木で荒れる。
- ・その他、危険リスクは無限に有る、無限に湧き起るもの。

自然界の山道には、元々、多少・強弱はあれ、危険要素は常在しています。管理者による途切れの無い常時監視、常時の通行管理は不可能です。そもそも人間が生きる中で遭遇する全ての事態に於いて自己判断の積み重ねがあり、自己責任の上に生命が維持されています。危険可能性を100%排除して、完璧な安全歩行が可能になってからでないと思えないのであれば、山道のみならず全ての道路が通行禁止となります。

2. 安全と危険の境目は如何に

図-15aのように、安全事象と危険事象とは、明瞭なある一線（ある点）を境目として存在するものではありません、背中合わせになっているものではありません。両者は図-15bのように、その度合いはファジー・グラデーション帯で結ばれているようなものです。現地状況は時々刻々変化・移動し、どこに落ち着くのか、危険がどのように出現するかは人智を超えた自然の成せる技です、いわゆる「神のみぞ知る」世界です。よって、人間を以ってして、100%安全を保障する方策は有り得ないのです。



いわゆる「登山道の管理責任」についての法律解釈についてここで一々論ずるものでありません。ただ、判例を参考にしつつ私の社会通念上の常識からすれば、次の2点が言えます。

- ・自然界の山中は、落石、倒木、地滑り、土砂崩れ・崖崩れ、川の増水、雪崩、落雷等の事象と係る危険は、通常的に発生し得るものであり、その中に分け入る登山はそのような自然の危険性を予め承認する行為である、よって、自らの回避方策を以って対処する必要があり、全ては自己責任——自らが自由な意思に基づいて行動した結果に対する責任は自分にある——に帰結するものである。
- ・登山道への前記同様の自然現象に起因する万が一の事故については、公共団体等の管理者が権限に基づいて意図して管理していた道であっても、怠慢等による瑕疵がない限り、管理者に管理責任は生じない。

危険を承知で自然界の山中に分け入る、いわゆる「登山」行為は、社会的には厳密な自己責任の分野・領域であると考えられます。

3. 望ましき対応の提案

その1；公共団体等から見れば、観光誘客・集客の観点からは、登山道を大いに利用して欲しいと思うだろう、他方で、万が一の事故の際の管理責任追及の多発を懸念することになるだろう。前者と後者はトレードオフの関係にあります。その折り合いに苦心するのが現実だと思えます。そこで、敢えて危険の注意喚起、危険回避の啓発を図ろうとするのであれば、登山道の出入り口と中間点に「自己責任」という表示・標識で十分であります。

公共団体等や管理関係機関の持つべき姿勢は次の通りです。

- ・広報媒体に「自己責任」提起の趣旨と重要性を簡潔に明記・明示することです。
- ・管理不十分などと「管理責任」を問う考え方の人は、当地に来る必要はない、来なくても結構である、と毅然とした態度を表明しておくことです。

現実的には、少なくとも前者は明示出来るはずですが。

その2 ; 「^{とうりせいけい}桃李成蹊（桃や^{すもも}李の花は美しく、かつ、実はおいしいために自然と人が集まり、自然と道が出来るといこと）」に学ぶことです。古道の入り口を「通行止め」「通行禁止」を以って塞ぐのではなく、「自己責任」標識のみとし、とにかく歩いて貰うことです、歩いて貰うように誘導すれば道は自ずと固まるものであります。繰り返すが、その道を歩きたい人達から歩いて固めて貰うのが最善です。降雨で荒れた状態も人が歩けば歩くほど固められて自然的に整備されます。この事は関係機関から見て、保全管理の負担軽減にも繋がります。反対に、安易に通行止めとすれば、山道故に暫時荒れ果ててしまいます。

.....

出来るだけ、山道に誘導する事は、別の面のメリット・好影響があります。山道歩きは、アップダウンがあり、特別の足元への注力が必要となり時間を要します。歩行スピードは落ちるので歩行時間が長くなります。その分、水・食糧の持参が必要となります。そのことは地元（お店、自販機）からの購入や全体的には宿泊日数の増加に繋がります。このように山道に誘導する事は、多くの関係者にとってメリットを齎すものとなります。

(end)

1. 何といても、「四国八十八か所霊場」遍路です。



既述この10年間に14,101kmを歩いた経験から歴史街道・歴史古道・遍路に纏わる所として、一押しの一つを挙げよと言われれば、何と意っても「四国遍路」です。88全札所（全ルート）で無くてもいい、自分が楽しそうなところをピックアップして——区切り打ちという——一度は白衣を着て歩いて欲しい。そして、遍路宿と謂われる民宿に泊まって欲しい、純朴でユニークな人達、料理も美味しい。全国各地から、世界各地から遍路が来て歩いております。お寺・境内の雰囲気といい、古道・山道の状況といい素晴らしい体験が出来ます。歩いて欲しいのです、車では無く！ワンセットを1泊2日、あるいは2泊3日程度として、要所を歩いて廻ればいいのです。図-1は四国八十八ヶ所霊場会HPから拝借したものです。四国遍路に係る情報はインターネットサイトや書籍に溢れています。

歩いて巡礼出来るようにとても有用なガイドブック【66Henro memo-report No010】が販売されており、^{みちしるべ}現地のルートには道標・案内表示が整備されています。

2. 吾が山形県内における三つのコースです。

(1) 一つ目は図-2abのとおり「高清水通り」です。

○本通りは西川町本道寺「口之宮湯殿山神社」から月山頂上までの約14kmの古道である。

○本通りは、「西川町史編集資料 第六号」等により、下図（旧本道寺から月山まで）の範囲である。

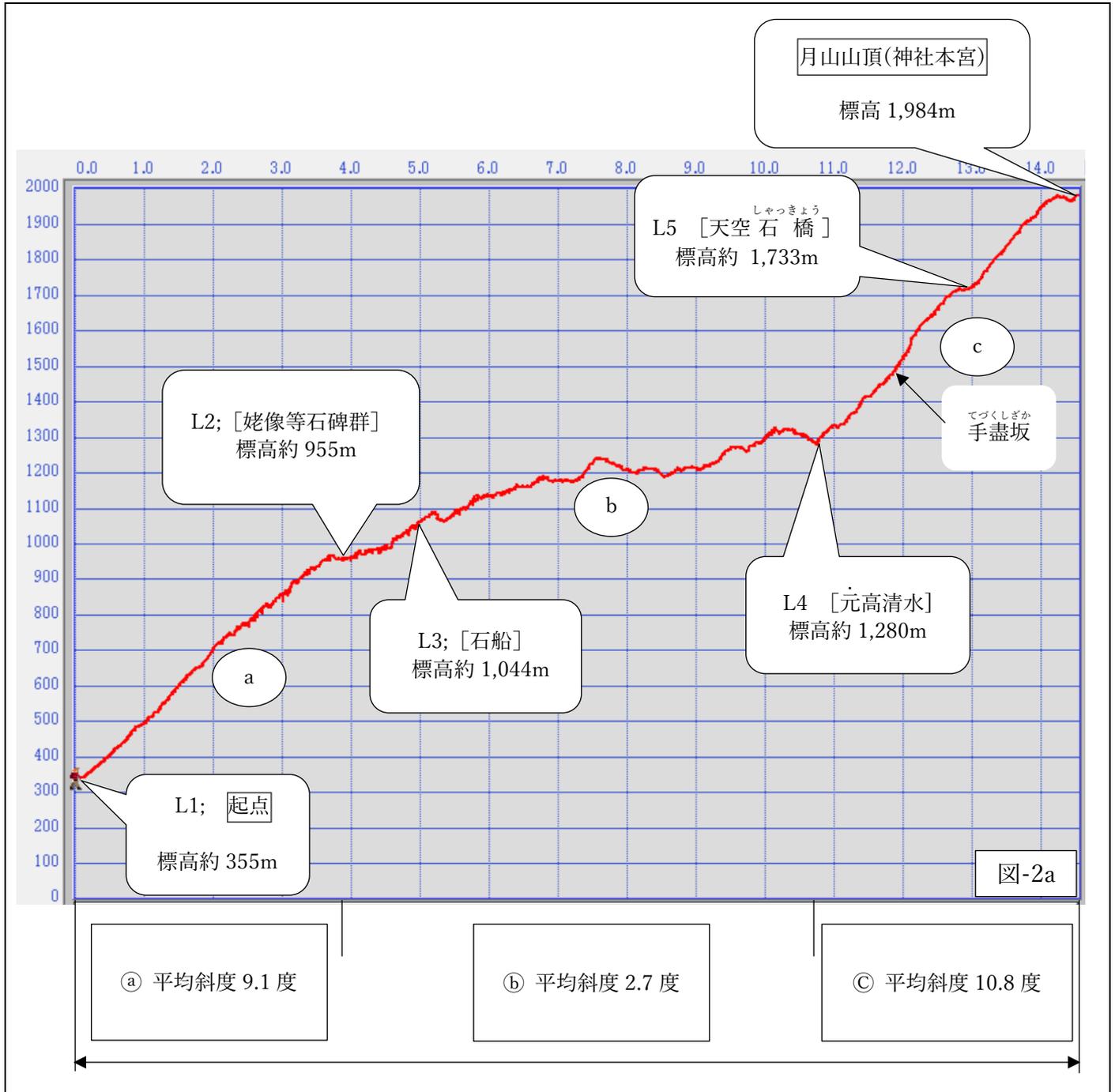
○本通りの傾斜様相はa・b・cの3段階、注目すべき5箇所（L1～L5）に対しランドマークを設定した。

○沢・河川の渡渉やV字状に深く切れ込んだキレットは一個所も無い。

みよとしず いしぶね

○水場3箇所「夫婦清水、石船、高清水」があって、流量は少ないが枯れること無く清水が流れ出ている。

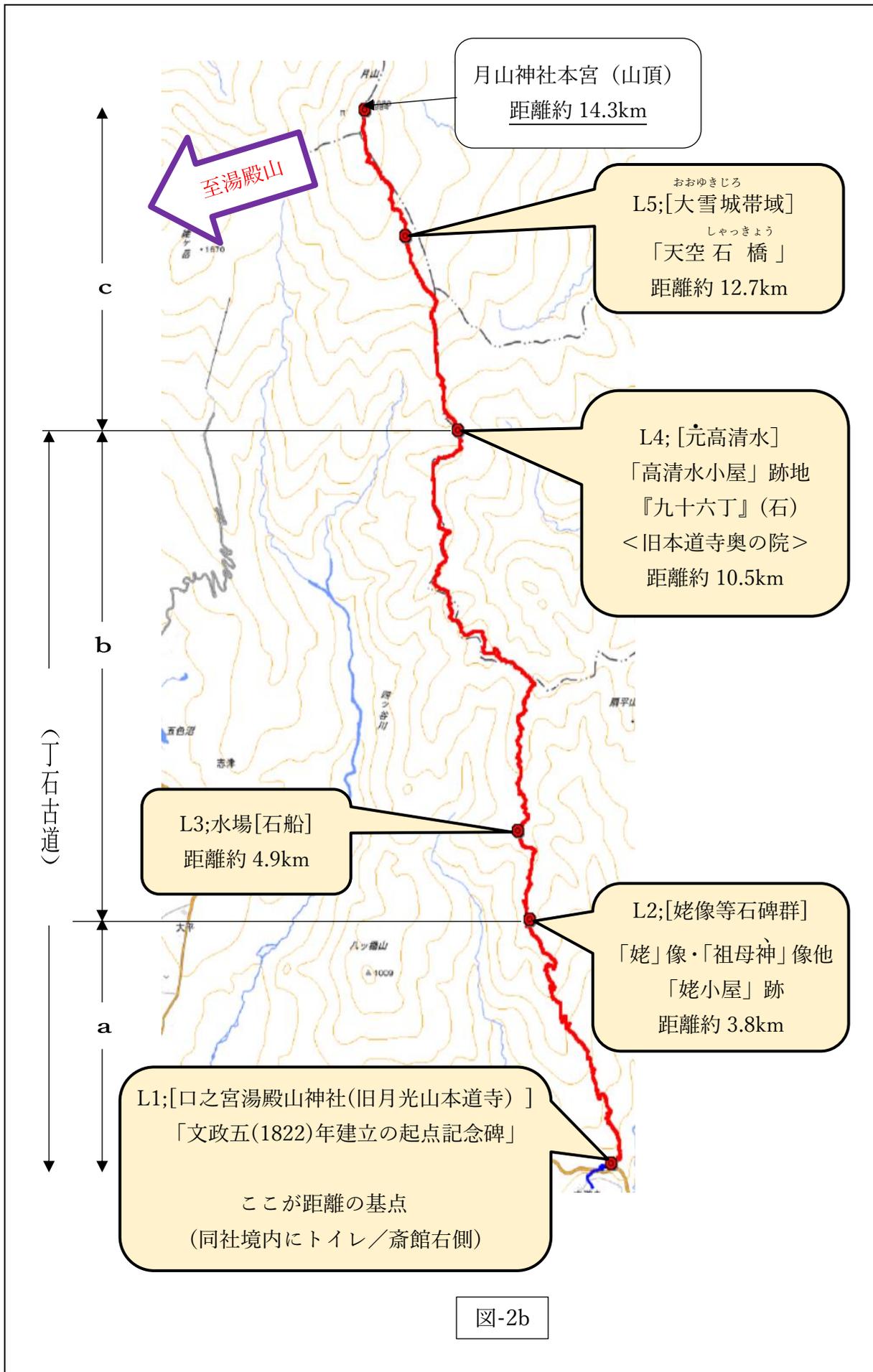
○登り口から約2km先はブナ林となり、生育途上の二次林⇒老荘混在林⇒原生林に変化して行く。



骨太尾根筋 一直線登拝古道

五大に宿る不思議が漂う山道！

「元高清水」までの道沿いに丁石（里程標、一丁間隔約 109 m）が点在！



図(表)-2c

L1;文政五年基点記念碑



L2;「姥像等石碑群」



奉納祖母神
享保六辛丑天六月八日

L3
;「石船」



為六親
眷属有
縁無縁
菩提也
正徳六
丙申年
五月日
施主山
形八日町
住人
双羽氏
敬白

L4
;「高清水小屋」跡地



「九十六丁」(石)
墓石2体

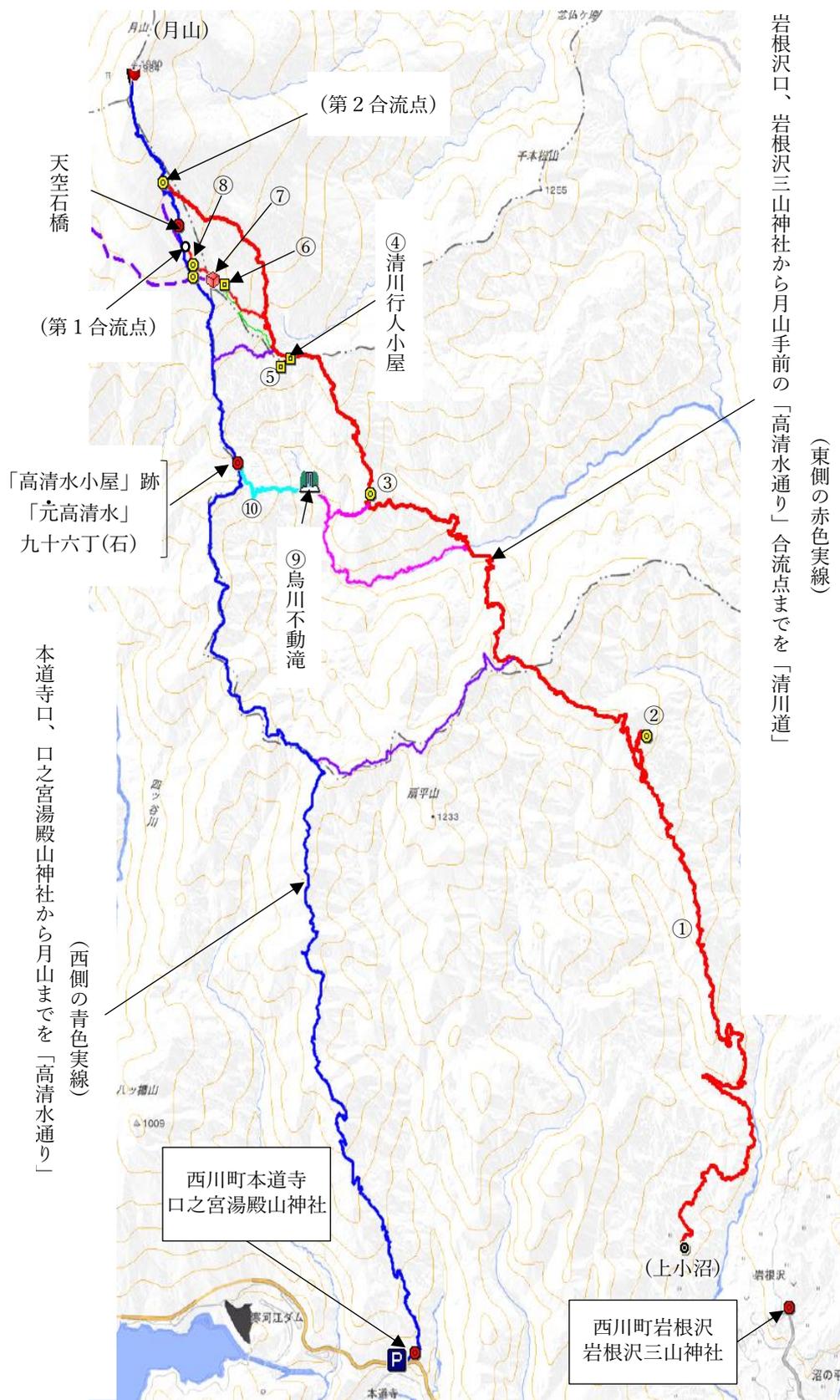


L5
;「天空石橋」

(2) 二つ目は次頁図-3のとおり「旧六十里越街道」です。

あさひむら観光協会 (<https://www.asahi-kankou.jp/>) ホームページに詳細が記載されており、国土地理院地形図に載せたマップ(pdf)をダウンロード出来ます。山形県西川町と鶴岡市旧あさひ村の関係者が整備しており危険な所はありません。私は、2010(H22)年6月25日(金)から6月27日(月)までの2連泊3日間・鶴岡市庄内神社→山形市八日町誓願寺、同年7月27日(火)から8月2日(月)までの6連泊7日間・宮城県閑上ゆりあげ→山形県湯野浜へのスルーハイクにおいて、本街道全区間を2回にわたり歩いております。

下図の赤色実線は「清川道」
高清水通りと合わせて「高・清フレンドリー古道」



①清川道そのもの

②把松稲荷神社

③不動明王碑

④清川行人小屋前
石碑群

⑤清川御所王子社
(五所皇子稲荷神社)

⑥来名戸神
(来名戸古墳)

⑦月山・湯殿山
追分碑

⑧御田の神

⑨鳥川不動滝域

⑩秘連古道

図(表)-2 d



所々に出羽三山信仰に係る古い石碑・石塔が安置されており、また、小屋跡や戊辰戦争の砲台跡も残存しています、古い石畳も残っています。現地においてはルート案内と説明版も充実しています。

図-3

(3) 三つは図-4のとおりの旧「十三峠」です。

「旧越後米沢街道・十三峠」は、山形県の置賜地方と新潟県の下越地方を結ぶ古道です。「日本奥地紀行」(平凡社)で知られるイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが難儀して旅をした行程の一部であります。——米沢平野は・・・アジアのアルカディア(桃源郷)である。——同交流会(事務局; NPO 法人ここ掘れ和ん話ん探検隊)の皆さん方が整備に努めております。ここも険しい危険な所はあり

ません、庚申塔や供養塔、古い石畳も残っています。同図は同会HPより拝借したものです。峠の所は国土地理院地形図にGPSトラックログで書いたルートを開示するなど様々な案内マップを掲載しています。私は、同図中のルートについて、まだ一気通貫ハイクはしていないが、鷹巣峠部以外は区切って一度は歩いています。

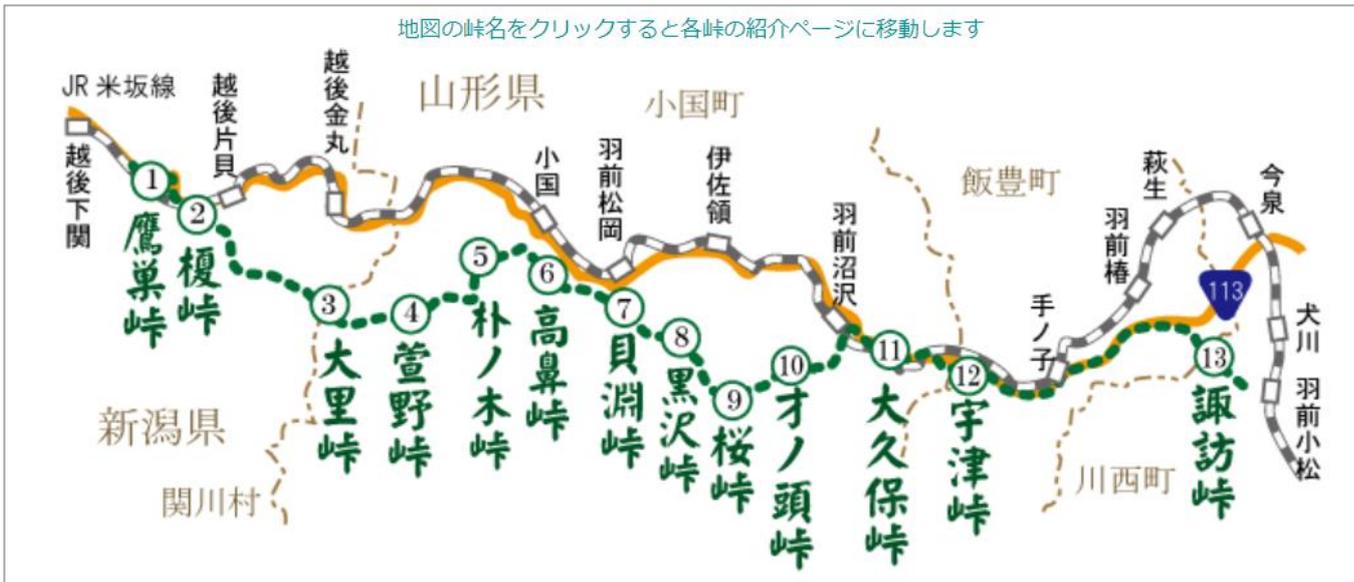


図-4

おまけとして、

その1；以前、NPO「元気・まちネット」から入手した図-5のとおり山形県内3賢人ルートです。その昔、山形県内を旅した歴史上の人物、¹源義経、²松尾芭蕉、³イザベラ・バードが歩いたルート(上記旧「十三峠」と重複)です。国土地理院地形上のルートは「山形県歴史の道 調査報告書」などが手掛かりとなります。私は殆どを歩いています。

その2；もちろん「出羽百観音霊場」は候補に挙げられます、山形県や同県内関係自治体はPRには力を入れているが、四国霊場や西国霊場とは比べ物になりません、見劣りします、古道筋を歩けるような整備はされていません。(「隣の芝生は青く見える」でもあるが、それが真実である。)



図-5

(end)

【Henro total-report No12】 スルーハイク遊行中に浮かんだ替え歌

歩き旅の日々は歩くことが毎日の仕事です、歩いていると、千変万化の景色、百人百様のユニークな人達の出会い、楽しいこと難儀なことが交錯し、6根――眼(視覚)・耳(聴覚)・鼻(嗅覚)・舌(味覚)・身(触覚)・意(意識)――が刺激されて様々な雑念・妄想が横切ります。その時々思い浮かんだ言葉をIC(ボイス)レコーダーにランダムに吹き込み(入力し)、宿で短歌や詩に整理して遊んでいます。短歌あるいは俳句の文語文法を格別勉強した訳ではなく、また、花鳥風月の風流を、わび・さびを詠う、季語を織り込むような才能は無く、現代用語・しゃべり言葉を並べただけの味気ないもので、まったくの我流ですが、あれこれと浮かんで来たものを整理しています。

帰宅後、その浮かんで来た・思い付いた創作詩を、歌謡曲や地元は菩提寺の石行寺で習った和讃(叡山流)の原曲をそのままに、歌詞(詩)を入れ替えて、つまり、原曲に歌詞を乗せて、いわゆる替え唄(歌)にして楽しんでいます。詩の対象を図(表)―1のとおり四つに分類しています。

作り方としては、楽譜は、購入したCD添付のものやインターネットショップで購入します、パソコン上の「Adobe Photoshop」ソフトでその楽譜に歌詞(文字)を書き込んでいきます。同表のとおり合計は71曲です。その中では、同じような情景を言葉にするにしても、出来るだけ二度使いとならないように留意しています。替え歌の原曲は数か月位前から覚えて日頃、鼻歌で歌っているものです、出来上がるとラミネートにして自宅の入浴の時に、あるいは年に数回知人から誘われて行くカラオケ屋で楽しんでいます。

例示として、テーマ毎に代表的なものを次頁以降に記載します。

図(表)―1				
対象テーマ大分類	作成曲数	小計	備考	例示の補足
¹ N;日常の悲喜こもごも	2 1	3 7	詩について、帰宅後に一部補完したもの	N16(民謡調)
² F;ふるさと、当地区の風景	1 6			F13(和讃調)
³ R;歩き旅に直接係る心境	2 5	3 4	詩について、スルーハイク中に完成したもの	R12(唱歌調)
⁴ K;私ごと	9			K08(歌謡曲調)
計	7 1		---	

N16 和気のお茶の間

(原曲「黒田節」)



さ - け は - の め - の め - の む - な - ら - ば - -
 え が お を - も ち - よ り - か お - あ - わ - せ - -
 あ な た は - い - つ も - お だ - や - か - で - -
 か た っ て - ぼ ん - ぐ の - わ た - し - ご - と - -



ひ の - も と - い - ち の - こ の - や - り - を - -
 さ ん - ぜ を - さ か な に - わ き - の - せ - き - -
 い な - ほ の - と - く を - つ た - え - ん - と - -
 き - - く は - な み だ の - あ な - た - ご - と - -



の み - と る - ほ - - ど に の む - な - ら - ば - -
 あ ま - た の - は な - し は う ず - を ま - き - - -
 し ん - に よ の - の - り を ひ と - り ご - と - - -
 か ん - な ん - し ん - く を よ せ - あ つ - め - - -



こ - れ ぞ × ま こ - と の - く ろ - だ - ぶ - し
 ち きゅう を × ま - - わ り - お て - も - と - に
 そ の ひ と × こ - - と が - と う - と - け - れ
 す - い も × あ ま - い も - あ じ - く - ら - べ

地球を廻りお手元に

数多の話は渦を巻き

三 さん あまた (過去・現在・未来) 世を肴さかなに和気わきの席

一、笑顔を持ち寄り顔合わせ

三、語って凡愚ぼんぐの私ごと

聞くは涙の貴方あなたごと

艱難かんなん辛苦しんくを寄せ集め

酸すいも甘いも味あじ比べ

その一言ひとことが尊とうとけれ

真如しんじゆの法のうを独り言

稲穂の徳を伝えんと

二、貴方はいつも穏やかで

(注1) 音符直下の歌詞は、「黒田節 (福岡市の黒田節、誕生の地は京都市伏見)」の1番目の歌詞

(注2) 替え歌の詩は大沼香作 2017 (H29) 年1月23日 (月)

F13 故郷祝い歌—和讃Ver. (原曲「夢和讃」)

山タ六ウヨヨ

こ—の—ふ—る—さとの みな—さ—ま—が—
 あい—さつ—こ—そ—が きめ—ど—こ—ろ—
 い—ちど—か—ぎ—り—の えん—な—の—で—
 けん—そ—は—な—れ—た ふる—さ—と—に—

山タ六ウヨヨ

ゆ—め—を—は—な—びで うち—あ—げ—る—
 と—お—り—す—が—りに えし—く—す—る—
 す—ぎ—し—こ—と—など わき—に—お—く—
 す—み—か—や—か—た—を かま—え—も—つ—

山タ六ウヨヨ

ほ—し—が—し—た—え—の だ—い—キャン—パス—に—
 つ—ね—の—あい—さ—つ きず—な—に—かわ—り—
 も—つ—と—し—り—た—く しゅぎ—よ—く—を—さが—し—
 ぶ—んぶ—り—よ—ど— いき—が—い—ま—な—び—

山タ六ウヨヨ

き—ぼ—が—ち—ら—ば—り じゅ—の—も—じ—さい—た—
 た—め—た—き—ず—な—が つよ—さ—を—ひ—め—る—
 あ—け—て—び—く—り— た—ま—て—の—お—は—こ—
 い—の—ち—な—が—ら—え い—の—ち—を—と—じ—る—

ツメ味

か—け—ら—を—ひ—ろ—い ポケ—ット—に
 い—ぎ—ほ—ん—ば—ん—で ば—か—ち—から
 あ—な—た—ご—こ—ろ—の ご—ぼ—せ—い
 た—の—し—く—し—よ— お—も—し—ろ—く

山タ六ウヨヨ

さ—め—ず—に—つ—づ—く(う)— ゆ—め—み—う—た—
 な—ん—で—も—かな—う(う)— き—ず—な—う—た—
 お—ん—ぶ—を—か—ら—め(え)— さ—ん—の—う—た—
 あ—か—る—く—つ—ど—う(う)— い—わ—い—う—た—

(短歌)
 持ち味を霧で吹上げ虹創る
 それぞれの生き方書いてカルタ取り
 アーチの色はダイバーステイ
 互いに学び深まる絆

- 一、このふるさとの 皆様が(8・5)
 夢を花火で 打ち上げる(7・5)
 星が下絵の 大キャンパスに(7・7)
 希望が散らばり 寿の文字咲いた(8・7)
- 二、挨拶こそが 決め処(7・5)
 通りすがりに 会釈する(7・5)
 常の挨拶 絆に変わり(7・7)
 貯めた絆が 強さを秘める(7・7)
 いざ本番で ばか力(7・5)
 何でも叶う 絆な歌(7・5)
- 三、一度限りの 縁なので(7・5)
 過ぎし事など 脇に置く(7・5)
 もっと知りたく 珠玉を探し(7・7)
 開けてびっくり 玉手のお箱(7・7)
 貴方心の 五芒星(7・5)
 音譜を絡め 讃の歌(7・5)
- 四、喧噪離れた ふるさとに(8・5)
 喧嘩離れた 住処館を 構え持つ(7・5)
 すみやかた 文武両道 生き甲斐学び(7・7)
 命永らえ 命を閉じる(7・7)
 楽しくしよう おもしろく(7・5)
 明るく集う 祝い歌(7・5)

(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会会山流詠歌和讃音譜集に掲載
 (注2)替え歌の詩(短歌・和讃)は大沼香作 2015(H27)年6月6日(土)

R12 四国遍路の歴史に足跡

(※A) 一、四国の札所を 小さな丈の
 短い二足で 貫(完)歩を果たす
 どこから生まれる 秘めたる力
 仏と神との 加護の賜物

(※B) 三、多彩なへんろと 時空を溶かす
 地元の皆とは 世情を語って
 弘法大師も 仲間に入る
 再会夢見る 多次元世界

<二つの替え歌>

二、参詣順序に こだわり続け
 歩点を繋いだ 形を見れば
 一筆絵書きの 奇怪な魚
 魔性の美影が 四国に写る

四、魂揺さぶる 聖なる境地
 長きに栄えた 歴史と文化に
 汗玉落として 吾が身を刻む
 理想へ誘う へんろの精華

(※A) [原曲は星の界(よ)・星の世界/讚美歌]

つ きなきみそら に き らめくひかり
 し こくのふだしょ を ち いさなたけの
 さ んけいじゅんじょ に こ だわりつづ け
 あ あそのほし か げ き ぼうのすが た
 み じかいにそく で か んぽをはた す
 ほ てんをつない だ か たちをみれ ば
 じ んちははて な し む きゅうのおち に
 ど こからうま れ る ひ めたるち から
 ひ とふでえが き の き かいなさか な
 い ぎそのほし か げ き わめもゆか ん
 ほ とけとかみ と の か ごのたまも の
 ま しょうのみか げ が し こくにうつ る

(※B) [原曲は冬の星座/S 2 2年文部省唱歌]

こ がらしとだ え て さ ゆるそらよ り
 た さいなへん ろ と じ くうをとか す
 た ましいゆさ ぶ る せ いなるきょう ち
 ら じゃにふり し く く すしきひか り よ
 じ もとのみな と は せ じょうをかた っ て
 な がきにさか え た れ きしとぶん か に
 も のみないこ へ る し じまのなか に
 こ うぼうだい し も な かまにはい る
 あ せだまおと し つ わ がみをきざ む
 き らめきゆれ つ つ せ いざはめく る
 さ いかいゆめ み る た じげんせか い
 り そうへいざ な う へ んろのせい か

(注1)楽譜はインターネットのフリーサイトより拝借したもの (注2)楽譜直下の歌詞は原曲のもの (注3)替え歌の詩は大沼香作 2015(127)年6月6日(土)

R13 吾が四国へんろ讃歌

(原曲「山路越えて」讃美歌404番)



▷	しこくへんろは	たいとう	ごけいの	むしょうの	(エール) Ye-ll-が	とびかう	ひろば	
1	へんろみちは	しきに	たえて	やまたに	こえゆき	ひとよを	つなぐ	
	うつりかわる	けしきの	なかに	くもみず	ながれの	おしえを	まなぶ	
2	へんろやどの	いちご	いちえ	はつみの	おかた	とかい	わがはずむ	
	つきぬゆめを	かたち	したく	かなえ	るちから	をみな	からもらう	
3	へんろたびは	あせが	たきで	しがらみ	たちき	るみそぎ	のぶたい	
	にしやき	いたの	さかいは	いずこ	(リスターティングゼン Re star ting then	スクラップ Sc rap	アンビルド) and Build	ほぼこれど
▷	しこくへんろは	れきしと	しぜんと	われらが	とけあ	うす	てきな	
							(ワンダーランド) Won der land	

(※1) 禅語の「行雲流水(雲が山に阻まれても、水が岩に邪魔されても、何事もなかったように通り抜けて行く)」より。

(※2) 遍路菅笠の偈文「迷故三界城、悟故十方空、本来無東西、何処南北」より。

(※3) 禅語の「どんな環境(T.P.O)も、自分を高めるための自己研鑽の道場である。」より。

▽ 四国へんろは 対等互恵の

無償のYesが 飛び交う広場
(心の基層にある)

一、へんろ道は 四季に耐えて
山・谷越え行き 人世を繋ぐ
山(やま)・谷(たに)越え(ゆ)行き(ゆ) 人世(ひとよ)を(つな)ぐ
移り変わる 景色の中に

(※1) 雲・水流れの 訓えを学ぶ
(くも) (みず) (あし)

二、へんろ宿の 一期一会
初見のお方と 快話が弾む
は(っ)み (か)い(わ) (は)す
(初対面) (同志)

尽きぬ夢を 形にしたく
叶える力を 皆から貰う
(かな) (か)い(な) (み)な

三、へんろ旅は 汗が滝で

しがらみ断ち切る 襖の舞台
み(た)き

(※2) 西や北の 境界は何処!!
(東西)南北 (な)な(だ)ら(う)ら(う)!!

Restarting then
Scrap and Build
(生命力を再起動し再築だり!!)

(※3) 歩々は道場
ほ(ぼ)こ(れ)ど(う)じ(ょう)

▽ 四国へんろは

歴史と自然と吾れらが
素敵なWonder Land
(天) (地) (人)の(三才) (不思議の国)

(注1) 楽譜は「讃美歌21(日本キリスト教団出版局より)、
作詞:西村清雄、作曲:アメリカ人?」
(注2) 替え歌の詩は大沼香作 2017(4129)年6月1日(木)

R26 「へんろ旅人」 (替え歌； 原曲は”縁むすび音頭”)

1. わか - い さ - くら が ほ - ころ びに おう ちよ - っ と お め か し
 ある - く ま - いに ち あ - る き が し ご と な に が も く て き
 こ - こ - ろ ひ - ろ び ろ ろ - う に っ く な ん に よ し こ く ふ だ し ゃ に
 へん - ろ ま - り ゃ く の ル - ツ ポ に は ま り か み や ほ と け と

か - お あ - わ - せ は な し は ず ん で わ ら い - も つ つ く あ お - ば
 と - い つ - め - る こ た え う か ば ず し ん ぼ - う が ま ん な み - だ
 つ - ど い - く - る へん ろ お や ど に な ご み - が し み る み な - の
 う - ず を - ま - く て ん ち ひ と と の さ か い - め う せ た ふ し - ぎ

わ か ば の め - も ふ - い - て えん - を - - と り も つ
 こ ぼ れ る へ - ん ろ - み - ち へん - ろ - - た び び と
 も ち あ じ リ - ス ペ - ク - ト へん - ろ - - た び び と
 せ か い へ と - け て - い - く へん - ろ - - た び び と

えん を と り - も つ う - れ - - し - - - さ - よ -
 こ ころ な み - だ ち し - ま - - も - - - よ - う -
 い ち ご い ち - え を か - た - - り - - - あ - う -
 しゃ ば に も ど - り て す - が - - す - - - が - し -

歩く毎日歩きが仕事 何が目的問い詰める
 答え浮かばず辛抱我慢 涙零れるへんろ道
 へんろ旅人 ころろ波立ち 縞模様

心広々老若男女 四国札所に集い来る
 へんろお宿に和みが染みる みなを持ち味リスバクト
 へんろ旅人 一期一会を 語り合う

へんろ魔力のルツポにはまり 神や仏と渦を巻く
 てんちひと う
 天地人との境目失せた 不思議世界へ溶けて行く
 へんろ旅人 娑婆に戻りて 清々し

(註1)原曲の楽譜は「縁むすび音頭」

作詞・遠藤健二、作曲・遠山敦。楽譜直下の
 歌詞は同楽曲の一番である。

(註2)替え歌の詩は大沼香作 2024(R6)年
 6月30日(日)

K08 「独華（こか）」ーひとりばなーが散り逝く

(原曲「長崎の雨」の替え歌)

あ め が ふ - る -
は な が さ - く -
も え る の - さ -
ひ と り ゆ - く -

※1;楽譜直下の歌詞は、原曲ー(歌唱;川中美幸/作詞;たかたかし
/作曲;弦哲也)の1番の歌詞
※2;替え歌の詩は大沼香作 2018(H30)年6月30日(土)

1. 一つの^{からだ}身は七色模様で
甘^{あま}くて塩^{しお}辛^{から}の稀^{まれ}な味
時おり奇妙な光や音が
触^{さわ}って見れば赤子^{あかご}の匂い
謎の姿よ何ものか
それは俺だよ独り^{はな}華”が咲く
2. 左か右かな自由自在で
常の視線は定まらぬ
だけど事あらば^{たましい}魂うずき
たとえ、火の中水の中
どこかチグハグ何ものか
それは俺だよ熱く燃えるのさ
3. 盛^{さか}りを惜しまずポトリと落ちる
椿^{つばき}の如^{ごと}くに^{いさぎよ}潔く
三世(注1)を見^み護^{まも}る神はどこか?
菩提^{ぼだい}(注2)に住^すまう^{ぼとけ}仏を探し?
イエスキリスト(注3)主^{しゅ}よいずこ?
皆^{みな}を訪^{たず}ねて俺は独り^{ひとり}逝^ゆく

(注1) 過去世・現在世・未来世、親・子・孫のつながりをいう。
(注2) 煩惱を断ち切り悟りを得た無上の境地をいう。
(注3) あらゆるものを包み込むこの宇宙の創造主をいう。

(end)

前段【Henro total-report No12】以外で、遊行中に浮かんで来た雑念から整理した創作短句の一部です。俳句・短歌の何たるやを勉強した訳ではないが、浮かんで来た言葉を並べたものです。ここにはないが他に個別報告書にも記載しております。

1. 身近な隣近所のこと

絆とは、と論ずる事に意味はなく日々のあいさつ続ける力
本物の絆の中身を^あ開け見れば一人びとりが輝くダイヤ
「防災」を安く仕立てる^{ようてい}要諦は^{みな}お隣り皆との日常会話
揺るぎなき契りを結ぶその^{もと}基は一番身近なお隣り近所
本番で力が湧き出るその^{わざ}技は日々に普通の笑みと声掛け

2. 全知全能の放出物語

7・5調と短歌の組み合わせです。

『 さあ逝くぞ生まれたとこへ戻るのさ 吾が残影に後は任せる 』

- 一、互いの特技見たいから ^{みな}皆の強み持ち寄って
あれだこれだと言ううちに 新たな絆生まれ来る
それぞれの持ち味並べ味見して ^{あまから}甘辛合わせ地産の地消
- 二、私の^{えて}得手を絞り出し ^{せんえつ}僭越ながら披露する
貴方の振りに刺激され もっとないかと捜し出す
本領と残余の力が奮い立ち 隠さず逃げずそのまま姿
- 三、陰に日向に辛抱し 前を向いては頑張った
一隅照らす人となり 全知を絞り世に返す
あの世まで持つては行けぬ賢さを 今世に置いて裸で逝くよ
- 四、持って生まれた才能は 授かりものと思うなり
全部を捧げ世に放ち 全部(を)吐き出し空っぽに
逝くまでに俺の全てを出し切れれば 抜け殻だけは地球に残る

3. 7・5基調で『山』を詩う

- 一、山は動じず^{たいげん}泰然と 天空目指し盛り上がる
月が手助け雲ができ 水を育み川を生む
- 二、動物達が跳ね回り 鳥も^{さえず}囀り飛び回る
春は山菜秋きのこ 山の恵みの^{たからやど}宝宿

三、光合成の神様が CO_2 を食べて酸素吐く
草木が育つオアシスは 大樹を育て森を生む
四、木々の装いは葉を織って 春夏に盛え躍如足る
秋に色付き冬枯れる 山紫水明御山の美

4. 7・5基調で『川』を詩う

一、清水の一滴小川生み 中間を集め大河成り
水が動けば男の身 止まった水は女の身
二、あらゆる物の混濁を 合せ砕いて呑み込んで
川は流れて海に出る 祓え戸神が咎を消す
三、邪魔もの交わし下り旅 出会いを求め命懸け
河口で見合いペアリング 真水と潮がエクスタシ
四、自由自在の川流れ 自分で決めた道を行き
四角と丸と争わぬ 山紫水明御川の力

5. 青筋の再生（7・5調）

幼子お尻の青筋が 俺のお尻に生えて来た
幼児返りの生きざまよ 涙もろくてへし折れる
ほぐすに解けず絡まって しがらみ糸が太くなる
あそこにここも小痛みが いよいよ来たか観念か

6. 自由への願望フレーズ

いつも持ち続けたい願望は『自由』です。誰からも縛られない、誰をも縛らない、逝くまで自己真我の確信で生きたいと念じています。自分に言い聞かせている言葉があります。

「 真の協調は、対等互敬(恵)が解る仲間だけに生まれる 」です。

「 自由が至高のお友達、真摯なる真我が真師 」です。

「 自由奔放・融通無碍は命の血潮の盃 」です。

「 独を立ててその個を磨くその術は日々迷わず真我と対話 」です。

「 人生の推進力は夢で持つ 」です。

「 “自由”を錦の御旗に生涯学習！ 」です。

「 妻を縛り妻から縛られ、夫を縛り夫から縛られ、それが相思相愛とは仮面夫婦 」です。

7. 平凡な日常のあれこれの心情 (57577)

人生の高みを目指す推力は 夢と決意のコラボエンジン
人生の縦糸横糸夢で編む 丸く作って花火に乗せる
問いかける吾の人生どう描く 宇宙と対話思うが儘に
内情は^{わたし}私心の清濁を 棒でかき混ぜダイヤを作る
この俺の^{ちゅう}中を貫く大道を 日々に磨いて不朽の軸に
^{おご}奢るなよ我が身の素性立派なの 上には上が多彩な人が
あれこれと他人の事より^{われ}我の事 もっと謙虚にさらなる努力
憧れてへんろの旅に出て見たが 何も浮かばぬ無心の世界
激動の平成時代振り返る 子供育ては戦場模様
六十で定年退職自由の身 日々の仕事が街道歩き
この力どこから来るのか川に聞く 水に聞けよと枯れた石ころ
この胸の神や仏やキリシタン 車座囲み宇宙を語る
祈るとは乞う姿勢ではありませぬ 己に誓い自ら進む
奥深い^{ぬか}信仰心とは何ものか 額づくだけで信心なのよ
この俺は歳を食えども鼻たれよ 生まれた頃に戻る哀れさ
いざ往かん終息前夜の花祭り スマホ片手に地球と語る
初顔も対等互啓(恵)のへんろ旅 華嚴世界の^{いんだらもう}因陀羅網
^{ますらお}益荒男と^{おなごゆ}たおやか女性行き混じる 一期一会の壮大ドラマ
集い来る生まれも育ちも違う人 違えばこそ華嚴の仲間
お陽様の白色光が散らばりし 歩禅行場に七色の虹
意味あるの[?]天地と人とどれが先 グラデーションの華嚴が世界
四国から歩点の道を高野へと へんろに響く大師のこだま
最終日結願ロード黙々と ただひたすらのお四国へんろ
色付きの多重人格アベコベよ へんろで^も揉まれ^ぶ益々振れる
いつまでも満開あれと思うなよ 萎み枯れるは世の常ならん

8. 愚痴 (7・5調)

あなたと俺は偉うのに
俺がオレ我と牙を剥き 俺だ俺だと胸を張る
仮面を被り悪魔なる そんな人らが跋扈する
専門馬鹿が荒探し 頭でっかち口に泡
^{あほうじ}ア縫自グルの巣窟だ 地元地域は見苦しい
社交辞令でこんにちは 外交辞令でこんばんは
あなたと^{わし}私は別ものだ

9.一人の歩き旅

(5-7-5-7-7)

大沼の歩く目的何とした かんしゃくげん 癩癩源のありかを潰す つぶ
街道をひたすら歩く目的は 邪鬼の心の洗濯修業

(7・5)

にせ 偽の社会と いつとき 一時は きれいさっぱり縁を切る
新たな人を追い求め 一期一会の爽やかさ

10. 私が好きな歌

(1) 一つ目は、人との新しい出会いを一期一会の心としているが、その心情を見事に歌いあげた中島みゆきさん（作詞・作曲&歌唱）のズバリ「一期一会」という歌（図-1）の紹介です。「人間好きになりたいために、旅を続けてゆくのでしょ

一期一会

見たこともない空の色 見たこともない海の色
 見たこともない野を越えて 見たこともない人に会う
 急いで道をゆく人もあり
 泣き泣き 道をゆく人も
 忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
 忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

1) みたこと-もない そらのいろ みたこと-もない うみのいろ
 2) みたこと-もない つきのした みたこと-もない えだのした

みたことも ない のをこえて みたこと-もない ひとにあう い
 みたことも ない のきのした みたこと-もない さけをくむ に
 (3) い

人間好きになりたいために
 旅を続けてゆくのでしょ

忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
 忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

1) そ い で み ち を ゆ く ひ と - も あ り な き な き み ち を ゆ く ひ と も わ す
 2) ん げ ん ず き に な り た い - た め に た び を つ づ け て ゆ く の で し ょ う わ す
 3) ち ご い ち え の は か な さ - つ ら さ ひ と こ い し さ を つ の ら せ る わ す
 (※1) わ す

一期一会の はかなさつらさ
 人恋しさをつのらせる

忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
 忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

(以下、1オクターブあげる)

忘れないよ遠く離れても 短い日々も 浅い縁(えにし)も
 (※1) 忘れないで私のことより あなたの笑顔を 忘れないで

れ ない で わ た し の こ と よ り あ な た の え が お を わ す れ ない で
 (※2) あ な た の え が お を わ す れ ない で (※2) あ な た の 笑 顔 を 忘 れ ない で

図-1

(2) 二つ目は、日本のロックバンド「THE ALFEE (ジ・アルフィー)」の「今日^{あす}のつづきが未来になる」(作詞・作曲；高見沢俊彦)が大好きです。歌詞の中の特に「・・・人生に勝ち負けなどない どれだけ自由に生きたのか・・・」のフレーズがとてもいいですね、まったく同感です。

昨日のつづきが今日になり
今日のつづきが明日になる
そんな事の繰り返し^が人生という旅
毎日頑張らなくていい
夢をポケットに詰め込んで
ゆっくり歩いてゆけばいい
自分のペースで…
そして春の日の風のように
夏の白い雲のように
自由な旅人になりたい
どこまでも広がる青空に
ずっと遠い未来描いていた
だけどそばに君がいるだけで
冷たい雨にも耐えられる気がした
昨日のつづきが現在(イマ)になり
今日のつづきが未来(ミライ)になる

当たり前の素晴らしい一日
もう一度やり直せたとして
もう戻りたいと思わない
迷い悩み歩いてきたこと
誇りに思うから
毎日張らなくていい
時々振り返ってみるのさ
懐かしい友や恋人たち
優しく微笑むよ
いつか秋の寂しげな夕陽も
冬の静かな雪景色も
大切な思い出に変わるよ
永遠につづくものなどない
若い日の恋が終わるように
人生もいつか幕を下ろす
その日その時まで
愛を歌っていたい
昨日のつづきが現在(イマ)になり

今日のつづきが未来(ミライ)になる
当たり前の素晴らしい一日
人生に勝ち負けなどない
どれだけ自由に生きたのか
だから君との青春は未だ終わらない
どこまでも広がる青空に
二人の未来描いて来た
そうさそばに君がいるだけで
どんな夢も掴める気がした
昨日のつづきが今日になり
今日のつづきが明日になる
何気ないほど・・・大切な一日
当たり前の素晴らしい一日

(end)

以上のとおりの「へんろ」で最終的には何を得たのか？ ご利益というものはあったのか？ ということについてです。

帰宅し娑婆に戻って何か人間性が向上したのか？ と自問します、しかし、何も変わりません、何も変わらないと自覚出来ます、あの歩き続けた長期間は何だったのか？ とまた自問します、また、こっそりと“少しは立派になったのではないか？” とまた自問しますが、やはり変わりはないのです。それはすなわち金銭的にも精神的にも大層無駄なことをやって来たということです。アクセルにもブレーキにも『遊び』が必要、人生の遊びはすなわち潤滑油も必要だよ、と強がりと言った処で言葉遊びに過ぎないのです！ 天皇陛下も総理大臣も死にます、憎まれっ子世に憚るといふ者も大概は平均寿命でしょう、私はただの人故に平均寿命で尽きることでしょう。

しかし、望みもあります。図-1は隣接知人宅内の梅の老木です、幹部分は一見、完全に枯れ果てた肌合いです、春一番、途中から伸びた若枝に見事な白い花が咲き、大きな実を付けます。図-2は中桜田地内知人宅内の栗の老木です、幹部分の中心部は朽ち果てて外皮1枚で持っています、梅同様に枯れた姿ですが、上半身から伸びた若枝に見事な栗がなります。いずれも半分よれよれですが、半分は活力が漲みなぎっています。

また、図-3は自宅近くの県営公園内の雪に押された孟宗竹の様子です、中央写真は根本付近で折れた一本とそれよりも細くても折れないものを含み先端が地面に着いてしまった竹群です。その周りの写真は折れた処の状態です。着目したいのは、頑張って折れないものではなく、折れて一見バラバラ状態、竹の体を成ていしていないが、かろうじて筋を通して息づいており、これに同情したくなります。



図-1



図-2

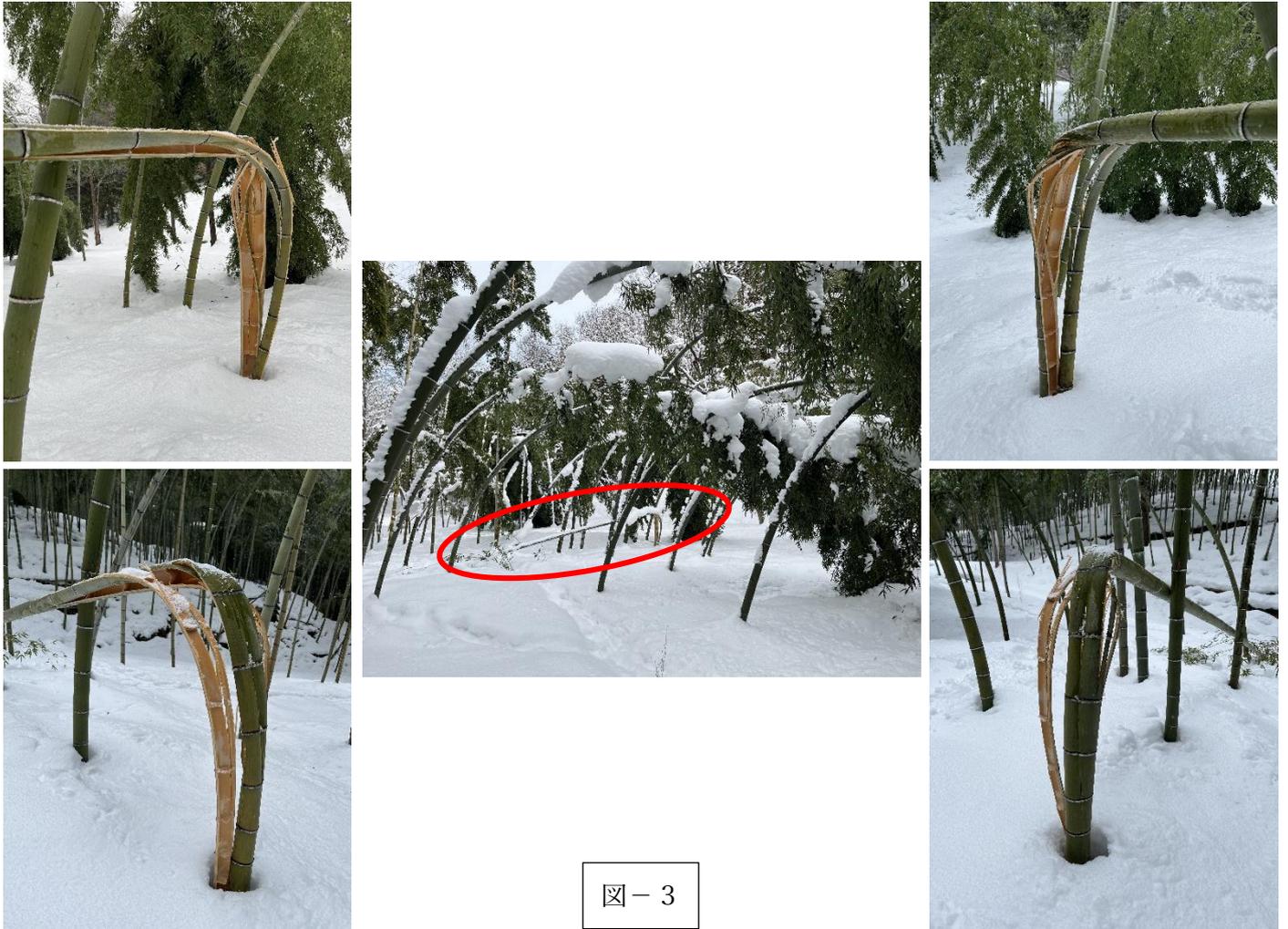


図-3

私の人生終盤はこの梅と栗と竹の老若混合、強弱同居に倣い最後の悪あがきをしたく、あれやこれやの作戦を練っています。

そして、「対等互敬（恵）」を真に理解している人だけとのお付き合いをします。口八丁手八丁の「指先と口先」だけの性格やマンキタゲ佞奸根性は遠ざけて、真に誠実な人——至誠・正直な人だけと楽しく生きて行きたいものです。

還暦過ぎてあの世行寸前まで仕事（収入を得る）をやっているは数多ありますが、私は、還暦の定年退職を機にこの15年間は遊び三昧でした。

.....

最後に、このような人間でありたい

「不_レ入_レ自縫袋」(ふにゅうじほうたい) 自ら縫った袋に入らない。

「不_レ縫_レ自凜立」(ふほうじりんりつ) 自らを自らが縫わずして凜と立つ

山形県山形市内在住（大沼 かおる 香）

(完)